用する所には、常に之に等しくして方向の正反對な さに正比例して、物體の運動が變化する。(3)力の作

うん-どん [饂飩](名) 小麥粉に鹽をまぜて水でか うんとん [雲屯] (名) O営の如く多く集まるこ うん-どう (評[雲堂](名) 僧堂の異称 と。母水差。支那流の煎茶道具の一。

うんぬん 湯[云云](名) ●しかじか。これこれ。 ため薄くのばし、細く切ったもの。うどん。 とどめる時に用ひる語。⊖いはれぬ事情。 連續した文を中途で切り、後の意をかくかくと言い

湯式](名) 地圏上に於ける高低などを陰影の濃淡 うんばん [雲版] (名) 寺院で合闘に打鳴らす樂 によって表はし示すもの。

器。青銅叉は鐵の板のまはりに霊形の模様なつけた

うん-びょう vn [雲表] (名) 雲の上。雲外。 うん-ぴつ [運筆] (名) 筆のっかい方。学の書き方。 うんばん[運搬](名)の貨物などを運ぶこと。日 られる消費税。關税・發送税・貯蔵税は之に屬する。 の一。消費物が取引賣買の爲、運搬せられた時賦課せ う)(運送業)。――ぜい[運搬税](名)【法]消費税 と。―きょうり、[運搬業](名) くうんそうきょ 【地】河水・風などが、土砂・砂礫等を流轉せしめるこ

うんぷ-てんぷ [運 否 天 賦] (名) 人の運の吉凶 **うん-びん** [雲鬢] (名) 公の毛の美稱。 うんびょうざっし : bt [雲萍雑志](名)【文 は、天の定める所であること。うんまかせ。 る所に特色がある。四巻。天保十四年(二五〇三)刊 **致で志士・仁人の言行を掲げ、世態・人情を描いてゐ** 柳澤洪園の和漢混淆文の隨筆で、平易暢達、自由な筆 行

うんでい[雲平](名)へうんべいとう」。ーさい **らん-ぼ**[雲母] (名)【劔】板狀叉は片狀の硅酸礦物 た干菓子。 ―とう 計[雲平糖] (名) 白砂糖に く[雲平細工](名)雲平橋で種種の形に作りあげ 糯粉をませ、少量の水を混じて捏れ固めた干菓子。

> うん-む[雲霧](名) ロ雲と務。日深い疑の譬。目 うんぼう い[縕袍] (名)わたいれ。ぬのこ。た うん・まかせ [運任] (名) 運に任せて事を行ふこ うん·ぼう = [雲亮](名)高く聳えるいらか。 うん-なう[雲夢](名)【地J支那楚國の七澤の一。 観る (句) (晋書の樂廣傳に出る)心のはれ やかで観る (句) (晋書の樂廣傳に出る)心のはれ やかで 奸臣が君主の明を蔽ふ譬。―を披いて青天を **ずの窓・電氣の経縁體等に用ひられる。 うんも。 き** と黒との二種がある。 白雲母は 硝子の代用・ストー で、花崗岩中に多く含まれ、頻離する性な有する。 「支那の里敷で方九百里。 白

うん-めい [運命] (名) 人の身にめぐり來る 善惑· 活を否定する退嬰主義に陥り易い。宿命論。 出來事は、先天的に定まってゐて、決して吾人の意思 て其の悲慘な解決を示した劇。――ろん [運命論 によって支配し得られないといふ説。 吾人の 努力牛 (名)【哲】(Fatalism)あらゆる自然現象及び人間界の 個人の意思と其の境遇及び運命との葛藤を主題とし 表的のもの。―-ひげき[運命悲劇](名)【文 ギリシャのモイラ、ローマのフォルトウナ等はその代 力によって支配せられてゐるといふ信仰又は思想。 吉凶の事情。人生諸般の出來事が、必然の超人間的な (名) 運命の神格化されたもの。 エジプトのシャイ めぐりあはせ。まはりあはせ。ーしん「運命神

うんめいでん[温明殿](名) 内裏御殿の一。神 **賢所。內侍所。** 鏡を安置し奉る殿。綾綺殿と宜陽殿との間にあった。

うんもん [雲門] (名) 【人】 支那後漢の禪僧。 雲門 らんも[雲母](名) 「魚」雲母を主成分とする片 選母を主成分とする片麻岩。片麻岩とは長石等を含 岩。 — へんまがん [雲母片 麻岩] (名) 【鶴】 む結晶質の變成岩である。

うん-やだい[雲屋臺](名) 雲中に樓間·臺舎など うんもんちく [雲紋竹] 種。皮に雲形の斑紋ある竹の (名)【植】斑竹の

うんゆ[運輸](名)(正しくは「うんしゅ」)貨物な の運輸に関する事務を掌る役所で、鐵道省七局の一。 ー-きょく [運輸局] (名) 【法】主として國有鐵道 ス・船舶・トラック等の運輸具との二つに分れる。 貨物運搬に関する機關で、湖・海・川・街路・鐵道・バ 運び送ること。―きかんく」、[運輸機關](名 ス等の運輸線路と、人力車・馬車・荷車・汽車・電車・バ

うん-ら[雲鑼](名) 明樂·清樂に用ひる一種の樂 うんよう[運用](名)はたらかし用いること。活 句)法を活用するの妙機は、其の人の心に存する。 術。一の妙は一心に存す(句)(唐書品飛傳の 用。――じゅつ [運用術] (名) 船舶を操縦する技

かけて小槌でうつ 横三箇づつ、更に 器。銅製の鉦を縦 上に一箇を木架に

うん-り[雲裏](名)雲の中。「用の喞筒。龍吐水。 らん-らん [雲蘭·柳穿魚] (名) 【植」玄巻(にも)科 生する。海岸の砂地に生する。 月頃梢頭に總狀花を著け、白色黄彩の假面狀花な密 ○糎位。葉は三箇輪生し、箆狀廣披針形で全線。十 の多年生草本。全株無毛で粉白、藍は直立し高さ三

らん-りょう [雲龍] (名) ●雲中の龍。●龍が雲に うんりゅう・すい [雲龍水] (名) 昔の消火 うんりょう [雲量] (名) [地 (Cloud amount) **梁って昇天する狀を描いた模様**。 氣象學上の用語。雲が空を覆ふ分量で、全く鑑なき を客とし、全空を覆へるを十位として観測する。

らんりん[雲林](名)霊のかかってゐる静かな林。 うんりんいん …… [雲林院] (名) (うりんい うん-ろう ……[雲廊](名) 雲のたなびいたやうに **『長くつづいてゐる廊下。**

そ[兄](名)兄又は姉の古語。「大ー」「一姫」。(弟(き))

(Z) (m)

ړ. (5 **i**)

え ●五十音闘「あ行」第四の音。●「あ」と「た」の中間 「衣」の草體。 母音。「い」よりも、口を稍で低くして發音する。●

え ← ●五十音闘「わ行」第四の音。●昔は「う」を從音 え[江](名) 海叉は湖水が陸地に入り込んだところ。 いりえの とし、「え」を主音とした綴音であった。〇「惠」の草體。

え [柄] (名) 手に持つに便ならしめる為につけた器 え [枝] (名) えだ。(古語) 之[肢](名) 手足。(古語) え [疫] (名)はやりやまい。えやみ。時疫。疫病。(古語)

え[在](名)【植】えごま(在胡麻)。 え[胞](名)えな。(古語)

え[榎](名)【植】えのき。 €[得](副)ょく。あへて。(下に打消の助動詞か反 え[宴](名)えん(宴)の略。さかもり。うたけ。(古

え[役](名) えだち。ぶやく。(古語) ★[綠](名)えん(綠)の古語。 『間の場合の登壁。 語の助詞を伴なふを例とする)「一行かす」。(古語)

え へ (助詞) 方向を示す語。「東−行く」。 爻(感)●歎く時の簽肄○(古語)●然器の簽聲。●疑

そ~ [重](接尾)かさなり。「ーー」「八ー」。

之~ [方](接尾)方角・位置・時を表はず語。「ゆく え~ [上](名) うへ(上)の古語。 ー」「しりー」「いにしー」。

交点 え ■ [會](名) 〇【佛】多くの人の集まって行ふ佛事 又は祭事。「法一」「放生一」。●集會。一七「會座」 (名) 【佛】法會の時、來集者の列する座席。

[笑] (名) わらい。ゑみ。 ―がお [[笑顔 [慧](名) 事理を分別する精神作用。

矣▲ [繪](名)(字の吳音)物の形象をゑがきあらは 壺の會(点)(何)一座の者が、すべて笑蛮に入ると。 入る(句)類りに笑ひ興する。顔りに面白がる。— ―一つぼ[笑壺](名) 笑い興すること。―壺に (名) わらび顔。にこにこ顔。 笑ひを含んだ顔つき。

え ▲ [餌](名) ●鳥獣・蟲魚を飼育し又は之を捕へ すること。--がら[餌殻](名) 餌のくひのこり。 金。一かい いる[餌飼](名)鳥歌などな餌で飼養 餌として與へるもの。●慾望の犠牲となるもの。 かもち竿でさして捕へること。又、その人。 ー・ガー (えば)。ーさし[餌差](名) 際の餌となる小品 魔などの餌を入れる合子。--さ[餌](名)(え)。 なさがして食ふ。! ごうし !! [餌合子](名) ーとう ** (ない) [餌飼ふ] (自動、八四) 餌 る爲に用びる食物。母人な誘惑する爲に提供する利 とが馴れて餌を食ふ程になる。ーずけるは ついないと「餌附く」(自動、カ四)小鳥や家畜な とること。又、その人。――じき[餌食](名)の ほり [餌掘] (名) 釣魚の餌にする蚯蚓などな掘り ー・どい 引[餌乞](名) 餌な乞ひ求めること。 (はははないけない)[餌附ける](他動、カ下一)何附く --ずき 計[餌附](名) ゑづくこと。 --ずく

辨當を入れる袋。母胃袋。 鳥。ー・ば〔餌〕(名)(えばみ)(餌食)の略。(え)。 (皮剝)。 -とり[餌鳥](名) 惚などが餌にする れる器の ―-ぶくろ[餌袋](名) ●鳥の餌を入れる袋。 (はかか) [餌食む] (自動、マ四) 鳥が餌を食む。 やうにさせる。―-つぼ [餌壺] (名) 鳥の餌を入 --ばみ[餌食] (名) ゑばむこと。 --ばむ **ーとり**[餌取](名) 屠者。(かわはぎ) e えい ★5 [衞](名) 【地】支那周代の岡名。周の武王の

えい [機] (名) ○冠の附屬具。兩端に骨を入れて羅 之い[影](名)かげ。えいざう(影像)。精姿。 立てて、各、檜な出しあって優劣を競ふこと。 どの種類がある。もと巾子(ご)の根を締めた紐のあ を張り、冠の後に捕むもの。 立綴・垂纓・卷纓・ 絢纓な

そあわせ いい[繪合](名)物合の一。左右に組な

である。●冠が脱 下げたものの名残 げぬやうに顎の下 まりを背後に垂れ

えい[類](名) 0の き。ほさき。 見植】禾本科

の苞。目鋭い才氣。才氣ある人物。一を脱す(句) ふ。えいだつ(類脱)。 (史記列傳平原若傳の句)錐は遊に包んでも自然と穂 先をあらはす意から人に秀でた才氣をあらはすない 植物の花の外部にある二片

[詠・咏] (名) ●詩歌を詠すること。うたふこ

えい[鋭](名) □するどいこと。□するどい武器。 目よりすぐった兵士。 と。くちずさむこと。
●作った詩歌。 [裔](名)●血筋の末。子孫。●國のはて。 [永](名)●ながさ。とこしへ。●永樂錢。

えい[郢](名) 【地】支那、春秋·戦國時代の楚國の都。 えい [祭](名) □さかえっぽまれ。□ひかり。□血液。 えい[曳](感) 應答の壁。力を込める時の掛壁。掛 えい [英] (名) ●花。花房。●すぐれた人。●【地】イ **えい** [營](名) ●陣屋。たむろ。兵營。●支那軍隊 壁。腹立ちて發する壁。――どえ 三 [曳聲](名) の名目で、五百人を一隊としたもの。 力を入れる時に發する聲。 の「進學解」の句)者中の要點や文中の妙處な玩味・會 ギリスの略稱。一を含み華を阻ふ (句) (韓愈 「今の湖北省荊南道江陵縣の地。

えい *5 [鱏・鱝・海鷂魚] (名) 【動】の板鰓類の海 り、鰓孔は五對で、腹面にあるが、鰓蓋はない。「あか くして尖り刺があって人を刺す。骨骼は軟骨から成 産魚。形間く扁く、鱗なく周邊に鰭があり、尾は細長 南省衞輝府・懷慶府に互れる地。四十二世・九百年で 西暦前二〇九年、秦に滅ぼされた。 弟康叔を祖とする。今の直隷省大名府開州以西、河

えい ゑ [醉] (名) (」よい」の古語) ●酔ふこと。よ えい[翳](名)のおほびかくすこと。くらりかすむ ことば。ー・ごと [醉事] (名) 酒に醉ってするわ 前條に同じ。一一ごと[醉言](名)酒に酔っていふ 狂ふ。 -- くるい 引~[醉狂](名) ゑひくるふ ざ。―-ざま [幹様] (名) 酒に醉うた有様。―-さ に酔うた時のよい無持。 --どころ [醉心] (名) こと。又、その人。 -- どこち [醉心地] (名) 酒 ひ。酩酊。●煩惱に心のくらむこと。——くるう えひ」「しびれえひ」など種類が多い。⊖へあかえい) 1~ {ミピス:':'}[醉狂ふ] (自動,ハ四) 解うて心が てこと。母かけ。母さしば。きぬがさ。

えいあずけがある[永預](名)江戸時代刑罰の一。 こと。目見得以上の武士に科した。 終身他家に預けておいて、邸ることを許さなかった ず(句)醉覚の水の味の旨さは下戸にはわからぬ。 の酔にまかせてすること。―覺の水下戶知ら 酔うて心が乱れて、何事にも泣くこと。 ーーふす つぶる)の口語。ーとれ「醉どれ」(名) 甚だし (名)酒に酔って倒れること。又、その倒れた人。酔うて分別がなくなる。――だおれ れ"〔醉倒〕 うて眠った後に目が愛める。――しぬ ないなっち -まぎれ [幹紛] (名) 酒の酢に粉れること。酒 行いけ](酢臥す](自動、サ四)酒に解って寝る。 く酒に酔ふこと。叉、その人。――なき [醉泣] (名) [ピドドダドダ][醉潰れる](自動・ラ下一)(えい (自動、ラ下二)酒に酔うて倒れる。—-つぶれる 徒らに暮す。ーーつぶる (おいなるる) (酔潰る) 酔うて潰れるやうにする。⊖酒に酔うて其の日を 一つぶす 行いけ [節潰す](他動、サ四)の ーしる いれいきると[醉痴る](自動、ラ下二) 「酢死ぬ」(自動、ナ變)死にさうになる位酔ふ。 て心が観れる。(古語)――さめ[醉覺](名)酒に酢 たる (記しいる。) [風醉る](自動、ラ下二) 解っ 酒に酔うてしだらない姿になる。(古語) —-さま またどる(なななる。) (酩酊る)(自動、ラ下二) えいかい [英貨] (名

えいあん-ほう …」 [永安法](名) 二宮草徳の報 えい-あんもん [永安門](名) 平安内裏内郭十二 とも称する。 門の一。内裏の南面、承明門の西にある門。右廂門 に機績し、報德事業の進展と報徳財の増加を計る法。 ぬやうに、 團體の力によって報德仕法の 孤旨心永遠 徳仕法様式の一。衰額な復興した後、再び衰額に陥ら 緻き増殖する法は、大日本報徳社の實行案である。 を本人又は相續者に善報金として交付し、 残金を引 以て增殖し、元利が百圓に達した時、その牛類五十圓 安法實行に際し、報德社より社員に交付する證券。 一口元金十圓を納付すれば、永遠に保管し、四分利を

| そい-い --- | 英偉] (名) ロすぐれておほいなることい-い --- | 榮位] (名) 名譽ある地位。 | (報意] (名) 一心に心をはげますこと。 と。日大人物。

そいそい [曳曳] (感) 日力を入れる時の掛撃。日えい・そい [警督] (名・副) いそがしく奔走するさえい・いき *** [登域] (名) はかば。暮島。 「ま。 えい・えん 然[永遠](名)いつまでも。世のある限 えいをい[永永](名・副)永久に。するながく。 間を超越した存在。永久に存在する性質。 债。永久公债。——七い[永遠性](名)空間·時 子を拂ふのみで、永遠に元金償還の義務を有せぬ公 り。――こうさい[永遠公債](名)【經】定期に利 [曳曳聲](名)力を込める時の掛撃。えいごゑ。 敷が調子を合はせてする時のかけ堅。ー・どえこ 関の聲。●笑ふ聲。―・おう[曳曳應](感)多人

えい-か [詠歌] (名) ●歌なよむこと。よんだ歌 られてゐる。こえいか。 花山院奉納の勅吟と傳へ、 ●巡禮又は浄土宗の信者などが歌ふ佛教和讚の歌☆

【植】稻・麥の知き禾本科之い-かい。[類果](名) イキリスの貨幣の



植物の果實の、單胞で異

えいあん-しょうけん [永安證券] (名) 【經】永

類)

えいか、に[類花](名)【植】禾本科植物の花で、 と稱する世片を有する花。 皮に密著する単種子な識するもの。 颒

えいがいた[映畫](名)の活動寫真の裝置によって えいがいい[榮華](名)時めき桑えること。さかえ。 幕] (名) 活動寫眞をうつす布。スクリーン。 て、映畫製作の為に演技する俳優。 --まく[映畫 或筋を有する芝居様式の活動寫真。——はいゆう 見る時にいふ語。一げき[映畫劇](名)物語や を實用本位・興味本位から離れて、一種の藝術として る。ー・げいじゅつ[映遊藝術](名)活動寫真 校教授に於ける場合と社會教育に於ける場合とがあ 活動寫真の常設館。一きょういく、……「映畫教 寫真に関係ある社合。―・かんくい。[映畫館](名) 寫眞盡。フィルム。一かい[映畫界](名)活動 映寫幕(パジ゚)に映寫された影像の動く現象。●活動 は、必ず衰へることのあることを表した句。一の 一の花(句)咲きほこる花に譬へて、祭えるもの 育] (名) 【数】活動寫眞を教育に應用することで、學 夢(句)榮華の永續せぬことを夢に譬へていった句。

えいがい [嬰孩] (名) (嬰は抱きかかへること。孩 えいかいのいて[詠懐](名) 心に思ふことを詩歌に かご。 は赤兒の初めて笑ふこと)あかご。みどりご。ちの

えいがいい、「営外」(名)兵管の外。ーきょ て兵營外に住居すること。 住するな本則とする陸軍の下士等が特に許可な受け じゅう 湯 [營外居住](名)【軍具營內に居

えい・がく [英學] (名) 英國の語學。英書を讀む學 之いかく[鋭角](名)【數」直角(九十度)より小な 家の著した歌學書で、人情と和歌との關係・和歌の乏いか・たいがい [詠歌 大概] (名) 【文】藤原定 形をいふ。 角形](名)【数】三つの角が、すべて鋭角なる三角 る角(鈍角の對)ーさんかくけい[鋭角三

> 正風の数の根本な説いたもの。一卷。 意・和歌の姿等、詠歌上の心得を漢文で書き、二條家

に、火を曳いて空中を飛ぶやうに裝置した榴散彈又之いか。だん。 [二] [曳火彈](名) [軍] 愛射した時

えいがものがたり……。[榮華物語](名) 説があるが確かでない。四十卷、系圖一卷。 を世繼又は世継物語といふ。著者は赤染衙門とい**ふ** である。卷毎に物語らしく題名をつけてある。一名 皇の覧治六年(一七五二)二月に至る百八十四年間 た歴史物語で、所載の年紀は、宇多天皇から堀河天 【文】藤原道長の榮華を主とした編年體の國文で書い

えい-き[盈虧](名) G【天】天體の光が、共の位置 えい-き [鋭氣](名) □鋭い氣暴。□鋭い氣勢。 たい・き [英氣](名) 秀でたす氣。すぐれた氣象。 えいかん-ぶし[永閑節](名) 江戸淨瑠璃の一派。 えい·かん [叙蔵] (名) 天子の御感。 によって増減する現象。●みちるとかけると。榮える **陸摩浄霊の四天王の一人、虎屋永陽を瀬とするもの。**

えいき-しょう[泳氣鏡](名) (Diving-bell) 対域 (名) [音]音の高さな えい・きゅう 罪[永久](名) ●永く久しいこと。 で、要塞の如きはその例である。――ちゅうりつ[永 久 築 城](名) 永久防禦の目的を以てし た築城 は頻緩製磁石の如きもの。ーちくじょういます 失はぬ磁石、叉、永く磁性を保つ物體。天然磁石叉 下合はせて三十二箇ある。ーーじしゃく「永久磁 外公債](名)【經パえいえんこうさい)。—-しなく、機械が運動を續けること。—-こうさい[永 **外運動](名) 外部からエネルギーを供給すること** 母時の無限に綴くこと。永遠。

−らんどう [永 は殆ど用ひられない。 下して工事を行ふに用ひる。潛水服が進步してから その他で造った鐘狀の器。人が中に入り、水中へ沈 と我へると。 石] (名) 【理】(Permanent magnet)磁性を容易に 「永久歯」(名)【生】乳歯の脱落後に生する歯で、上 「半音上げる記號(井)。

せいちゅうりつこく。 ちゅうりつ・とく[永久中立國](名](法]えい [永久中立](名)【法】 えいせいちゅうりつ。 ―-

えいぎょう 門(管業](名)の【法」管利の目的を えいきょ[盈虚](名)満ちることとかけること。 えいきょう いき [英京](名)【地】イギリスの首府 えいきょう いっ [影響](名) のかげとひびき。の 項・品目等を記して配附する文書。型録。 ――か て營む事業。 日商業上の事業。 ー-あんない [巻 以て行ふ事業。生計を立てる為に、繼續の目的を以 ぼすことの義となる。さしひびき。 影の形に從ひ、響の音に應するの意から、關係を及 と。--くみあい ……。[營業組合](名) 一定の 禁止](名)【法】行政處分を以て營業を禁止するこ を以て經濟的事業を營む會社。—-**きんし**[營業 業案内](名)商店又は會社が、其の營業上の事 いしゃ 二一、「營業會社」(名) 【法】營利の目的 「えいき(強虧)。 「ロンドン

要塞の如きはその例である。――ちゅうりつ 義務を負擔する者。替業人。 ――しゅうえきぜ 税につけ加へて營業者に賦課する地方税。―-てい 機関によって引受運用される信託。――ぜい「営業 ―しんたく [營業信託] (名) 【經】營業的受託 く[營業所得](名)【經」營業上より生する所得。 使用する人。支配人・番頭・小僧の類。 ―-しよと にん[營業使用人](名) 營業者が營業の為に 求に應する爲、資金を準備すること。——しよう 什器](名) 營業に使用する器具。 ーじゅん 準として賦課する租税。一じゅうき!に「営業 い……、[營業收益稅](名)【法】營業の收益を標 義を以て營業し、その營業より生する 一切の 櫃利 する特有財産。―-しゃ[營業者](名)自己の名 の弊害を防止する為に設けた公共團體。――ざい 地域に於て、同業者が共同の利益を圖り又は競爭業 税](名)【法】營業者に賦課する直接國税。 --・世 び [營業準備] (名) 【經】銀行が、預金引出しの請 さん [營業財産] (名) 【經】營業者が營業用に供 し [營業停止](名) 【法】行政處分によって、 いーふかぜい「營業税附加税」(名)【法」營業

> 費等の線稱。――ほうこく …… [營業報告] 度とする。――ひ[營業費](名)【經」營業を機模す す爲に設けた年度で、普通には、一年又は半年を一年 度](名)【經】答業者が答業の收支・損益の決算をな期間内答業を止めること。――ねんど、[答案年 (名)【經】會社・銀行などが、決算期に於て、營業年度 るに直接に必要な費用で、使用人の給料・原料の購買

えい-きょく[郢曲](名)【音】(「郢」は昔の楚の都 内の營業狀況を株主又は主務官廳に報告すること。 馬樂・風俗歌・朗詠・今様等の總稱。 ●今様風のうたひもの。卑俗な音曲。●神樂歌・儼 賦に「客有*歌"於郢中」者。」と。郢人の歌ふ俗曲の意) で、今の支那湖北省荊州府江陵縣の地。文選の宋玉の

えいきん[詠吟](名) 日詩歌を歌ふこと。日歌台 えい・きん [英斤](名)英國の目方の單位、ボンド。 で、歌を期吟する役の 我が國の舊百二十匁で、其の目方は一斤に近い。

えい・げつ [盈月] (名) 新月から満月に至るまでの えいけつ [英傑](名) オ智のすぐれた人。英雄。 えい-ぐら [榮遇] (名) 光榮ある待遇。名譽ある境 えい・ぐ [影供] (名) 神佛や故人の影像に物を供へ 間の月。此の間には月はだんだん個くなる。 供歌會](名) 影供の為に行ふ歌會。 「遇。 (名) 影供の為に行ふ歌會。—-**かかい**(b):[影 て祭ること。—-**うたあわせ**(b):[影供歌合] 供歌會](名)影供の為に行ふ歌會。

えい・こう***[影前](名)【佛】神佛などの姿をあえい・ごき…[衞護](名)ふせぎまもること。 えい・ど [英語](名)イギリス國の言語。しいこと。 えい-と [類悟](名) 人にすぐれてさといこと。賢之い-と [繁枯](名) 〇草木の繁ることと枯れるこ えいげん-じ[永源寺](名)【佛J滋賀縣愛知(以那 臨濟宗の一派。『と。母榮えることと衰へること。 頼の建立、関山は寂室。この宗派を永源寺派といふ。 山。後村上天皇の正平十六年(二〇二一)佐佐木氏 --は[永源寺派](名)【佛】水源寺を本山とする 高野(タピタ)村字高野にある寺で、臨済宗永源寺派の本

えい・どう。四[永劫](名)極めて永い年月。やう えいこうか、[永巷](名)昔、支那で罪ある宮女 らはし給ふこと。やうがう。『を幽閉した宮中の獄。 「も意)。 えいざん・すみれ「叡山菫菫菜·胡菫草」(名) 【植】菫堇菜科の多年生草本。葉は三裂し、製片に缺 の陰地に生する。あたごごけ。 地に自生する。えぞすみれ。

えいさい[類才・英才](名)すぐれた才智。又、そ えい-さ(感)重い物を押し又は引く時の掛壁。 えいこん [英魂] (名) すぐれた人の魂。 えい-こさく[永小作](名)【法]二十年以上五十 えいこくはけいざいがく 英國派經濟學 えい-こく [影 國] (名) 慰園。C影の形に附添ふが如 作人](名)永小作權を有する人。 (名) 【法】水小作の法律上の権利。 ―- にん [永小 耕作し又は牧畜すること。――けん[永小作權] 年以下の期限内で、小作料を拂って、他人の土地に 主張する學説の 人の利己心を經濟的原動力とし、國家の自由放任な (名)【經】アダム-スミスな 祖とする經濟學で、各個

科の一種。匍匐する根莖に鱗片を有す。葉は葉柄をえいざん-かたはみ [叡山酢漿] (名) 【植】酢漿 えいさく[營作](名)いとなみつくること。管造。 えい-さん [叡算] (名) 天子の御年齢。 えい-さっさ(感) 祝籠を急がせ、又は多数の人で物 えい-さくぶん [英作文](名) 英語の作文。 えい-さく[英作](名)すぐれた作品。 えい-さい [榮西](名)【人]禪宗臨濟派開祖の高 を押す時などの掛撃。 建保三年(一八七五)寂。年七十五。 はり機僧正に補せらる。又、茶種を齎して栽培した。 後、また實勢の為に鎌倉の壽福寺に住す。紫衣を賜 度入朱し、頼朝に論ぜられて京都の建仁寺に住し、 僧。明菴と號し、千光圀師と稱す。備中國の人。再 れを有する人。 えいじ-ぎん[永字銀](名) 江戸時代の貨幣。資 えいしき [英式](名) イギリス関の法式。 即あるもの。 永七年(二三七〇)に鑄造した銀貨で、「永」字の極 ぶん [英字新聞] (名) 英文で記載した新聞。

えいじ [英字](名) ィギリス國の文字。――しん えい-し *5···[衞士](名)守護の兵士。(えじ)(衛 えいし[詠史](名) 歴史上の事質を詠んだ詩歌。 えいし[英姿](名)すぐれたななしい姿。 えいざん-ゆり[叡山百合](名)【植」やまゆり。 えいじ[嬰兒](名)あかこ。ちのみこ。みどりこ。 えいし[榮賜](名)名譽あるたまもの。 えいし[燈死](名)たふれ死ぬこと。 えいし [鋭師](名)勢の鋭い軍隊。よりすぐった軍 えいし[叡旨](名) 天子のおほせ。主上の思召。 爽(句)すぐれた姿の如何にも雄雄しく見えるさま。 刻がある。春、淡紫色大形で芳香ある花を開く。山 いし [英志] (名) すぐれた志。 いし[英資](名)すぐれた生まれつき。 いし [英詩] (名) 英語の詩。 ޱ)° 勢

えい-じつ[永日](名)●朝から晩までの永い日。 えいじ-ちょうぎん [[永字丁銀](名) 永 などに用ひる語で、「いづれ他 ある。銀四・銅六の割合。 学銀の一。縦舊三寸二分。横舊一寸。重量舊四十七 日にゆるゆる」の意。 はるなが。春日。●別れの挨拶の時叉は手紙の終り タ八分。 兩頭に資の字二つ、中に「永」の字の極印が

えいじはっぽう ての文字に共通する八種の の一法『永」の一字で、總べ [永字八法](名)書法傳授 運筆法。側(上點)•勒(♂)(€

えいざん-ごけ [叡山苔] (名) 【植」巻柏(5世)科の

冬は樺色に變する。

深山

は白色で淡紅な帯び、淡紅色の線像を有し、花後、猫 具へ、廣倒心臓形の三小葉より成り、毛茸を有す。花

> 英の蔡邕(***)の考案。 捌)・啄(t)(左跳)・磔(t)(右捺)の八種を示したもの。 横)・勢・(中直)・趣(*)(下勾)・策(左挑)・掠(い。)(右

えいしゃく [榮爵] (名) 貴い爵位。 えいしゃ[映寫](名) うつしとること。うつすこ 真を映寫する幕。スクリーン。 [映寫機](名)【機】活動寫員のフィルムをスクリ と。うつし出すこと。活動寫真をうつすこと。---き

えいしゅは[衞戍](名)【軍」陸軍の部隊が、一 えい-じゅ[永壽](名) 永い壽命。長命。長壽。 えいしゅ[嬰守](名)城に籠って守ること。籠城の えいしゅ[英主](名)すぐれた君主。 定の土地に久しく駐屯して守備すること。--えい

管・供給及び衞生部下士以下の教育を掌る所。 の定むる所による患者を收容治療し、衛生材料の保 の病院で、その所在地陸軍部隊の患者及び陸軍大臣 【軍】荷成する一定の區域。――びょういん こんち 御成地の警備に任ずるもの。―ち[衛成地](名] 令官](名)【車】衞戍地の衞戍上の事務を糗轄し、る陸軍の兵士。——しれいかん ===== [衞戍司 [衞戍病院] (名) 【軍】衞戍地に設けられた陸軍 ヘい : [衞戍衞兵](名)【軍」衞戍勤務に服す

そいしょ[營所](名)【軍」兵營。兵士の集まってゐ えい・じゅう いっ[永住](名) 水くその土地に居住 えい-じょういで[嬰城](名) 城にたてこもるこ えいしょう[詠誦](名)歌などを聲を出してよむ えいしよは、[衛所](名)●番兵を置いて守る所。 えいしょ[英書](名) 英語の書物。しる所。陣屋。 えいしゅん [英俊](名) すぐれた人。秀でた人。 えいしゅう[影從](名)影の形にそふやうにつき えい-しゅう … [瀛州](名) 支那で、海中にあって 母敷設水雷のある所な監視し、その發火な掌る所。 神仙の住むといふ三神山の一。 すること。 「從ふこと。 ٤٥

之い-じょく[榮辱](名) ほまれとはづかしめと。 山東省の東端にある海濱で、明治二十七八年戦役に 所とならせられ、明治元年三月十八日皇太后と尊稱 月十四日、孝明天皇の皇太子であらせられた時御息 我が第二軍の上陸した地點。 せられた。明治三十年一月十一日崩御。御年六十五。 忠の御女。天保四年十二月十四日御誕生。弘化二年九 后](名)孝明天皇の皇后。御名は 夙子(ポ゚゚)゚九條尚

えいじん[鋭刃](名)ょくきれるするどいや えいしん [詠進] (名) 詩歌をよんで、朝廷又は神 えい-しん [禁進](名)高い官位に進むこと。 榮譽と恥辱。榮えとおちぶれと。 ば。よく切れる刃物。 「社に奉ること。

えいするいなかでと、「映す」(自動、サ變)のうつ えいず (やいけいかい)[詠ず](他動、サ機)の詩歌を えい-じん[英人](名)ィギリス人 作る。●詩歌を聲高く吟誦する。

えいせい [管生](名)のくちすぎ。なりはひ。の 生命を保存永續せしめること。 る。母反射する。かがやく。

えい-せい [叡聖] (名) 天子のすぐれて賢明にまし

ぐれて賢明にましまし、文武の徳を衆備し給ふこと。

ますこと。――ぶんぶ[叡聖文武](名) 天子のす

えい-せい[永世](名)かぎりない世。永代。永年。 [永世中立](名)【法】國際上、强國が侵略セナ、年月の經過したことの長いこと。 ――ちゅうりつ で、これらは條約によって效力を生じて ゐる。—— る行爲をなすこと等をなし得ない義務のある國家 くは他國と同盟する等、國際間に爭議を生する虞あ りに、他國間の戰爭に關係し、又は保護な受け若し 又は侵略する者ある時は、共同して之を防止する代

いしょうこうたいとういき以英照皇太 ルギー・モナコ・ルクセンプルグ・スウ イス 等の如く ちゅうりつこく[永世中立國](名)【法】、 [永世無窮](名) 世のあるかぎり纏いてたえな 永世中立の權利·義務を有する國。 -- むきゅう ろく [永世祿] (名) 明治維新の際、

えいせい は [衛生](名) 身盤の健康を計り、疾 えいせい [衛星] (名) 【天J(Satellite)惑星の に關する事項を處理させる爲に、町村内义は一定 の掃除及び清潔方法・消毒方法・傳染病の段防・救治 上諸種の試験を行ふ所で、一般個民の依頼に應じて [衞生試驗所](名)内務大臣の管轄に屬し、衞生 の區域内に設けられた公共組合。——しけんじょ 所。--くみあい いる[衛生組合](名) 汚物 【政】衞生學の指示する所に從ひ、國民の健康を保全する。――ぎょうせい;――※[衞生行政](名) 内務省の一局で、衞生行政に關する事務を 取扱ふ 栗行政の二とする。―・きょく[衛生局](名)【政】 び自治園體になされる權力の行使で、保健行政と磨 **衞生に關する事項を研究する學で、醫學の一部に屬** し、國家の生存條件を完うせんとする爲に、國家及 衛生を重んする人。―がく[衛生學](名)【醫」 病の致防・撲滅を計ること。一か[衛生家](名 周閻を運行する天體の稱。地球に對する月の類。 族に下嶋された無期限の家隷及び賞典録

えいそう計[叡薬](名)天子のおつくりになった えいーぜん [管繕](名) 建築物を造ることと修繕す えい-せん [潁川] (名) 【地】支那河南省許州臨潁縣 えい・せん [永錢](名) □えいらくせん。□散類に たいそ[永祚](名) ●ながいさいはい。ながいよは 後世にまでも聞える程の大風。 「詩歌。御製。ひ。日えいそのかぜ。――の一かぜ [永祚風](名) ること。--ひ[營繕費](名) 替絲に要する費用。 といふ話を聞いて耳を洗ったといふ傳説のある川。 にある川で、支那の際士許由が、帝堯から位な譲らう

試験分析等をなす役所。東京と大阪とにある。

えい、ぞう 引 [影像](名) 繪畫又は彫刻にあらは えいそう 引[營倉](名)【軍」兵管内にあって、陸 えいそう 引[詠草](名)和歌の草稿。 込められる別。重替倉と輕替倉とある。 軍懲罰令による犯則者を入れる建物。又、そこに押 した神佛又は人のすがた。ゑすがた。にすがた。

> えい-ぞう い [映像](名)光線の風折又は反射に よって物像のあらはれること。又、其の物像。

えいぞく[永續](名)ながくつづくこと。ながも えい-ぞう ₹ [營造](名) ●家屋·倉庫などを造る 接公衆の利益を計る目的でつくる建設物。 園・闘書館・博物館等の如く、國家又は公共團體が、直 こと。日營造物。 ―- ぶつ [營造物](名) 日けん ちくぶつ(建築物)。●【法】學校・病院・鐡道・道路・公 T 50

えいたい[永代](名)永世。とこしへ。―きょ えいたい [映帯] (名) うつりあふこと。反映。 うきに、永代讀經](名)【佛」(えいだいきょう 月の忌日毎に永久に行ふ證經。―とう[永代講 権と同じである。―しょうもん [永代 證文] し、又は處分し得る權利。實際の效力は、土地所有 就数すること。--しゃくち[永代借地](名) う ♥ (永代經)(名)【佛】故人の為に、寺で毎 (名) 永代有效の證文。(年期證文の對) ――どきよ 土地を、條約圏の國民又は法人が永久に使用・收合 ん [永代借地權] (名) 【法】日本政府が所有する 【法】永代借地概を設定した土地。――しゃくちけ (名) 【佛】亡者の供養の爲に、毎年一囘寺院で信者に

えい-だか[永高](名)室町時代に、田畑の収穫を えいたい-ばし[永代橋](名)【地]隅田川の下流 永樂錢に見積って換算した高。 復興になるもので、橋長一八五米。 川町とな聯絡してゐる橋。現在のものは大正十五年、 に架けた鐵橋で、東京市京橋區大川端町と深川區相

えいたく [郢頭] (名) (莊子徐無鬼篇に出てゐる えい-たつ [荣達](名)高位に進むこと。立身出世 いふ寓言に基づく)詩文の添削な詩ふこと。 駅人の鼻端につけた墨を、石匠が斧で切り落したと

えい-だつ [類脱](名)(史配平原君列傳中の毛送 の音に、「使『迷蚤得〉處』、鑿中、乃類脱而出、非。特其 甕中からぬけでる義より轉用 した 語)才能の群を抜 未見而已,」とあることから出たので、錐のほさきの

えい-たん [詠歎] (名) ●聲を長く引いて歌ふこ えいたん[容歎](名)天子の御なげき。 と。●歌いほめること。●【文】文章で、深遠・强烈な いて秀でること。

えい-方[叡智](名) O深遠な智慧。 O[哲] Cinte-えいち[英智](名)すぐれた才智。 で、思惟するな得れど、到底認識すべからざる理性。 world)人が宇宙存在の一部として存在せる世界。 --せかい [叡智世界] (名) 【質](Intellectual す、

因果律に支配せられず、

絶對・自由なる

真の實在 llect)宇宙の本體の理性で、時間・空間の制限を受け

えいてつ[睿哲](名)智深く事理に明らかなこ えいてつ [英哲] (名) 優れて聰明なこと。 「と。 えい-ちゅう い[裔胄](名) 遠い子孫。末裔。 えい・ちゅう [營中](名) ●兵替の中。●將軍の居 えいちや-どうし **** [江市屋格子] (名) 普 えい-てん [榮典](名) ○光榮ある典例。○めでた 憲法第十五條に「天皇は爵位勳章及び其の他の榮典 位・動章の類。 ― じゅよ [榮典 授與] (名) 【法】 宗助といふ商家から起こったといふ。 通のより総子多く、透間の細い窓格子。江戸の江市屋 を授與す」とある。即ち憲法上大権事項の**一**。 い儀式。■【法】名譽を表彰する爲に設けた制度。聞

便。いつまでも。 えい-でん [營田](名) 王朝時代に官府が壯丁に耕 えいてん [祭轉] (名) 〇從來よりもよい官位に進 作させた田地。又、人民が私費で開いた田地。 んで轉任すること。●他人の轉任な稱する語。

詩歌の一體。

えい-どう 等[影堂](名) 一宗の祖師・一寺 えいとう(感) 勢よく進み行く時の掛壁 えいとう[鋭頭](名)の尖った頭の日するどい先。 離・一家の祖先等の影像を祀った堂。 ●【植】植物學上、葉尖」の意に用いる語。 ŏ

感情をいひあらはすこと。 **「**と。すぐれた決断。

えいない [管内](名) 兵管のうち。―きょじゅ えいとも、たいとも(感)物を曳く時などに愛す

が兵管内に居住すること。(管外居住の對) う 591 [營內居住](名)【軍」陸軍の下士など えいとな(感)或動作を起さうとする時に發する **たい−とく**[贏得](名)利を得るる。まうけること。

えい-だん [英断](名) 思いきりょく事を決するこ

といぶつ[詠物](名) 事物に託して、思を詠するえいよい[英敬](名) すぐれて雄雄しい姿。たいよい[英敬](名) すぐれて雄雄しい姿。たいよい[英敬](名) すぐれて雄雄しい姿。 えい-びん [穎敏] (名) さとりが早くすばしこいこえいつびん [鋭敏] (名) ロオの鋭くさといこと。ロ えい-び[曳尾](名)(莊子の秋水篇に、楚から莊子えい-ばつ[映發](名)光や色彩のうついあふこ たい-はく[曳白](名)(支那唐の御史中丞張倚のたい-ねん[永年](名)永い年月。 たい-ねん[永年](名)永い年月。 **えい-はつ**[英發](名)すぐれて怜悧なこと。 ず氣 の外にあらばれてゐること。 ならんことを望むこと。 られんよりも、郷園にあって、貧しくても身の安らか らうと、仕官を謝絶した故事による)仕官して束縛せ られるよりも、生きて泥中に尾を曳くことな喜ぶだ た龜の骨が祭られてあるといふが、龜は死後骨を祭 を宰相にしようと招いた時、楚には死後三千年を經 出づ〕詩文を作り得す、ただ料紙を持ってゐること。 ら、一字なら成し得なかった故事による。事類全書に 子爽(き)が、玄宗親らの試験の時、手に紙を持ちなが 「感じの甚だ鋭いこと。

えい-ぶん [英文] (名) イギリス國の言語、即ち英えい-ぶん [報聞] (名) 天子がお聞きになること。 えい‐ぶんてん [英文典] (名) 【文法】英語の文法 えい‐ぶんがく [英文學] (名) O【文】イギリスの 語で書いた文章。『文學。●英文學を研究する學問。

えい-れい [英靈] (名) ロイぐれた人。 ロ死者の鑑えいるい。 [答壘] (名) 陣管ととりで。

なす官邸の

えい-ろう [永年](名) 江戸時代刑罰の一。終

「身牢に監禁すること。ながらう。

えい-へい[鋭兵](名)●銭利な兵器。●剛勇な兵 士。精鋭な軍隊。

えいへいは「衛兵」(名)【軍」の警戒の為に配 えいへい-じ[永平寺](名)【佛】福井縣吉田郡志 比谷村にある曹洞宗の総本山。編井市の東約一六粁。 衛戍衞兵・儀仗衞兵・風紀衞兵の總稱。 し叉は巡回せしめる兵士。●守衞の兵士。番兵。●

えい-べつ[永別](名) □永久のわかれ。□室町時 代に、田地の計算に用ひた群呼。えいだか。 元元年(一九〇三)波多野義重の創建。

電車の便がある。開山は道元禪師。後嵯峨天皇の寬

えいまん[盈滿](名)物事が十分に滿ち足るこ えいまい [英邁] (名) ぬきんですぐれてゐるこ えい・ほう 三、「英法」(名) 〇イギリス國の法律。 ●英國の方式。 と。一の咎(句)(後漢書に出る)物事が十分に過

えい-みん [永眠] (名) 水き眠。死ぬこと。「名聲。 えい-めい [英君] (名) すぐれたほよれ。すぐれた えい-めい [英君] (名) すぐれたほよれ。すぐれた

きる時は、却って嗣が生じること。

之い一や[永夜](名) 暮れてから明けるまでの時間 えいもん [營門](名) 兵管の門。陣管の門。 り[永盛](名) えいだか。

えいやく[英譯](名)英語に飜譯すること。「聲。 えいーや(感)力を入れる時の掛撃。 ――おう(感) のながい夜。ながよ。 いふ掛壁。 --つ-と (副) ●力の及ぶ限りを蹴くし 力を入れる時の掛壁。ーーごえいる(名)でえいやしと て。うんと。●辛うじて。●力を込める時に發する

えいゆう [英雄] (名) ロオ智・武略のすぐれてぬ えい・ゆ [嬴輸] (名) (正しくは「えいしゅし)かちま 「雄家」(名)清華家の異称。――すらはい [英雄 る人。母公卿の家格。清華(けい)の異称。—-け[英)英雄の精神を讃美して之を崇めたっと

えいやらや(感)力を入れる時の掛聲。

の意表に出ることがある。 長じ、表裏多く、才智に任せて事をするから、往往人 好む癖がある。一人を欺く(句)英雄は衝策に 心とした物語。一色を好む(句)英雄は女色を ぶこと。――だん [英雄譚] (名) 英雄の事業を中

ん[榮譽權](名)の[法]榮譽の表彰を享有する權 えいよ [麻除](名) あまり。のこり。 らい 日のは [榮譽支拂](名)【経】(さんかしはら 利。日榮譽の表彰を授典せられる大橋。――しは

えいよう。, [榮養・營養](名)【生」生物が養分 えいよう 禁[樂羅](名)さかえること。はなや ひきうけ。 「かなこと。おごること。(えよう)。い)。――ひきうけ[榮譽引受](名)【經】さんか 整へ、體質の消耗を補ひ、生活力を維持すること。 な揺取し、消化・吸収・呼吸・排泄・循環等の諸作用を --- えき [祭養液] (名) 【生】體內の毛綱管の管壁

【生】攝取した榮養素が、體內で完全に利用せられず、 質。―しょうがい :==== [榮養障礙] (名) た後、生活體を構成し、動作發現をなずに必要な物 しつ [榮養質] (名) 【生】體內に消化・吸收せられ びカロリー敷によって決定せられる桑養價値。 1-―-か [荣養價](名)食物中の荣養素の量と質及

ち主として榮養の作用が不健全であること。 りょう いに[榮養不良](名)【生]榮養障礙 つ [樂養物](名) 榮養素を含んだ飲食物。 肪・含水炭素・ヴィタミン)に區別せられる。 主要成分で、無機性(鹽類・水)と有機性 (蛋白質・脂 養素](名)【生】人體を構成するに必要な食物中の 新陳代謝機能が順調に行はれない狀態。―-そ [祭

えいらく・せん[永樂錢](名)支那明の永樂九年えいらく[榮落](名)榮華と零落と。桑枯。 えい-らく [榮樂] (名) 榮華の樂しみ。 ○一四一一○に録造した青銅銭で、表面に永樂通費の 文学がある。室町時代から我が國にも通用したが、

> えいらく・やき [永樂燒](名) 江戸時代文化年間 えいらくつうほう [永樂通寶](名)え たものが世に珍重せられ、點茶家に愛玩せられた。 模倣して造った磁器で、金粉を用ひて古紋様を描い に京都の陶工善五耶保了が、明の永樂年間の磁器を 慶長年間に廢せられた。 「いちくせんの

この銀行で行ばれる。 百五十五萬三千磅の株式會社。國際間の取引は多く ロンドンにある。一六九四年の設立で、資本金千四 (The Bank of England.) イギリスの中央銀行で、

えい-り[管利](名)利益を管むこと。財産上の利 えいり[贏利](名)まうけ。利益。利潤。 えいり [鋭利] (名) ロ刃物の鋭いこと。 ロオ氣の たいり[祭利](名) 祭達と福利。 利を目的とする行為。―しほん[營利 斉本]舎社。―-こうい 湯、[營利行爲](名)[法]營 (名) 【法】營利の目的の爲に使はれる資本。——しや 益をはかること。かれまうけ。一かいしやいいわ 營利會社](名) 營利な目的として組織せられた

古語)の酒を飲んで酒氣が全身にめぐる。の酒を飲えらうまな(おかぶ)[醉ふ](自動、ハ四)「よふ」の

間。ありのとわたり。一はれつ「會陰破裂」

(名)【醫】産婦が分娩する際、會陰に製傷の生する

白質の液體で、身體諸器官に禁養を與へるもの。 からしみとほる鮮紅な血液から生出せられた無色蛋

【法】營利事業を營む社園法人。 以上の團體。――ほうじん 11"[營利法人](名) だん [營利社團] (名) 【法】營利事業を營む二人

えい-りん [管林] (名)森林を經管すること。! えいりょ[叡虚](名)天皇・上皇等のおぼしめし。 えいりゃく[英略](名)すぐれたはかりごと。 え-いり a.....[繪入](名) 書籍·新聞·雑誌などの間 官廳。東京・大阪・青森・秋田・高知・熊本にある。--木・賈拂等の事務を掌り、管林署の事務を監督する し、國有林野・公有林野・官行造林地の施業・計畫・土 きょく [營林局] (名) 【法】農林大臣の管轄に屬 よみほん [繪入讀本](名) 插畫のある小説類。 に遺を入れること。又、その物。さしる。 插遊。―

えいらん [叡覧] (名) 天皇が御覧になること。 えい-ろく [榮禄](名) 榮譽ある秩禄。さかえるさ えいろきょうやく **** [英露協約] (名)

えいり[英里](名)マイル(哩)。 えいらんきんこう……… (英蘭銀行)(名 「鋭いことの え-いん -----[會陰](名)【生】人の陰部と肛門とのえいる[英和](名)イギリスと日本。 しいはひ。

スとロシャ間に結ばれた協約。

リスの勢力圏となす事に就いて、一九〇七年イギリ シャの北方はロシャの勢力圏で、その東南方はイギ 【脈】アフガニスタン・チベットの 内致不干渉、ベル

は舟・汽車・電車などに乗って氣持がわるくなる。回 んで心風れ、様子がかはる。自衆人の中に交り、又

を奪はれる。 食物に中毒して苦しくなる。每一事に熱中して精神

エウエメリズム [Euhemerism](名)【哲】ギリ エヴィエーター [Aviator](名) 飛行家。 エヴァー・シャープ [Ever-sharp] (名) 〇常に 尖ってゐること。いつまでも鋭いこと。〇エヴァー ズム。神話史實說。歷史觀的神話論。 **崇の念から發遠したものであるとの説。ユーヘメリ** で、宗教の神に對する信仰は、君主や英雄に對する尊 シャの哲學者エウエメロスの説。神とは死者の銀魂 pencil](名) 繰出式鉛筆。 シャーア-ベンシル。—-ペンシル [Ever-sharp

エヴォリューショニ ズム [Fvolutionism] エヴェレスト [Everest] (名) 【地】ネパールと西 てゐる。世界第一の最高峯。海拔八八四〇米。 近く巨大な氷河を有し、まことに肚大な山姿を示し 藏との國境に鋒ゆる山。ヒマラヤ山脈に闊す。項上

啓林局の下にあって主として國有林の磬林の實行を しょ (營林署](名) 【法】農林大臣の管理に關し、

(名) 【生】進化論。 生物進化說。

え-うかし [兄猾] (名) 【人】神武天皇東征の際、大 エヴォリューション [Evolution] (名) 進化。 和國字陀で皇軍に反抗した賊の道臣命に誅せられた。

そうま 4…[繪馬](名)(えま)。 えらちわいる[繪関扇](名) 輪を載いた劇扇。

ええ(感) ●路き又は悲しむ時の後聲。●「さうです」 エーエーエー [A·A·A·] (名) @ (Autom-エー [獨 圧](名)【論】論理學に於ける全稱否定命 そうるし [計[繪漆](名) 蒔輪に用ひる漆液。 obile Association of America の略)米國自動車協 と應答する意の發聲。 「題の符號の

エーエフエル [A·F·L·] (名) (American エーカー [Acre](名) ィギリス 國の地積の單位。 Federation of Labour の略)米國勞働總同盟。

・含。 〇(Amateur Athletic Association の略) 非職

エーテル[Ether](名) 〇【理】宇宙間到る所に存在 エーゼンシー [Agency] (名) 代理店。仲介。 エージェント [Agent] (名) 代理人。代理店。 際の局部麻酔劑又は寒冷劑として用ひられる。 蒸溜して得た無色の液體で、特異の香氣を有し、揮発 物で、彈性に富む。●【化】アルコールに硫酸を加へ し、光・熱・電氣・磁氣の傳播を媒介する超感覺的微小 し易く燃燒し易い。有機化合物の溶劑、外科手術の 我が國の四段二十四步。

エート-アワー・デイ [Eight-hour day] (名 ええと(感)思案する時に数する聲。

スー-ピー [A・P・] (名) (Associated Press of 八時間旁鋤制。一日の中八時間働く制度。

エー-ビー-シー [A.B.C] (名) 英語の母学中の最 あらはす語。入門。初歩。 初の三字で、英語の初步又は或事柄に未熟なことか America)アメリカ聯合選信社。

エー-ビー-シー-こく [ABC 國] (名) 南アメ リカの强魔アルゼンチン・プラジル・チリーの三國同

盟。南米大陸の平和は、この 三國の提携によって確

エーベルト [Johann Arnold Ebert] (名) 文學の飜譯中、「ヤング」の作品は詩壇に多大の影響 授。宮中顧問官。代表作に「信書と詩」がある。又、英 【人】ドイツの古典詩人。ブランシュヴァイヒ大學教

エーベルト [Friedrich Ebert] (名) 【人】ドイ て、一九一九年共和國假大統領となった。(一八三五) ツの政治家。ドイツ共和國第一次大統領。社會民主 黨の一員として立ち、中央執行委員・人民委員長を經 を奥へた。(三八八三)

エーヤ [Air] (名) 空氣。空中。カス。 —-アド 飛行機。 ー-ページェント [Air pageant] 理等に用ひられる。 ー-ブレーキ [Air-brake] 氣の作用による機械的噴霧器で、印畫原板の仕上・修 ブラッシ [Air-brush] (名) 空氣刷毛。 歴搾空 ー-ファイト [Air-fight] (名) 【軍】空中戦。— ー-バルーン [Air-balloon] (名) 風船。 氣球。 (名) 飛行場。—-バス [Air-bath] (名) 空氣浴。 機・飛行船の發著場。ー・ドローム[Airdrome] ー-ステーション [Air station] (名) 飛行 酔ふこと。 **ーシップ** [Airship] (名) 飛行船。 sick](名) 飛行家や 旅客などが 飛行機や飛行船で 勤務。航空兵役。航空隊。空軍。—-シック [Air-ー・サーヴィス [Air-service] (名) 【軍】空中 蒲朗。―-コアー [Air-corps] (名) 【軍】飛行隊。 項。 ー-クッション [Ari-cushion] (名) 空氣 ル [Air-castle] (名) 空中樓閣。空想。架空の事 ー-カーレント [Air-current] (名) 【地】氣流。 客飛行機中で乗客の案内・接待等をする職業婦人。 (名) 女流飛行家。—-ガール [Air-girl] (名) 旅 文字を書くこと。ー・ウーマン [Air-woman (名) 空中廣告。飛行機等が、煙文字で 夜間空中に ヴァーティズメント [Air advertisement] (名) 空中飛行演技。——ベース [Air-base] (名) (名)空氣制動機。ー-プレーン[Airplane](名) --ガン [Air-gun] (名) 空氣銃。 --キャッス エーローバス [Aerobus] (名) 乗客輸送用の乗合

エーヤシャー [Ayrshire] (名) 【動】イギリスで 地方の原産。毛色は褐白斑。 改良された乳用牛。スコットランド の エーヤシャー man] (名) 飛行家。 —-メール [Air-mail] (名) post] (名) 飛行郵便用ポスト。--マン [Air-悲惨事を起すことがある。風洞。 --ポスト[Air-【年】空軍根據地。―-ボート [Air·port](名) 飛 路。—-レード [Air-raid] (名) 【軍】空中襲撃。 (名) 飛行郵便。—-ライン [Air-line] (名) 航空 へはひると機體は高度を急減し、不安定となり往往 から空氣が稀薄になってゐる箇所で、飛行機がここ pocket] (名) 航空用語。空中の一部が、氣流顯係 (名) 氣孔。風穴。通風窓。 — ボ ケット [Air-同義。航空港。空の港。ー・ホール [Air-hole] 行機•飛行船の 定期發著場。 エーヤーステーション と

エーリヤル-ネヴィゲーション [Aerial na-エーリヤル-ポスト [Aerial post] (名) 航空機 エーリヤル-ケーブル [Aerial cable] (名) 架 vigation](名) 航空。

エール [Yell] (名) 叫聲。鯨波の聲。應接歌。 エール [Ale] (名) アルコール分の多い英國産のビ エーロノート [Aeronaut] (名) 飛行家。 エーロドローム [Aerodrome] (名) 飛行場。 エーログラフ [Aerograph] (名) 無線電信機。 エーロガン [Aerogun] (名) 【軍】高射砲。 エーロ [Aero] (名) 飛行機。飛行船。 エーリヤル・レールロード [Aerial railro ad](名) 架空鐵道。索道。 で輸送する郵便。空中郵便。飛行郵便。 ルル

え-えん ----[會厭](名)【生】舌根の後方、甲狀軟 エーロプレーニスト [Aeroplanist] (名) 飛 [會厭軟骨](名)【生】會厭の基質をなす軟骨で、 臓形の開閉自在な瓣膜標の器官。 ―― なんこっ 骨の上部にあって倉脈軟骨から成り、橢圓形叉は心 舌狀扁平で彈力を有し、喉部の上部前方に位し後方 えがらし は ないにと (数辛し)(形、一)のどを

エオシン [Eosine] (名) 【化】酸性染料の一。コー え-おじ …を[伯父](名) 父の兄。(古語) えーおうぎは[繪扇](名) 繪を点がいた扇。 ルタールから製した帶紅色の色素。赤インキを製す を嚥下する際に、喉頭を閉鎖し、氣道に入るを防ぐ。 に向かひ、靭帯によって甲狀軟骨に附著する。食物

えおとめ 湯(好少女](名)かはゆい少女。よい えおとこ。[好男](名)かはゆい男。よい男。 少女。(古語) るに用ひる。洋真。

えか ♣ [慧可] (名)【人】支那禪宗の第二組。姓は 三一級。年百七。 訴へられて刑に處せられ、隋の文帝開皇十三年(五九 師の歿後、楞伽經を弘む。筦城縣匡救寺に就敬し、 姫氏。南北朝時代の北魏の人。達磨の衣鉢を受け、

え-かがみ !* [繪鑑] (名) 輟定用の古遺帖。 え-かがみ [柄鏡] (名) 柄のついた鏡。 え-が *…[垣下](名)(えんが)(垣下)。(古語)え-か *…[會下](名)(えげ)(會下)。 えーがみ ~… [繪紙](名)色どりをした繪や模様を えがくるなくなけいと[書く・描く](他動、カ四) えがく[依學](名)【佛】信仰を本とせす、學問と え-かき - [繪書](名) 給を描くことを楽とする えがい きゃ [繪貝](名)名所の繪と和歌とを貝殻 え-がち[得勝](名)心得顔。承知顔。したり顔。 えかき-ベ №…[畫部](名) 〇中古、中務省選工司に 脳し朝廷の繪畫の事を掌ったもの。●(えし)(遺師)。 の左右兩片に分けて書いて、合はせて取るもの。 刷った紙で、子女のもてあそぶもの。 示す。文章にあらはす。描寫する。 『得意顔o(古語) ●物の形象を給にあらはす。●寫し出す。あらはし 【佛】依學を主とする宗旨で、俱舍宗・成實(ごでう)宗。 して佐り學ぶこと。―のしゅら[依學宗](名 人。又、繪を描くことに長じた人。蜚師。讃工。

强く刺戟してしかも辛い。

えがわ まな[江川](名)入江となった川。 えがわたろうざえもん 智慧語 [江川太郎

を 迸出させる 装置 こ

えき [易](名) ●算木と窓竹とで吉凶を判断する支 え-かんぱん *** [繪看板](名) 芝居·活動寫品 に基づき、社會に於ける幽明・晦顯のあらゆるものな |那渡來の占法で、陰階變化の原理と神人交感の神祕 などで、狂音の模様などを緒にして掲げる看板。 長となる。安政二年(二五一五)歿。年五十五。 高島秋帆に西洋砲術を學び、嘉永年中、洋式操練の数 左衛門](名)【人】伊豆韮山の代官。砲術家。名は英 龍(如7)、字は九淵、坦遊と號す。夙に 凶學を修め、

> えきき[脏氣](名)わきが。わきくそ。服火。 えきかん こべ [驛館](名)宿場のやどや。 えきがく[易學](名) 易を研究する學問。 **えきが** [腋芽] (名) 【植】草木の薬陂から

えき-ぎゅう 門[役牛](名) 使役にあてる牛。 えききとう [驛起稲](名) 昔、縣田から收 えきき[奕棊](名) 茶をうつこと。「やうがみ。 えきき[疫鬼](名)疫病をはやらせる神。やくび 穫して、靡家の用に充てた米。

えき・きょう。。[易經](名)【哲】天文・地理・人事・ られたから周易ともいふ。五經の一。 は、孔子の著す所と傳へられる。周に至って大成せ 烈即ち衆(江)上傳・录下傳・桑(ご)上傳・泉下傳・聖辭 巻。上·下經は、伏養氏・周の文王・周公の作る所。十 物象を、陰陽變化の原理に基づいて説を立てた書。二 上傳・緊斜下傳・文言傳・說卦(けつ)傳・序卦傳・雜卦傳

えき[疫](名)はやりやまい。流行病。

●人や世の爲になること。

網羅すと稱せられる。●えききやう(易經)の路。

えき[驛](名)●うまや。しゅくは。●停車場。 **えき**[液](名)流動する物質。しる。液體。 えき[盆](名)●りえき。とく。まうけ。●りやく。

えき[役](名)□人民な公用に使ふこと。ぶやく。

えだち。母(隣民を徴發して之を使用するよりいふ)

「宮廷。

えき[奕](名)こ(茶)。 開来。

エキサイティング-ゲーム [Exciting game] えきさい [液材](名)【植]樹幹の木質部の外層。 **えき-こ**[驛戶](名)えきか(驛家)。 えききん[猛金](名)利益金。まうけの金。 (名) 非常に興奮を喚起した勝貫事。白熱脱。 柔軟で液汁に充ちてゐる。しちた。逸材。

えきか [[液化] (名) [理] Ciquefaction 氣體が ときか [驛家] (名) 宿帰で人馬の搬立な取扱った 「家。 解月。 **えき−さく** [易簑] (名) (歳記植号篇に、甘子が死に **エキサイト** [Excite](英、動) 刺戟する。 興奮さ 臨んで簑(t'o)な易へた故事による)學徳ある人の死 亡叉は臨終。 「殿。考査。

たき・えき [釋釋](名・副) 連って軽えざるさま。

えき-えき[役役](名·副)力を勞するさま。

えき-えき[変変](名・副)●大いなるさま。日曜 **えき−**ラ[液雨](名)除居十月頃に降る雨。 え-ぎ [線起](名)えんぎ(繰起)。(古語) **之き**[掖](名) □わき。□宮殿の舎·垣·門·庭。□

んなさま。目かがやくさま。田美しいさま。母憂へ

えきし [驛子](名)しゅくばの人夫。 えきし[役使](名)おひつかふこと。命令して使 エキザミネーション [Examination] (名) 試 えきし [驛使](名) うまやづかひ。 エキザンプル [Example] (名) 例。範例。 المزيدة

えきかいに[腋窩](名)【生】左右の腋の下のくぼん えきかい[夜果](名)【植べしょうか、「漿果」。

液體に變する現象の

えきかい。[液火] (名) (Liquid fire)タンク内の瓦 斯を懸縮して細管に導き、其の尖端から瓦斯の火炎 (がきえ) エキジステンス [Existence] (名) 中存在。 エキジビション [Exhibition] (名) 公示。展覧。 現存。●生存。生活。生計。 tion game](名)公開競技。模範試合。 展覧會。博覧會。陳列品。ーケーム [Exhibi

えきしゃ[益者](名)交って利益になる友。益友。 えきしゃ[易者](名)易た立てて占いたする人。 身の上をよく判断するが、自分の身の上は少しもり **剪卜者。 −身の上知らず**(句) 易者は他人の

えき-じん [疫神] (名) やくびやうがみ。疫病をは えきしん[役心](名)心を労すること。 えきじゅう いれ[液汁](名)しる。つゆ。 えきしゅう いい[腋臭](名) わきが。わきくそ。 えきしゃ[驛舍](名)しゅくばのやどや。「腋氣。 種の友、卽ち直(正直)・諒(信)・多聞(知識)ある人。 - 三友(句) (論語季氏篇の句) 交って利益ある三

エキス [越幾斯] (名) (Extractの略) O薬物又は の溶けた汁を蒸餐濃厚ならしめた物料で、流動した ものと乾燥したものとがある。●物事の精髓。●状 食物を水・消精・エーテル等に浸して、其の有效成分 に疫神を祭ったこと。

め和げる祭。叉、平安朝に宮城の四隅叉は畿内の堺 の候、疫神分散して流行病猖獗を極める際、疫神を鎮

やらせる神。―・さい[疫神祭](名)上古、季春

えきす(をいけいる)[役す](他動、サ變) ●公用の えきす (たいけょう)[役す](自動、サ變) ロぶやく えきす「せいけっち」「益す」(他動、サ髪)利益を具 につかはれる。ぶやくに召される。●用ひられる。 爲に人を使ふ。えだつ。●用ひる。つかふ。 「へ あo 出。散財。 出。散財。 「ユキスペンス [Expense](名) 費用。出致。支 えきせい-かくめい[易世革命](名)(程子の **贅澤な。多額の費用を要す。** 生すること

エキストラ [Extra] (名) ●演劇や映遊劇撮影に エキスチェンジ [Exchange] (名) 雨替。 為替 開の號外。 --ガール [Extra girl] (名) 演劇 て表はす。感歎符。 や映測劇撮影に臨時に雇じれる端役女優。 tion mark](名) 感歎をあらばず符號。「!」を以 端役をする臨時雇の俳優。●雜誌の臨時増刊號。新 「相場。取引所。電話交換局。

エキスパンショニズム [Expansionism] エキスパート [Expert](名) 熟練家。名人。專 (名)領土擴張主義。通貨膨脹論。 門家。鑑定人。玄人。

エキスプレッショニズム [Expressionism] エキスプレッショニスト (Expressionist) 義を排し、作者の主観に置きを置く主義。 (名) 表現主義の人。表現派の人。 (名)表現主義。藝術上·文學上、印象·客觀·形式主

エキスプレッション [Expression] (名) 表現。

表情。陳述。いひまはし。

エキスペンシヴ[Expensive](英、形) 高價な。 エキスペリメント [Experiment] (名) 實驗。 エキスプレッス-トレーン [Express train] (名) 急行列車。

えきせい [腋生] (名) 【植】芽・花などが、菜腋に著えき・せい [奕世] (名) 代代。世世。累代。世を重

エキセプション [Exception] (名) 例。削除。苦情。不服。異議。 あるに基づく)天命が王朝の更迭をうながすこと。 易傳に「王者之興、受」命於天「故易」世謂。之革命」」と

えき-すい wa [易水] (名) 【地】支那河北省順天府

つかはれる。

と保定府との間を流れて白河に合する川で、昔、秦

|キスクラメーション-マーク [Exclama-の始皇帝を燕の爲に刺さうとした壯士荊軻が、燕の

太子丹と別れた處の

えき-そう 計[釋騒](名) 人馬の往來繁くして職 えき-せん [釋船](名) 昔、港に具へておいて、官使 の往來に用ひた船。

エキゾティック [Exotic] (英、形) 外來の。外國 「がしいことの

えきたい [液體] (名) O[理](Liquids)水・油の如 の液體が、吸收劑で十分な乾燥狀態にならぬ混合爆 も一成分が常温で液體をなす混合爆薬、及び爆發性 化したもの。―ねんりょう……。 (液體燃料) (名) 【型)炭酸瓦斯を低温高壓で液性とたもの。―-たんさんガス [液 る。--ばくやく [液體爆藥] (名) 【化】少くと 高熱を發し、灰燼を殘さぬ便があるので賞用せられ (名)液體の燃料で、石油の原油・重油の如きもの。 (名) 【理】 (Liquid air) 温度と壓力との作用によっ で、共の凝集力は、氣體よりは强く、固體よりは弱 く一定の體積を有するが、一定の形を有せぬ流動體 いもの。日酒の異名。――くうき [液體空氣] 「置くこと。

えき・ちゅう [益蟲] (名) 【動】植物の害蟲を驅除す えきち[易置](名)おきかへること。とりかへて るに效ある昆蟲で、人類に利益を與へるもの。 (害蟲

たきてい [按庭] (名) ○宮中の東御殿。後宮。 ● えき・ちょう p. [役丁](名) 〇昔、諸國から夫役 えき-ちょう ***。 [驛長](名) ロ昔の宿驛の長。う えきちょう [[盆鳥](名) [動]植物の害蟲を捕 に徴されて京へ上った者。仕丁。 曰えきてい(役丁)。 となる等、直接間接に吾人に利益を與へる鳥類。〈害 食し、叉は肉・卵などは食用に供せられ、羽毛は用具 「まやのなさ。●停車場の長。

えきてい [驛亭] (名) ししゅくば。たてば。つぎ ば。宿驛。●しゅくばのやどや。 宮殿の旁舎。女官などのゐるつぼれ。

えきてい [驛遞] (名) ●宿場から宿場へ次次に荷 えきてい [驛程] (名) みちのり。里程。 えきてい [役丁](名) 使役する人夫。 物などを送ること。しゅくつき。うまつき。日郵便。 - きょく [驛 説 局] (名) 選送・通信の事務を登っ

えきてん [驛田](名)中古、收穫を帰家の費用、即

ち聯子の給料・帰馬の購入・飼養費に充てる為に給せ

えきてん [驛傳](名) しゅくつぎの車馬。 走する競技で、数人で一チームをなし、各一區間を樹 走するもの。 きょうそう ……。 [驛傳競走](名) 長距離な概

えきどう [驛道](名) 〇宿野に通する道路。 えきてん[易田](名)地味痩せて毎年耕作するに えきとうだり[驛稻](名)へえききとう)(驛起稻)。 ●停車場に通する道路。 適せず、隔年に耕作する田地。かたあらし。 「織の生絹。

えきふ[役夫](名)にんそく。にんぶ。 **えき−ば**[役馬](名)券作に使役する馬。駄馬。 えき-ひ [液肥] (名) 液體の肥料。水肥。 えきば [驛馬] (名) 宿曜に用意しておいて官用に え-きぬ --- [繪衣](名) 書、 宋女の着た表衣。表 え-ぎぬ 4 …… [繪絹] (名) 日本豊を避くに用いる平 えき・びょういで[疫病](名)流行病。はやりやま た生絹を用ひる。 は白綵絹で雲に椿の花の彩色を施し、裏は萌黄にし 「供した馬。 ان

えき-ふ [驛夫] (名) ●昔の宿帰の人夫。●鐵道停 えき-めい [釋名] (名) ●昔の宿驛の名稱。●停車 事するもの。 車場で、車輛の連結・貨物の運搬・場内の掃除等に從 「楊の名称。

÷ •

「へんくつ。

えきゆう い[益友](名) 交ってためになる友人。 えきもん[掖門](名)大門の傍にある小門。 えきよう 気[奕葉](名)(「爽」は重れる意)代 代。世世。

えきれい [驛鈴](名) 昔、官使の諸國へ赴く時、えき・れい [疫癘](名) (えきびょう)(疫病)。 えきよう[役用](名) 労役に使用すること。 えき-り [疫痢] (名) 【醫】小兒の急性傳染病。大人 え-ぎょうじ ***。[會行事](名)【佛】天台宗·眞言 に至ることが多い。我が國特有の病。 だしく腹痛を感じ、下痢を催し、便には血を交へ、死 の赤痢の惡性のもので、最初惡寒を覺え、後、發熱甚 宗などで、法會の時、儀式を掌る奉行。

えき-ろ[驛路](名) 宿驛に ならしたもの。えきろのすす。 朝廷から賜はった鈴で、鄰路の 人馬を徴發する章として振り

等

[鈴

えきわ[腋窩](名)(えきか)(腋窩)。 やち。―・の・すず[驛路鈴](名)えきれい(驛鈴)。 **通する道路。街道。うま**

えぐ・いも [h [数字] (名) 【植】里芋の、變種。 子芋 えぐいを (のけい)[数い](形)(えくし)の口語。 点ぐい。 を生すること多く、塊莖と葉とな食用とする。味は

エクスカーション-トレーン [Excursion えぐしきしていた!(数し)(形、二)食べればの train] (名) 回遊列車。名所案内の列車。 どを刺戟していらいらする味のあるにいふ。

寫。日光に露出して寫真を焼きつけること。すっぱエクスポージュア [Exposure] (名) 露出。 躁 エクスタシス[Ecstasis](名)前條に同じ。 エクスタシー [Ecstasy] (名) 有項天。狂喜。 我夢中。恍惚。忘我。法悅。

え-げ ← [慧解] (名) 【佛】智慧によって事理か了解 え-げ ▲·· [穢氣](名)けがれた氣。 えぐるまるないは、[抉る・別る](他動、ラ四) 之ぐり ~ ~ [抉·列](名)深く工夫して、人の意表 えくぼ A…… [縣] (名) 笑ふ時、頻に生する小さい エクワドル [Ecuador] (名) 【地】南米西北部の一 エクセントリック [Eccentric] (名) 風がはり。 十六萬五千方粁餘。首府はキトー。 びコロンビヤに境し、西は太平洋に臨む。面積約二 共和國。北はコロンビャ、南はベルー、東はベルー及 手を苦しませる。●人の意表に出るやうにする。 ●突き入れてまはす。●意地わるい皮肉な賞薬で相 くぼみの 「に出ること。 「することの

【佛】含下僧のゐる寺。

え-げん 4… [慧眼] (名) 【佛】差別・妄執の念を離れ え-けん ----[慧劒](名) [佛]智慧が煩惱を断する ことを、利劍のよく物を切り放つに譬へていふ語。 て、眞理を凋然する眼識。

之一と[依怙](名)一方にひいきすること。かたびい 怙贔屓](名)一方にのみ力を入れて助けること。 かたいちゃいこち。執拗。頑固。 ―ひいき [依 かたびいき。偏頗。一の沙汰(句)へんばなし き。へんば。片手落。一じり【依怙地】(名

エゴ [Ego] (名) 自我。 **之ご**(名)谷などの水の流れ込んだ處。 エゴイスティック [Egoistic] (英・形)利己的。自 「分勝手な。 かけっ

エゴイスト [Egoist] (名) 利己主義者。 エゴイズム [Egoism] (名) 【倫】利已主義。 主義。自己本位。主觀的唯心論。

無

え-ごうゑが、[影向](名)【佛】神佛が一時睡現する 之-こう sa; [囘 向] (名) 【佛】 (自分の修めた一切 こと。神佛の來臨。やうがう(影詢)。 て菩提に向かはせること。国国向文の略。 1-ほつ をめぐらして楽生に向けること。

●善行をめぐらし 請する願文で、善通は偈頌(ghu)又は陀羅尼を誦する。 終りに、修する所の功徳を衆生に向らし向ける爲に 願ふ心。―・もん[囘向文](名)【佛】法事の勤めの がんしんこ……(同向發願心)(名)【佛」自分の 事を營んで、死者の冥鶥を祈ること。●彌陀の功德 の功徳を他に回らして、佛果に向かはせる意)●佛 修めた善根・功徳をめぐらして、浄土に往生しようと

え-こうろ …… [柄香爐] (名) 【佛】把手のついた香 えこういん。然が、[回向院](名)【佛】東京市本所 えとうとと (名・副) 肥え太ったさま。 着ぶくれ 寺。寛政以後、境内に勸進相撲を興行した。現今の國 寺第二十三代選察貴屋をして供養でしめて建立した 月江戸の大火に横死した十萬八干人を埋葬し、増上 と称する。明暦三年(二三一七)江戸幕府が、同年一 甌東兩國二丁目にある沙土宗の寺で、國盟山無縁寺 技館の始めである。 「爐。法會に導師の持つもの。

え・げ ※… [會下](名)【佛】師僧の下に集まって巻禪·

修學する學徒。――そう[會下僧](名)【佛]食下

の僧侶。門下の學徒。

-- てら[會下寺] (名)

したさま

え-とく [衣械] (名) 【佛】花な盛って諸佛菩族に捧 げ、雨手に捧げるやうにしたもの。 げる佛具。足附の函义は竹製の籠で、三所に紐を下

え-どころ [繪心] (名) 輪の趣味を解する心。 えこく 4…… [碳國] (名) 【佛】しいて、 綾土。 エゴティズム [Egotism] (名) 自己中心主義。 我。自我。自尊。ひとりよがり。うぬばれ。 翰祭 主

えど-の-き[賣子木・齊墩果](名)【植」齊墩果科 え-ことは [繪詞] (名) 繪を説明した詞。 の落葉小喬木。高さ 物の詞書。ゑときのことば。

の卵形で、不明瞭な鋸 五裂し、短い總狀花序 歯を有し、花は白色で 黒色で平滑。 葉は鋭頭 米位に達し、樹皮は橘 たなす。

果實は小さくして

邪狀

Ø

(ð 0 ij え)

球形、熱すれば殼裂けて褐色の種子を現す。種子から

エコノミー [Economy] (名) 經濟。理財。德用。 油を採り、材を挽物細工・玩具・杖などに造る。

(古語)

エコノミカル-アライアンス [Economical エコノミカル-クライシス [Economica] エコノミカル [Economical] (英、形) 經済的。 Alliance] (名) 經濟同盟。

えど-のり !!!! [蕙胡苔] (名) 【植】紅藻類の海藻。 エコノミックス [Economics] (名) 經濟學。 エコノミックス [Economics] (名) 經濟學。 エコノミスト [Economist] (名) 經濟學者。理 エコノミック-ボリシー [Economic policy し、鮮紅色を帯びてゐる。到る處の海濱に見られる。 馬尾藻(はんだ)科植物に著生し、體は紐のやうに分岐 (名)經濟政策。 crisis] (名) 經濟的危機。

え-ごま[荏胡麻](名)【植】 唇形科の一年生草本。

寒天の原料となる。

え-しき ☆……[壊色](名)【佛】純色な消壊した色

袈裟の染色として制定されたもの。青・黒・木崩

は炒って胡麻に代用し、その種子 臭氣がある。又、花 後絲色で、葉は卵圓形、 から採った油は「えのあぶら」とい うに淡紫色ではない。種子 は白色で、紫蘇のやの景景の 高さ約一米。莖は方形。紫蘇に似てゐるが、葉・莖は £) え)

え-ごよみ [繪曆] (名) 翰のある暦。又、翰に えと・む [はぬむ] (自動、マ四) はひりこむ。 落ちこ 淳(が)を荏滓といふ。 意味を持たせた唇。前者は給入唇といひ、哉德神・金 ひ、燈用・印肉用とし、叉、雨衣・傘に塗る。油を搾った 「む。へこむ。

えさしならき (感) 重い物を動かす時などに發する路。 え-さがし * [繪探](名) 給の中にわからぬやう に他の物の形なるがき込んであるのな探し求めるこ 吉凶な鬪録し、後者は文字を解せぬ庶民に、繪で、種 と。又、その館の 耕蠶織等の居日を示したもの。めくらごよみ。 「すげたもの。

えし (****)[善し](形、二)ょし(善)。(古語) え-し ♠… [給師](名) Oゑかき。 畫工。 O 昔、 中務 え-じ 4… [衞士](名)●昔、諸國の軍團から毎年交 え-さらず[不得避](副)やむを得す。しかたな 戸幕府の物所に脳して給遺の事を掌った職。 省の讃工司に屬し、給を描くことを掌った職。■江

替して上洛し、衛士府に關し、常に杖を持ち、夜は火 御門府と改称。 掌った所で、左右二府に別れた。弘仁二年(一四七一) 技・衛士の名帳・車器出入の際の前驅・後殿等の事を 見張をしたもの。国伊勢大神宮の神地を警衛する職。 丁)の稱。●明治初年に宮城の諸門に居って、門衞・ を焚いて禁闕を守った者。●誤って「しちょう」<< --ふ [衞士府] (名) 中古、宮城の禁稿・儀仗の撿

え-しき 4……[會式](名)【佛」の法會の儀式。●日 おるしき。おめいく。おめいこう。 蓮宗で宗祖日蓮の忌日、即ち十月十三日に營む法食。

え-じく き~ [縮軸] (名) 給の掛物。 豊幅。 えーじぐち [語 [繪地口](名) 地口を給で示したし 口を書いたもの。 ども應ぜす、遂に誅せられた大和の磯城(社)の土人の ので、地口行燈の流行から遊費のやうに給の上に地 長。

神・大歳神・大將軍以下の神像を圖し、干支・星辰の エジプト [Egypt] [埃及] (名) 【地】アフリカ大陸 エシックス [Ethics] (名) 【論】倫理學。 と意を示す字とがあり、世界最古の文字である。 等の農作物を産し、重要な資源をなす。 ――もじ の東北部にある獨立の王國。實權は英國にある。面 文字で、始めは繒道文字から發達した。音を示す字 [埃及文字](名) 古代エジプト人の使用した泉形 **稜七十八萬平方料。首都はカイロ。棉花・穀物・甘蔗**

「く。捨ておきがたく。(古語) えじま-きせき[江島其蹟](名)【人】江戸時代の え-しゃく № [會釋] (名) ○【佛】 法文の雛義に合 たしゃじょうり **…* [會者定離] (名) 【佛】此 顔色にあらはすこと。 け方。--がおりに[會釋顔](名)挨拶する意を 連句で、前句の意の半ばのみを轉じて附ける句の附 れて一體すること。挨拶。辭儀。〇あいきやう。 こと。母相手となること。應接すること。母首を垂 こと。目心をくみとること。四相手の感情を和げる 通し之を解釋すること。●のみこむこと。合點する 「世間奴容氣」等がある。この種の本な八文学屋本と | 文元年(二三九六)段。年七十。其の著に「傾城色!! の名な借りて役者評判記・浮世草子な發表した。元 小説家。通稱市郎右衛門。京都の人。八文字屋自笑 味線」「領城禁短氣」「傾城曲三味線」「世間息子氣質」

え・する…{ないないする。[怨す](他動、サ變)「あん(怨

ず」の轉。うらむ。(古語)

えしき [兄磯城](名)【人】神武天皇東征の際、召せ え-じょうちん きを [繪提燈] (名) 吉野紙等の疎 えしゆる……[會衆](名)【佛】集まった人人。一座の 法倉の大衆。 て點火する。岐阜提燈が最も有名である。 紙を貼って檜を描いた提燈で、夏夜、軒先などに吊し

え-しん 4--- [同心] (名) [佛]邪心を翻して正善にえ-しん 4--- [穢心] (名) [佛]不淨の心。凡夫の心。之上ん 4--- [穢身] (名) [佛]不淨の身。凡夫の身。 は源信。天台宗の高僧で、彌陀の信仰を鼓吹し、彫え-しん 4····[慧心·惠心](名)【人】慧心僧都。諱 昔の流派。又、慧心を始組とする天台學派の名。 る。--は[慧心派](名) 慧心僧都を顔とする佛 寂。年七十六。「往生要集」「一乘要訣」等の者があ 刻・繪畫にも巧みであった。寛仁元年(一六七七) 歸向すること。

エス [S] (名) ●獨逸語·Schönの 頭文字を取って美 草」「喫煙」の意に用いる語。 の頭文字をとり、中等學校男生徒用語として「煙 の同性愛の對象をあらばした語。 母英語の Smoke の始めの二音をとり、逃れて自分の嫌ひな學科を休 むこと。回英語の Sister の頭文字を取って、女學生問 を取って、藝妓の隠語とした語。●英語の Escape 人の隠語とした語。シャン。⊖英語の Singer の頭文字

・きづく。のみこむ。

ぶつ [慧心佛] (名) 慧心僧都の豊いた佛武。

の世は無常なものゆる、食ふものは必ず離れる運命 **え-す** 今 [繪圖] (名) ●給。●家屋·庭園等の平面 エス-エム-ユー [S·M·Ù·] (名) 【社】 (Salary れた。俸給生活者同盟。サラリーメンス・ユニオン。 することな目的とする團體で、大正八年に組織せら その人。—-めん[繪圖面](名) 繪圖。 岡。一ひき [繪圖引](名) 檢閱を引くこと。义、 Men's Union の頭文字を取った語)我が園に於ける 俸給生活者の利益を擁護し、共の生活の向上を企闘

ス-オー-エス [S·O·S·] (名)無線電信の危険

えすがた は [繪姿] (名) 人の姿を繪にるがいた エスカレーター [Escalator] (名) 自動的に聴 換して、乘客を階上又は階下に運ぶ装置の階段。自 ٦٠٠٤

エスキモー [Eskimo](名) 北アメリカの極北地名 すき [嘔吐](名) ゑづくこと。吐きもどす 季は氷で家を構へる。 方に住する未開民族。體驅の矮小な以て知られ、冬

物を吐きもどす。へどなつく。もどす。

えずけ きゅ[繪附](名) 陶磁器の表面に輸具で彩 その上に焼きつけるのを上繪術といふ。 飾を施すこと。釉薬の下に焼きつけるのを下檜附

えすごろく [繪雙六](名) 輸入のすごる エスケープ [Escape](英、動) 逃げる。脱出する。 嫌ひな學科を休む。

え-すつみ[荏/裏](名) 在(<)の葉に包んだ食物。 之すだれい [繪麗](名) 繪を描いたすだれ。 エスセティシズム [Estheticism] (名) 耽美主 義。耽美派。唯美主義。

エステル [Ester] (名) 【化】炭水基と酸の水素原 エスティメーション [Estimation] (名) 評價。 子との化合物の

エストニヤ [Esthonia] (名) 【地】苔ロシャ帝國 エスペラント [Esperanto] (名) 〇 希望ある エスペランティスト [Esperantist] (名) ェ のバルト海東岸に、世界大戦後建設された新興國の 相對し、ペープス湖及びナラワ河を以て勢農ロシヤ 人」の義で、赞明者が發表した時の匿名に基づく スプリ [佛 Esprit] (名) 〇銀魂。精神。〇氣轉。 「スノグラフィー [Ethnography] (名) 人種 と境する。面積四萬七干平方粁。 世界共通語。ポーランドの眼科醫ザーメン ホーフ 一。北はフィンランド樹を隔ててフィンランド國と 『スペラント使用者oエスペラント主義者o

> にも日本エスペラント協會が起こって、爾來加速度 八七年(明治二十年)の公表で、明治三十九年我が図 ので、その基礎單語數は一千九百に止まるが、造語法 もあり、文法的構造は極めて簡單である。西暦一八 ン語系で、各國語に共用されてゐる單語な採ったも (Zamenhof)の創意に出て、語葉はゲルマン・ローマ

エス・まき[ら巻](名)髪をらに似せて巻く婦人の 的に普及する傾向がある。●通人。やりて。

え-世 [似非](名) ●似てはゐるが、質はさうではな らぬ人。段しい者。笑ふべきもの。一わらいいか ー・ごと[似非事](名)いかがはしいことがら。 らしくない親(古語) - がたち[似非形] (名) に足らぬ拙劣な和歌。―-おや[似非親](名)親 と。いやしいこと。!うた[似非歌](名)取る いこと。似て非なること。まやかし。●笑ふべきこ [似非笑](名) そらわらひ。せせらわらひ。 なまくら刀。鈍刀。―もの[似非者] (名)っま 技の拙い大工。(古語) ――だち[似非太刀](名) 武士。 -- だくみ [似非匠](名) 大工らしくない 見苦しい賽。(古語)ーさいわいいは[似非幸 クテルダ[似非方人] (名) たのみにならぬ味方の人。 をかしい形。見苦しい姿。(古語) **ーかとうど** いいが[似非侍](名) 武士にあるまじき行なする (名) 幸らしくて幸ならぬこと。(古語) ー-ざむら いやしい事柄の(古語) ―-ざい [似非賽](名) (古語) ―・ぎ [似非木] (名) わるい木。 (古語)

エセティシズム [Æstheticism] (名)唯美主義。

エセリッヒ [獨Eschelig] (名) オルガニザチオ ツに於ける反動運動の秘密結社。 ン-Hセリッヒ (Organization Eschelig) の略。ドイ

え-せん *···[繪錢](名) 昔、繪畫·模様などを辞出 字などが母つけてある。 した玩具の錢。大黒・蛭子などの畫、 念佛・題目の文

え-そ ▲… [壊疽](名)【腎】身體組織の一部分が生活

えそ [餅・館・狗母魚] (名) 【動】喉鰾類の魚。 體は 黄色。肉は蒲鉾などに使用する。 色で、側線に敷條の淡褐色の縦線があり、下腹部は銀 殆ど圓筒形で體長四○種位。背部は灰色がかった褐 力を失って其の機能の消滅すること。

えぞ[蝦夷](名)●昔、闕束から奥羽及び北海道に からい[蝦夷管領](名) (えぞだいかん)。 ヌ族。●北海道の古稱。――いも[蝦夷薯](名) かけて住み、 王化に服しなかった種族。 今日のアイ 【植」ででがたらいも」の異称。――かんりょう

生草本。高さ約 く[蝦夷菊·翠菊](名) 六〇糎。莖は直 【植】菊科の一年

(くぎぞえ)

に暗紅色の肉冠がある。智性は鶉又は雉

頭に紫色・淡紅色・白色の頭狀花を開 分ち、葉は嫁菜に似て大きく、夏、枝 立して多く枝を

蝦夷種族の人。アイヌ。―・すみれ 「蝦夷 く。ゑぞぎく。さつまきく。―じん[蝦夷人](名 る盆ってとど」又は「ぶな」などの材を用ひて、一本の小 自生する。 -- ぼん [蝦夷盆](名) 蝦夷人の製す 頭、葉脚は略、心臓形で葉柄はない。六七月頃、白色 る。――にしき[蝦夷錦](名) 紺地に雲龍の文を 頃、紫紅色の花を枝端に開く。北海道の山地に自生す ▽ニュベ゙[蝦夷代官](名) 鎌倉幕府の職名。 鬱を津 刀で巧みに彫刻をしたもの。--まつ[蝦夷松 の小花な開き、聚繖花序に配列する。我が國北海道に 草本。高さ約三〇糎。 莖は織弱で平滑、葉は披針形鋭 ぶすぎ [蝦夷衾] (名)【植】石竹(だ)科の多年生 經て日本に渡った。今は京都西陣で銀織する。 織出した錦で、もと支那産だが、滿洲・樺太・蝦夷な し、葉は倒卵形叉は卵形で鈍頂、葉柄はない。七月 躅] (名) 【植】躑躅科の落葉灌木。 莖は 地上 に 横臥 事を学ったもの。蝦夷管領。―-つつじ[蝦夷獅 輕に置き、臭羽及び蝦夷の急海を守り、蝦夷人鎭撫の 茱] (名) 【植】えいさんすみれ。 —-だいかん (名)【植】松柏科の常絲喬木。高さ三〇米以上に達し

> 線形針狀、表面は 白色。雌雄同株で 暗線色で裏面はな 片狀をなし、葉は 樹皮は灰黒色で銭

雄花は長橢圓形 雌花は橢圓形をな

[つまぞえ]

で黒色と暗褐色との斑を混じ、眼上 複雑な斑紋を有し、腹部は白色 形、背部は白・褐・灰黒等の 海道に産し、鳩より稍、大 原料とする。 ―やまどり[蝦夷山鳥・松雞] し、毬果は十月頃成熟する。材は建築・船材・製紙の (名) 【動】鷄雞類の鳥。北 (4) 8

えぞうし 帰[繪雙紙](名) 日檜入の草雙紙。日 えーぞう きっ[繪像](名) 輪に描いた肖像。 [繪雙紙屋](名) 翰壁紙叉は綿緯を販賣する家。雙紙賣](名) 繪壁紙の譲貰りをなすもの。──や「鍵紙賣」(名) 繪壁紙の譲貰りをなすもの。──や「えほんばんずけ)。●(にしきえ)。──-9り[繪 厚い。我が國北海道の干潮線附近の岩上に自生す。 藻類の海藻。形、稍、「わかめ」に類し、中肋は著しく に似る。―-わかめ [蝦夷和布] (名) 【植】褐色 嫩きものは食用に供せられる。ちがいそ。

えそうふもく……。[依草附木](名) 【佛」の人 た-そらごと M......[繪字事](名) 檜は多く想像的 ら、物事の虚偽・誇大なるにいふ。 作意を加へて實形と異なったさまにゑがくことか 語・文字の末に拘泥し、眞理な研究し得ぬこと。 間の靈魂の草に依り叉、木に附くこと。●徒らに言 又はその人。

えだ [枝](名) ●【植】草木の腋芽の生長・養育したも 樹木の下枝を切って手入をすること。一くうつり の。日本から分れ出たもの。1-5ち[枝打](名) うぎい。[枝扇](名) 昔の醴式に、草木の薬ある 枝](名) ●多くの枝。●兄弟。親族。連枝。 —— [枝移] (名) 枝から枝に移ること。 ―・えだ [枝

の劣ってゐること。―かき[枝桃](名) ●枝につ 枝を扇に代用したもので古語) ―おとり(枝劣) 本社に附属して祀る神。末社の神。(古語) (名) ●幹よりは枝の劣ってゐること。父祖より子孫 いた柿の質。白くしがき。 ーがみ [枝神] (名 つかさ[畫工司](名) 昔、中務省に脳し、檢逮・え、だくみ [書工](名) ゑかき。ゑし。―-の-え-だいこ [柄太鼓](名) 柄のつけてある太鼓。 彩色等の事を掌った役所。

形との二種がある。―-ぐり [枝栗](名) 枝につ 切鋏](名) 果樹の剪定に用ひる鋏。日本形と西洋 わ [枝川](名)本流から分れ出た川。又、本流 に流れ入る川。支流。分流。――きり‐ばさみ[枝 じ[枝髭](名) 髪を長く裝ふに用ひる壁。ーか え-だち [役立](名) 國民な微数して公務に使役す えた-じま[江田島](名)【地】廣島縣安藝郡にある ること。ぶやく(夫役)。ようえき(徭役)。(古語) がある。周園約二八粁。 る。吳灣の西側、吳軍港の中心で、本浦に海軍兵學校 島。廣島灣の能美島の東北で、地頭を以て相連接す

木の最下の枝から根元までの長さ。――しゃくと (名) 枝狀をした珊瑚樹。―・した [枝下] (名) 樹 し出たありさま。えだぶり。―・さんど[枝珊瑚] いた栗の寶。――さし [枝差] (名) 草木の枝のさ えたう (ででで)[役立つ](自動、タ四) 課役にあ えたう なない。こと役立つ」(他動、タ下二)課 役にあてる。えだちに徴發する。(古語)

き擬態をなし、皮膚も亦灰褐色で樹皮に類する。二 枝に著いて、葉・枝を食害する。その形は桑の枝の如 り [枝尺蠖] (名) 【動】鱗翅類の昆蟲。幼蟲は柔の こと。望むことに都合よく出合ふこと。 えたりがおい [得頭](名) 得意な顔つき。し たる。兵役又は夫役に服する。

の外に築いた出城。――ずたいだ。[枝傳](名) 背に産卵する。――じろ [枝城] (名) 本城(根城) [枝炭](名)茶の湯で火な起こすに用ひる炭。躑躅 この枝からかの枝に伴って移り行くこと。 え-だる [柄樽] (名) 二つの角のやうな大きく高い 柄をつけて、朱塗にした様で、祝儀の時などに酒を人 (感) うまく仕遂げた時に發する聲。(古語)

えたりや(感)しめた。うまくいった。!

蛾は翅が灰黒色で、前翅・後翅に黒條があり、嫩枝・葉

問脱皮して脳をつくり、蛹となり、蕁いで蛾となる。

えちごかたびらき [越後帷子](名) エタン [Ethane] (名) 【化】石油を産する地方の地 國から織り出す上布叉は縮のかたびら。 中から出る無色無臭の瓦斯。 に贈るに用ひる。つのだる。

すみ。よこやますみ。 --つき[枝附](名)えだざ の小枝を焼いてつくり、上に胡粉を塗ったもの。しろ

エターナル [Eternal] (英・形) 永遠の。永久の。 --ピース [Eternal peace] (名) 永久平和。 岐路](名) ●本道から分れ出た道。よこみち。●本 大豆の莢質の枝についたもの。 ーみち [枝道 り[枝振](名) えだざし。--まめ[枝豆](名) り)。--は[枝葉](名) ●枝と葉。●事物の末。 し。えだぶり。 -なかれ [枝流] (名) くえだが ーぶね [枝船] (名) 大船に添へた小船。ーーぶ えちど-じし [越後獅子] (名) O越後國西蒲 て、手で歩くなどの藝をしつつ、錢を乞ひあるくも 頭を戴き、身を反らせ、逆に立っ で、小童が小さい獅子 月潟地方から出る獅子舞 子舞。**⊖越後國西**龍原郡 原郡の神社の里神樂の郷 (子獅後越)

エターニティー [Eternity] (名) 永劫。永久。

えちと「じょうふ いっ[越後上布](名) 江戸時

代に越後隣北魚沼郡小干谷(タザ)附近から「からむし」

の。かくべゑじし。●【音】江戸長唄の曲名。

ー-ライフ [Eternal life] (名) 不滅の生命。

筋から分れて正路をはづれること。

えちて-ちじみ いに (越後縮)(名) 越後國北魚沼 村から出す飛白織のものが精巧である。 の繊維を用いて機出した上布。近時は南魚沼郡鹽澤 郡小千谷(をり)地方から出す縮で、「からむし」で織り、

えちご-や 16 [越後屋] (名) 江戸日本橋駿河町に えちで-ぬの As [越後布](名) 越後箱。 越後守高次といったから越後屋と命名した。 三つに開店。今の三越の前身で八郎右衛門の祖先は あった吳服店。 三井八郎右衞門が、延寳元年〇二三三

エチュード [獨 Etude](名) 【音】練智の為に作曲 えちご-りゅう ほ…[越後流](名) ⊖江戸時代軍 えちもの(名)姿ばかりを飾って役に立たぬ柔弱 の。●鎌信流の異稱。 學の流派の一。越後國の人、澤崎主水な組とするも 者。

> なたに何度も何度もキッス(接吻)を送ります」の意 キッス-キッス-キッス (Kiss, Kiss, Kiss)のしゃれっつあ

【化】澱粉叉は蔗糖から製造した酒精の主成分。普通エチルーアルコール [Ethyl alcohol] (名) にアルコールと称する。 「ーテルの

えつ き [越] (名) O (地)越前・越中・越後の略。越州。 エチレン [Efhylene] (名) 【化】無色可燃性の氣 エチル-エーテル [Ethyl ether] (名) 【代】 E ●【紙】支那春秋時代の國名。今の浙江・江蘇二省と山 體。木材及び石炭乾霜の際に生じ、又、アルコールと 狀の液體をつくる。せいゆき(生油氣)ともいふ。 **濃硫酸とな熱すれば生する。ハロゲンと化合して油**

え-つき [柄附](名) えのついてゐること。又、その エッキス[越幾斯](名)エキス。 え-つき[役調](名)えだちとみつぎと。(古語) えつこそつ 終(名・副) 順吐する時の聲。 **之つ**(感)意外の事に驚いて發する壁。 えつ [悦] (名) 喜ぶこと。蝉しがること。機嫌のよ えつ [間] (名) のけみすること。しらべること。あら えつ [謁] (名) おめみえ。謁見。 ためること。●てがち。年功。●家格。いへがち。 (今の浙江省紹興府)。●支那の上古に、南部に居住し した種族の名。 しるの。

エッキス[X](名) ●アルファベットの一。數學で rays)エッキス輻射線。―-ふくしゃせん[一幅いふ。―-こうせん [一張](一光線](名)【理J(X 射線](名)【理】(原因の未知なるを以て發見者がX 未知號の符號に用ひる。●未知數叉は未知の物事に

エックス-エックス-エックス [X 文文] (名) 内容を檢査する等、嚴く應用されてゐる。 利用して、患者の體內の狀態を檢査し、又、包裝物の る(但し骨及び金屬は透過しない)から、醫師は之な **發出し、目には見えないが、不透明な物體をも透過す をクルックス管内に放電すると、管内から電磁波を** ントゲン (Röntgen)の發見した一種の輻射線で、之 をとって名としたもの) 西暦一八九五年、ドイツのレ

エッケナー [Hugo Eckener] (名) 【人】ドイッ ン)に搭乗して世界一週に成功し、途中我が園の霞ケ た。一九二九年、L・2一二七號(グラフ-ツェッペリ の建造に成功し、ツェ伯の双後、會社の社長に就任し をなし、

大戦後同伯の飛行船會社に入り、

硬式航空船 の總監督となり、ツェッベリン伯の飛行船建造に貢献 の飛行界の檔威。一九一二年、ドイツ航空郵送會社 で、手紙の終りに書く洒落文字。

たっけん [製權] (名) 機限以上に立ち入って事えっけん [謁見] (名) 目上の人にまみえること。 えっけん[関見](名)けみし見る。しらべ見る。 たっさ (感) 力を入れる時の掛聲。 **−−っさ** (感) 物 えつ-どく き [越獄](名) 牢屋をぬけ出ること。 をすることのなっけんの 浦に立寄った。(1八六人) 「らうぬけっ

東省の一部を領土とした姒(ヒ)氏の領地。都は 會稽

たっさらおっさら(副) 大儀さうに歩みながら。 えつさい [悦哉] (名)【動」照の一種。「ひょどり」 大で、よく小鳥を捕食するもの。すずめだか。 さつさ節](名)安政の頃、大阪に流行した一種の をかついで走る時の掛聲。 ーーつさーぶし [えつ

取次をする者。 『目下の人に面食する。そつし [賜] 在] (名) 母親見な求める人。母気容のそっし [賜] 在] (名) 暑氣あたりで死ぬこと。

えつ・す (記されて) [関す] (自動、 中穏) の (の) の (の) で (の) の

エッデ・ビー・プロセス [H. B. process] (会)
アメリカ人と・・・ファイスタイン所氏の数
関した印刷技でもの類学を以て呼ぶ。オフェット印刷に
関連の手順を用い、精密な原理を構写に出て
ルー・アメリカ人とし、
は一部に、は中郷] (名) (松
をつちゅう・ふんどし、は一部に、は中郷] (名) (松
で起中す定信の創めたものといふ) 〇一米位の中間
の相に一種をつけてよんども、の影中等のはづれやすいことから、うてことのはづれやすいことにいふ。

よっさらおっさら。 名っちら、おっちら(副)骨を折って。わざわざ。 そっちらおっさら。

郷を慕って、樹に巣をかけるにも、南の方の枝をえら風、越鳥巣、南枝、〕●南方の越の圏から來た鳥は、故

南枝に集くふ(句)(文選の古詩に、「胡馬依』北

岡博覧台の際にエッフェルの設計したもの。の廣楊に立つ高さ約三○○米の鐵塔。 一八八九年萬の廣楊に立つ高さ約三○○米の鐵塔。 一八八九年萬

そつぼ ←… [笑壺] (名) わらひ興すること。 (本) からひ興する。 −の會(♠)(句) 滿座 (本) 「一つ」

をつらん (国際に)(名) が非又は激狂の屋根に、たるものとつらん (国際に)(名) 関連を関連する第のとつり [校](名) 第非又は激狂の屋根に、たるものとつり [校](名) が非又は激狂の屋根に、たるものとつり [校](名) が非又は激狂の屋根に、たるものというという。

そつれき [関歴] 名)報應。 履歴。
 そへて [科手] (名) 母母手時事 のかまま。―かつてこと。 目動撲。 白骨手時事 のかまま。―かつて [科手 勝手] (名) 意見を用ひす、我意に任せて事なたすこと。――きち [科手 古] (名) 母母意なこと。○日動撲。○日動撲。○日動撲。○日動撲。○日動撲。○日動撲。○日動撲。○日のと。 さる。 一に帆(句) 大様に同じ。 一件帆をときる。一に帆(句) 大様に同じ。一件で帆をときる。一に帆(句) 大様に同じ。一件で帆をときる。一に帆(句) 大様に同じ。一件で帆をといる。

エディソン [Thomas Alva Edison] (名) [人] エディソン [Thomas Alva Edison] (名) [人] アメリカ合衆國の登明家。オハイオ州ミランに生まる。その登明に「電信機・蓄音機・自熱電燈・活動高真機・電風製造・膜く全人類の日常生活に密接不雕な機・電風製造・膜く全人類の日常生活に密接不雕な

「o- エディター [Editor] (名) 編輯人。主筆。記者。

エディブス [Oedipus] (名) 【億]ギッシャ傳説のア・マニ。質炎を殺し生母と婚すべしとの神託を恐れてのて、遂に發狂して南眼なるとって放渡し、アテネで死んだ。彼がテーマ市の 全來で人を借ます怪物スフィンクスの鑑を解いたのは、有名な話である。

い都市として知られてゐる。 スコットランドの首府。 風景の美しい、學藝熱の高スコットランドの首府。 風景の美しい、學藝熱の高

たてる (***: [得手る] (自動、タ下一) 得たてる (***: ***: ***: ***: [得手る] (名) 教育。 エデュケーション [Education] (名) 教育。 ***: ***: (名) 給を脅ふに用ひる手えてほん (***: ***: (名) 給を脅ふに用ひる手えてほん (***: ***: (名) 給を脅ふに用ひる手

本 デン [Eden] (名) (博然、ブライ語で、快樂の意) なが、始めて神から住まはせられたといふ樂園で、そが、始めて神から住まはせられたといふ樂園で、そが、始めて神から住まはせられたといふ樂園で、その中央には「生命の木」「善窓分別の木」などがあり、一家である。巧みである。

置はバビロンでわらうともアルメニヤでわらうともれば生活することが出來ないやうになった。 その位

いふが、確かではない。

え-ど 4…[穢土](名) O【佛】汚穢・不淨の國土。現世。

えど・あきない ******(江戸商)(名)商品な江戸に婆婆。(神土の對) 白糞の異解。

出して商かこと。

えど・かろう。…[江戸 家老] 名) 江戸時代に、 たどかみ・がみ・…[江戸 家老] 名) 江戸時代に、 たどがわ・がみ・…『江戸川 孤江(名) と東京 市内の江戸川附近から製出した手頭紙で、主に書簡 市内の江戸川附近から製出した手頭紙で、主に書簡

足] (名) うたびくに。 ― びくに [緯解比丘足] (名) うたびくに。 ― がくに [緯解比丘

みの行くこと。がてんすること。 **たどく 4**----- (會得) (名) 心にさとること。のみこみの行くこと。がてんすること。

入上に入事: [給所](名) 母音、葉中で梅毒・建 英の斐倫を築った後所。もと 系に入めつつかで、建 英の斐倫を築った後所。 日 発所に居った最節。 社・佛閣で、繪の事を司った所。 日納所に居った最節。 社・佛閣で、繪の事を司った所。 日納所に居った最節。

之込→な「江戸座」(名) 母江戸に設けられた金座。 登少かな江戸趣味を登録した所に特色を有する。 郷やかな江戸趣味を登録した所に特色を有する。 之ど→なくら「江戸 標」(名)【種】(江戸に多いから名づけた)よしのさくら。

夷大將軍に任ぜられ、慶長八年〇二二六三〇幕府を江之じ・じだい [江戸 時代] (名) 【歴】德川家康が征

えなん-じ』[淮南子](名) 【文J支那前漢の淮(g)

えどじゅんれい[江戸順禮](名) 昔、江戸の宮 豪や茶屋女などが、 衣服を着飾って順醴の姿をして 戸に開いてから、慶應三年(二五二七)の瓦解に至る まで、二百六十五年間の称。徳川時代。 えどばらい ****[江 戸 拂](名) 江戸時代の刑 名。追放の一で、江戸市内に居住を許さぬこと。 目附を置き、老中・若年寄の耳目とした。 町・勘定の三奉行を置き、又、諸役人を監視する爲に せしめ、若年寄に旗本八萬騎を總管せしめ、又、寺社・ とし、老中をして禁中の事・諸侯・側衆・高家等を支配

えどじょう いじ[江 戸 城] (名) 【歴】江戸にあっ た城で、長祿元年(二一一七)太田道瀬が始めて築造 (西の丸)・吹上の三部とした。明治初年以來、西城は 二九六)大成し、本城(本丸・二の丸・三の丸)・西城 慶長十一年 (二二六六)より工を起し覧永十三年(1 し、天正十八年(二二五〇)徳川家康の居城となり、 市中の寺院を巡拜したこと。 えど-ひきまわし き。[江戸引廻](名) 江戸幕 えど-ばん[江戸番](名)(えどすめ)(江戸詰)。 等に屬するもので、江戸市内の要所な引廻して、罪狀 府時代の刑名で、死罪の極刑、火罪・磔罪・鋸挽・獄門

えど-じょうるり …… [江戸淨瑠璃] (名) 江 えど・じょう いで[江戸狀](名) 江戸の商店との 取引狀。 エトピリカ[アイヌ語 Etu-pirka](名) 【動] 側扁、前方赤く基部黄。 (美しい嘴の意)海雀科の海鳥。小鴨に似て嘴は大形、 羽は上部煤色で、下 輕からざる事を庶民に示した刑。

ar) 黄白色長毛が總狀に 部灰黒色。光澤ある 長生してゐる。又、尾は

(カ

えど-ずまずに江戸褄

まじやうるりの

戸に起った浄瑠璃。あづ

Ħ [排 島・北海道以北に産する。 著しく短く、靜止の際は殆ど直立し、群棲を好む。干

えどでめ[江戸染](名)の江戸で染めたもの。日 エトセトラ [拉 Etcetera, Etc] (名) 等。など。 大名の رن. ال えど-ぶんがく[江戸文學](名)【文】江戸時代に えど・ぶね [江戸船] (名) 大きな
嚴形船の一種。遊 えど-ぶし[江戸節](名) 江戸 中太夫の創めた江戸 摺いては他に比肩すべきものがない。 親を呈したこと等は、日本文學史中、明治時代以後を 勃興した文學で、上下の各階級を適じて文學の普及 浄瑠璃の一派。はんだいふぶし。 したこと、文學の種類の多方面なこと、文華煥發の盛 「行する為の船。

えどすめる。[江戸請] (名) 江戸時代に、

斜に模様を染め出し の前身と衽との裏表に 始まったからいふ)衣服 (名) (江戸城の大奥から

たもの。**|-およう**

家臣が江戸の藩邸で勧務したこと。 引…[江戸棲模様](名)前條に同じ。

江戸紫に染めたもの。(京染の對)

えど・つ・こ[江戸見](名)の江戸に生まれ江戸で をど-ながうた[江戸長唄] (名) 江戸時代に杵員 えど-てんま-やく [江戸傳馬役](名)江戸時代 えどついほうない[江戸追放](名)へえどばら に、幕府の用度の運輸に従った常傳馬及び常人夫。 育ったもの。●江戸兒の使用する言葉。東京語。 奉行の命を奉じ、名主を進退し、市町の事務を掌ったをど・まちどしより[江戸町年寄](名) 江戸町 えど・まえ =~ [江戸前](名) 江戸風。江戸の流儀。 えどま[江戸間](名)室の廣さの量り方。江戸に 行はれたもので、曲尺五尺八寸を一間とする。〈京間

えどばくふ[江戸幕府](名)【既J徳川家康が度 長八年江戸に開いた幕府。大老を執政補導の最高官 老中の指揮を受け、江戸市中の行政・司法・警察等のえど・まちぶぎょう ………… [江戸町奉行](名) えならず(刷)いふにいはれず。えもいはれす。 ら製した乾燥性塗料。

えどもも[江戸桃](名)【植」けんべいもも。 之とり ~… [繪取] (名) ゑどること。 エトランゼー [佛 Etranger] (名) 見知らぬ人。 旅人。路傍の人。異邦人。外國人。

事務を掌った職の

『紫色で、藍色の跡ったもの。

えな[胞衣](名)胎兒を包んだ膜と胎盤。━ えとる ~… (るいい) [繪取る] (他動、ラ四)のい ろどる。●書いた字の上を更に墨で塗る。 計[胞衣桶](名)中古、えなを入れて埋めるに用

動で[胞衣納](名) 産後五日又は七日目に、胞衣 ひたまげもの。おしたけ。えなつぼ。 --おさめ る衣服。地質は白羽二重叉 参の時に、産衣の上に着せ [胞衣着](名) 子供の宮 あに用ひた竹刀。 ――ぎ [胞衣刀] (名) 胞衣を截 を壺ら納めて吉方の

土中に埋む儀式。

ーがたな

エナージー [Energy] (名) エネルギー。 エナージズム [Energism] (名) 【倫】精力主義。 は晒で、紅(む)の襟を掛ける。 (₹ 75 L)

エナメル [Enamel] (名) 金屬器具などの上に模えなく (が時代) [慄く] (自動、カ四) うなる。う え-なが[柄長](名)【動」熊雀目、四十雀に屬する 飼鳥とする^o 機を著色するに用いる塗料。原料は種種の酸化物で、 背面は葡萄赤色、翼は黒褐色を呈する。形態可憐。 小鳥。嘴は短く、尾は比較的長い。色彩は頭上白く、 『めく。呻吟する。(古語)

エナージティック [Energetic] (英、形)

元氣

の匹盛な。精力のすぐれた。

Iled leather)エナメルを塗って光澤を附した革。 師用の塗料。 -がわい[一草](名) (Ename-牛透明·硝子體の物質。 琺瑯。 釉薬。 ―― カラー ペイント [Enamelpaint] (名) 樹脂 と 檜具か [Enamel colours] (名)釉薬に顔料を加へた裝 **え-の-き** [榎・朴・加 條 木] (名) 【植J楡(虻)科の蕗 **え-の-あぶら**[在油](名)「えごま」の種子から探 の邊縁に鋸齒を有し、互生で有柄。初夏、淡黄色の脚 厚滑で灰色、葉は卵形叉は廣橋圓形で先端尖り、上部 葉喬木。高さ約二○米、直徑一−三米に達する。樹皮 取した油で、桐油紙や雨傘などに塗る。 的な。元氣旺盛なる

性花を開き、花後、球形の小核果を結ぶ。熱すれば紅

えど-むらさき[江戸紫](名)江戸で染め初めた えに [縁](名) ●ゆかり。ちなみ。えん。(古語) ゆかり。えん。(古語) 事・瑣談を記載した書。二一巻。 南王劉安の著。老子の説に基づいて、 前世の果報。因果。因緣。(古語) - し[緣](名) 治肌與亡·逸

エニグマ [Enigma] (名) 謎。磔語。解しにくい えにしだ

「金雀兒」

(名)

【植」

萱科の常線

灌木。

高 色で縦綾がある。葉は さ一米半位。莖は深線 複葉で三箇の小葉から

짆

え-にち ----[慧日](名) 【佛】佛の智慧の題く衆生 えにするより[槐](名)【植」へえんじゆう。 エネルギッシュ[獨 Energisch] (獨、形) 精力 エネルギー [獨 Energie] (名) 〇[理]物體が仕 エネルギズム [Energism] (名) 【倫】精力主義。 ある。 〇元氣。精力。 一の保存(句) 【理】(Con 事をなし得る能力。物體が有するエネルギーの多少 ンダ語又はスペイン語の(Genista) から出たのだと 形花で、葉腋に出で 成る。花は黄金色の蝶 於いてはいつも増減がないといふこと。勢力不滅。 を變じ、或は一體から他體に移行しても、其の總量に servation of energy)物體のエネルギーは、その狀態 ーに運動のエネルギーと位置のエネルギーの二種が は、その物體がなし得る仕事の量で測る。エネルギ を照らすことを日に譬へていふ語。 形で黒褐色、兩縁に毛がある。「エニシダ」の名はオラ 夏開く。莢は長橢町 いる (だしにえ)

(あみがさそう)。--さ[榎草](名)【植 街道の一里塚に之 を植ゑた。しぐ

> €Ĵ のえ

を出す。

食用となる率。 樹幹に簇生する。歯傘は黄褐色を帶び表面から粘液 だけ[榎茸](名)【植]高等菌類に屬し、榎や柳等の

えのころ-ぐさ……[狗尾草] (名) 【植】禾本科の えのご[痤](名) 腫物叉は傷などの為に、腹の附根・ えのぐ 4… [繪具](名) 輪を彩るに用ひるもの。 生、下部は翰狀をなして莖を包む。夏、綠色で、狗の る皿。――ばこ [繪具箱](名) 繪具を保存し、又、 顔料。―さら[繪具.皿](名) 鱠具を溶くに用い 尾に似た穂を抽く。 携帯する爲の箱。 一年生草本。莖の高さ約三、四〇糎。葉は線形で互 「腋の下などの腫れ痛むこと。

えのしま[江島](名)[地]神奈川縣鎌倉郡の内海 た湘南の一勝地。風景絕佳、辨財天の祠がある。---に[江島煮](名)へうしおに)(潮煮)。 にある一小島。周囘二粁餘。附近に鎌倉・片瀬を控へ

えのもときかく[榎本其角](名)【人】俳人。 座を起こす。資永四年(二三六七)歿。年四十七。晉 に來て芭蕉の門に入り、後、洒落の俳風な唱へて江戸 **蒸門十哲の一人。幼名添助。近江國堅田の人。江戸**

其角叉は饗井其角ともいふ。

え。はがき …… [繪葉書] (名) 裏面に繪敬のある郵 臣。子爵。通稱釜灰郎。和關に留學し、歸朝して海之のもとたけあき[榎本武揚](名)【人]舊春 外務兩大臣に歴任し、明治四十一年薨。年七十三。 官兵に抗したが間しなく降り、維新後、海軍卿・遊信 軍奉行となる。大政奉還の後、函館五稜郭に據って 宛名を認むべき表面の二分の一以下に楷

> おく折本。―-ブック [繪葉書](名)前條に同 ちょう [編葉書帖] (名) 翰莱普を捕んで 線を引いて、通信文を認め得るやうにしてある。---

えーばける…… [繪刷毛](名) 繪畫を描くときに用い を假仕立して大柄の 模様をおき、その 模様に従って

え-はち [衣鉢](名) ●【佛】(禪宗の始祖達磨が、第 えしつ[衣鉢](名)えはち(衣鉢)。 -を傳ふ(句)師から其の道の奥義を傳へられる。 られる奥義。●師から傳へられる學問・技藝の奥儀。 る袈裟と戯鉢。いはつ。@禪僧が其の師僧から傳へ く)①師僧から付法の印證として、門下の沙門に傳へ と施を受けるに用ひる戯鉢とな授けた故事に基づ 二祖慧可に正法眼巌を傳へた時、其の證として袈裟 絞染をしたもの。羽織・長襦袢等に應用する。 -かく[衣鉢閣](名)【佛】いほかく(衣鉢閣)。

えばぬい は [繪羽経](名) 経目に跨る模様を衣 やう、豫め要所を縫合はせて、模様の下繪を描くに便 服に置く場合に、縫目の部分で模様のくひちがはぬ

えばはおりは「繪羽 袖等に模様が綴いてゐ 織。多くは大柄で、身頃・ 様な染め出した婦人羽 繪羽縫をして羽織向の模 羽織](名) 羽織の一種。 ならしめる爲の假仕立。

エパミノンダス [Epaminondas] (名) 【人】古 した事は、戦法に一時期を創したと称せられる。 陣歿した。彼が古來の戰法を改良して斜戰陣を創始 スに侵入して、スパルタに大打撃を加へたが、遂に 代ギリシャのテーベの將軍で政治家。屢、ベロポネス る。外出や訪問・觀劇用として流行してゐる。 「はした中切紙。

えび [海老・蝦] (名) ●【動】甲殼類十脚目長尾亞目 に屬するものの通稱。體は頭胸部及び腹部に分る。

> り(句)愚者が賢者の中にはひってゐること。 かの勢力によって多くの利益を得る。 一の鯛交 釣る(何)つまらぬ物を與へることにより、或は僅 の曲ったもの。目(えびじょう)(蝦錠)。ーで鯛を ある。淡水又は海水に産し種類が多い。●物の中部 は七箇の可動關節から成り、五對の游泳肢と尾扇が **鞭絲等があり、下部に五對の歩脚及び鉗がある。腹部** 頭胸部は一枚の背甲で覆はれ、前部に觸角・複眼・歯・

乏び [葡萄](名) 熱したえびかづらの質の色に似た みを帯びた赤茶色。――ちゃしきぶ [葡萄茶式薬芳(汀里)、裏は縹(紅生)。――ちゃ [葡萄茶](名) 黒 部](名)(多くは葡萄茶色の袴を著用したからい は紅、よこは淡紫の織色。 B(pr)の色目。表は 語)ー・ぞめ[葡萄染](名)のえび(葡萄)。のたて 染色。赤みを帯びた栗色。--かずら 100 1 葡萄 ふ)女學生の舊稱。 葛](名)【植】●(ぶどう)。(古語) ●(えびする)。(古

えびお ……を[蝦尾・海老尾](名)【動尾の形が えび[憂衣香葉皮香衣被香](名) 梅檀の樹 蝦の尾に似た金魚。 (古語) --のか[褻衣香](名)えび。(古語) の葉と皮とを緻末にした香で、中古に用ひたもの。

エピグラム [Epigram] (名) 警語。寸鐵語。諷 エピキュリヤン [Epicurean] (名) 快樂主義者。 エピキュリヤニズム [Epicureanism] (名) 【哲】エピクロス主義。快樂主義。

羽 約〕

エピクロス [Epicurus] (名) 【人】ギリシャの智 うになった。(顔語の) 學者。アテネに住み、宏壯な庭で数へたので、「エビ と考へるに至り、「エビキュリヤン」の語が出來るや 末流は、肉體の快樂に重きな置き、放縦な生活を理想 クロス學派」を「庭園學派」ともいふ。彼の快樂説の

エピクロス-がくは[一學派](名)【哲J(Fpicureans) 古代のギリシャ哲學者 エピクロスの創始し 生の最大幸福なりとなす學派。快樂派。 た哲學上の一主義で、利己的快樂を求めることを人

えびこうりょう との間の聯絡に用 して本柱と向拜柱 曲した紅梁。主と

エピゴーネン ひられる。 做者を輕蔑してい の後繼者。亞流。概 (名) 于孫。思想上 [獨 Epigonen

þ [蝦虹梁](名)【建]

(梁 虹 蝦)

えび・ざこ [蝦雑魚] (名) 小蝦の中に小魚のまじっ えび-ごし [蝦腰](名) 蝦のやうに曲った老人の腰。 たもの。

えひしょうい。[蝦錠・海老錠](名)●門の くっんぬきにさす錠で、蝦の腰のやうに稍で半圓形 をなすもの。●魚形につくった錠。

えびす[夷](名) (えみし「蝦夷」の轉)のえぞ。え える。ーーやまいまい。[夷病](名)せきを敬す 動、カ四) 夷のやうに見える。 田舍者のやうに見 班がある。肉は美味。—-め[夷布](名)【植】まこ 形は「まだい」に似て、體色は薔薇色。背及び贈に品 て忌む。ー-だい 計 [夷鯛](名)【動】棘鰭類の魚。 側面を人の面前に向けて据ゑること。禮を缺くとし えびす衣を著けた姿。 ―・ぜん [夷膳](名) 膳の の訓證)よろひ。ぐそく。ー・すがた[夷姿](名) れない心。ー・どろも[夷衣・戎衣](名)(戎衣 らしい心。もののあはれを知らぬ心。猛悪な心。つ 東方のえびす。 ―- うた [夷歌] (名) 邊節の民の えびす。〇「秋」は北方のえびす。〇「撥」は南方のえ 武士。四①「戎」は西方のえびす。回「胡」は東北方の みし。●開けぬ土地の人民。邊鄙の民。●荒荒しい んぶ(眞昆布)。 ――めく (かけい) [夷めく] (自 ょむ歌。揺い歌。―・どころ[夷心](名)あらあ びす。母「房」は王化の及ばぬ民。又、外國人。◎「夷」は

えびす[惠比須·夷子·蛭子](名) 【神】七脳神

て鯛を釣りあげる 帽子を著け、釣竿を持つ の一。狩衣・指貨に風折鳥

えび-ぜめ[蝦責](名) 江戸時代

と云はれるの

を前に屈ませ、 兩足を首に接せ 雨手を後にして縛し、體の上部 に於ける拷問の一。兩脚を前に

しめるもの。

な。一おうぎり 事代主神ともい 姿をなす。一既に

正月二十日)と陰暦十月二十日に、商家で商賣繁昌の の惠比須識の日に、吳服屋で賣出すよせぎれ。――」 爲に行ふ惠比須の祭。(その日の諸演藝入費に踏を設 う 1 [惠比須辭] (名) 陰曆正月十日 (江戸では たらの。一きれ[惠比須切](名)十月二十日 紙を重れて裁つ時、内へ折れこんで裁ち残しになっ こした福相の顔つき。一がみ[惠比須紙](名) がおい[惠比須蘭](名)悪比須のやうににこに ら出す粗製の鼠で、注連縄などにつけて用ひる。 | [惠比須扇](名)伊勢國山田か

比須 麺] (名) 春の初、吳庫縣西宮から出て、夷三郎須 祭] (名) (えびすこう)。 ―-宮 わし ニレニ゙[惠比(名) 大黒窗に並んだ大きな筒。―-宮つり [惠比 迎](名) 惠比須の繪を板に押したもの。 家の繁榮を視ふこと。一むかえかで「恵比須 の姿なまれて舞び歩き、面白をかしい所作をして家 【神】えびす。――世に[惠比須錢](名)●古錢の 一程。日分配の出來の餘錢。——は [惠比須齒

えひずるが[葡萄蔓・蔓爽](名)【植」葡萄科の て小さく、夏、 複総狀花序の 葉は葡萄に似 卷騒がある。 毛を密生し、 に淡褐色の絲 藤本植物。脊、宿根から發芽する。雌雄異株で、全株 淡黄緑色の花を開く。漿果は紫黒色で、球形をなし (蔓萄葡)

んだものな「薬もぐさ」といひ、疣を除く特效がある 味酸く、食用とし、叉、潤を醸す。叉、薬を乾かして揉 さぶろう。[恵比須三郎・夷三郎](名 け、月月出金してその費用に充てたからいふ)—— エピソード [Episode] (名) ●就話或は文章中 えび-そうめん…『蝦素麵 中間曲。對照曲。 と。插話。●【音】ロンド又はフーガの一部。插入曲。 するもの **らこし」にかけて、素麺のやうに作り、清汁の材料に** (名) 蝦の肉をすりつぶして「う に、その物語の本筋とは關係のない話を插入するこ

(4)

え-びつ 4-- [繪櫃](名) エピック [Epic] (名) 【文】 敘事詩。英雄詩。史詩。 桃・柳・菊などの繪を彩色し どか入れたもの。 九月の節句に草餅・赤飯な た飯櫃形の曲物で、三月と

えび、ね[海老根・化倫草](名)【植」爾科の多年 **え-ひめ** [兄 姫](名) あれむすめ。(弟姫の對)(古語) えび-むし[蝦蟲](名) 「動だいこむし。 は帶禍色・白色等種種ある。親賞用とする。 莖端に叢生し、長橢圓形で全縁。五月頃、葉の開くに 先だちて花莖を抽出し、敷花を線狀花序に綴る。色 生草本。根莖は節多く略~蝦の脊に似て ゐる。葉は

えびも [蝦藻](名) 【植】眼子菜(ひろむ)科の多年生 腋に花莖な抽き、淡黄色の細花な穗狀花序に綴り質 長で互生し、緑邊は皺縮して波紋狀をなす。夏日、葉 水草。湖沼· 細流中に生する。 莖は稍、扁平、葉は狹 「まぶし。

えびら (顔 えびら[蠶簿] (名)矢を盛っ を結ぶ。 |(名) 遐を入れて繭を作らせる 器。

せび 藤](名)【植]豊科の多年生草本。高さ六○種位、莖褐色。樹皮又は岩石に著生する。┣--冬じ む [額 は稜條を有す。葉は偶數羽狀複葉で、小葉は四五對、 とけ [箙 苔] (名) 【植」地衣類の一。質薄くして茶 先端に小棘があり、葉柄に二尖端を有する托葉 を具 [箙刀](名) 箙の中に蔵められる程の小さい刀。── へる。夏、葉腋に長い花梗を抽き、紅紫色の蝶形花を

エピローグ [Epilogue] (名) 【文】小説の終末の えいら ~…[維片](名) 箱を患いたびら。ボスタ 論。(プロローグの對) 總狀花序に配列する。 いひ、餘韻を發すことを目的とするもの。結文。結 一章、又は演劇の終りに俳優の述べる口上及び詩を

え・ふ ▲… [衛府](名) ●王朝時代に宮門の簪備な 督](名)衛府の長官。―-の-すけ[衛府佐](名)に腐する武人。又、北面の武士。―-の-かみ[衛府 帶取に革緒を用ひた。儀仗用の太刀。毛拔形太刀。 革緒太刀。平鞘太刀。陽太刀。 府の武人の帶びた太刀で、柄に毛拔形の目質があり、 衛府の次官。―・の・たち[衛府太刀](名) 昔、衛 撃った役所で、近衛府·兵衛府·衙門府の總稱。 ●衛府 「るしの札。

(極 椈)

え-ぶみ 4…… [繪蹈] (名) 江戸時代の宗門改に際 えるでな……[繪筆](名)【美」粉を描くに用ひる筆。 エフィシェンシー [Efficiency] (名) 能率。 え-ぶ [厭舞](名)「えんぶ」の略。(古語) え-ふ ···[繪符·會符](名)荷物などにつける目じ え-ぶっし [繪佛師](名)【美」佛像を書き、 エフェクト [Effect] (名) 〇影響。效果。結果。〇 エフェクティヴ [Effective](英、形) ききめがわ し、切支丹宗でないことを證する爲に、蹈繪(二〇糎 彫の佛像又は堂塔内壁の彩色に従事するもの。 る。效力がある。有力な。 位の銅板に蟒た基督の像)をふませたこと。 演劇・映畫に於ける舞雞效果。 木

えぶりこ(名)【権」でるのこしかけ」の一種。主と 來民間樂として、腹痛・眼病等に應用せられた。 あり、黄白色である。肉は乾けば海綿様となる。古 その一面で幹に固著し、表面には輪層と細裂線とが して落葉松の幹に生する。菌體は無柄で鐘狀をなし、 堺又は出程(ftt)等の端を隠す為に用ひる化粧板o

えへへ(名·副) 笑ふ聲。作笑の聲。 エプロン [Apron] (名) 汚れを防ぐため、胸から エプリル-フール[April fool](名) 四月馬鹿。西 際へかける婦人用の白い前掛。西洋前掛。 とし、この日の午前中を嘘つき御苑の日としてゐる。 洋の習慣として、四月一日を萬愚節(All Fooi's day)

え-ほう et [惠方·吉方](名)その年の干支に基 **えへん** (名·副) せきばらいの壁。 年の吉方に営った

神社・佛閣に

書詣して、

年中の

福徳 ーまいり 引。[恵方參](名) 正月元日にその 方棚](名) その歳の歳徳神(ごぶ) を祭った神棚。づいてきめた吉祥の方位。あきのかた。――だふ(惠 か断ることの

えぼし 4··[烏帽子](名) 短帽の一種。 もと 離記 **え-ぼうしょ **** [繪奉書](名) 色刷用に用いる** エホヴァ [Jehovah] (名) 【宗】キリスト数でいふ 漆で塗りかためた。 -おや[烏帽子親](名) の時にかぶった。位階によって、形と塗り様とな異に の下に被った頭巾であったが、延喜以後、冠と區別し、 れてゐる。上帝。天帝。(舊約聖書) 神の名。萬物の創造主と仰がれ、宇宙の統治者とさ 日(たいらぎ)。—-かけ[烏帽子掛](名) 烏帽子 膜で連結せられる。その形は鳥帽子狀をなしてゐる。 板・背板・峰板の五箇から成り、各板の間は橙褐色の 等に附著生活する。有柄部は紫黒色、頭部の殼は、楯 脚目烏帽子介科の貝。柄によつて浮木・杭又は浮標 ること。 -- がい * [鳥帽子貝] (名) の[動]変 人。一おり 計[烏帽子折](名) 烏帽子なつく 昔、元服の時、烏帽子を冠らせ、烏帽子名をつけた した。又、もと黒色の絹で造ったが、後には紙でつくり 貴人は朝服ならざる時に用ひ、無官の者は常の儀式

て貫ふ具。 がたな (箙)

え-ぶり [柄振・朳] (名) 【農】農具の一。穀物の實

の先に厚い板をつけため。ーーいた[柄振板](名 等を振き寄せ、土塊を碎いて地をならすに用ひる竿

エボック [Epoch] (名) 時代。時期。紀元。世紀。 子の部分。--はじめ[烏帽子始](名)元服。 一の一つつ[烏帽子筒](名)頭を入れる烏帽 字を與べたもの。實名。 ―のおし 門は[烏帽 幼名を改めて別につけた名で、烏帽子親が、自分の一 子直衣](名)立烏帽子をかぶり、直衣を着た姿。 つけられた者。――な[烏帽子名](名)元服の時、 ─── [烏帽子兒](名)烏帽子親から烏帽子名を を掛ける爲に床柱に打つ釘。又は之に掛ける爲の紐。 ー-メーカー [Epoch-maker] (名) 新時代を

エポレット [佛 Epaulette] (名) ●女子の洋服の エボナイト [Ebonite] (名) 【化】環性ゴムに硫黄 肩上につける師。母肩章。 り、楽品に對する耐抗性がある。電氣の絕緣體、又は **梅や智族の器械などに用ひる。硬化護謨。** を加へ强熱を與へて作った物で、質堅く、黒色光澤あ

割する人。ー・メーキング [Epoch-making]

(名) 新紀元を開くこと。劉期的。

えほんたいこうき *** [繪本太閤記](名) え-ほん - [給本] (名) 〇 韓の本。 檜草紙。 〇 翰の 番附の一。狂首の一幕・一幕を槍で示し、傍に役名と手本。―・ばんずけ、った「槍本番附](名)芝居 皆で、寛政九年初篇を出版し、享保二年完結。七篇。 【文】法橋石田玉山が、太閤記に繪を插んで出版した 俳優の名を記入し、表紙に脚本の外題を記したもの。

えほんたいこうき ★ [繪本太功記] (名) 近松湖水軒・近松干葉軒の合作したもので、十段目 【文】浄瑠璃の曲名。繪本太閤記に基づいて、近松柳・ 文化元年、幕府は絶版を命じた。 「尼ケ崎の段」は最も有名である。寛政十一年大阪豐

之・ま▲ [給馬](名) ○析 の。日神社・佛閣に奉納す 馬を奉る代りに率納するも **檜を選いて、神社・佛閣に** 奉納する額で、馬匹又は造 願又は報謝の爲に、馬の

馬 襘) (Θ

> う [繪馬堂](名)神社・佛閣などで奉納の繪馬 く風をして、社寺の繪馬を見歩く磬者。はやらぬ磬 る輪の額。――いしや「繪馬醫者」(名)病家に赴 家。又は其の人。 を掲げ置く堂。 ━-や [繪馬屋](名) 繪馬を質る 者。ーてん[繪馬殿](名) (えまどう)。ーど

世に「コンコードの哲人」と称せられた。(「八八三 ンコードの歌」「英國氣質」「論文集」等の著がある。 コンコードで歿した。「自然論」「代表的人物論」「コ まれ、教育家・宗教家となったが、後、著述生活に入り 【人】アメリカ合衆國の文學者・思想家。ポストンに生 マーソン [Ralph Waldo Emerson] (名)

えまきもの …… [繪卷物](名) 給た卷物にし えまい きゃ [笑](名) (えみ)(笑)。(古語) て、詞書を添へたもの。 「條義時の異名。

えましな…… (いきにない) (笑まし)(形二) にこに えまとしろう……[江馬小四郎](名)【人北 こしてゐる。(古語

えます 4… {たいけ}[笑ます](自動、サ四)るむ エマネーション [Emanation] (名) 【宗】キリス エマナチオン[獨 Emanation](名) O流出。 えまたろう。 [江馬太郎] (名) 【人】北條衆 (笑む)の敬語。おわらひになる。(古語) 『時の異名。 放射。●【化】放射性な有する一種の氣體。

えまはし [いいにい][得欲し](形、二)のでま 顯したものとする説。湧出説。分出説。 ト数で、天地萬有は、神の創造ではなくて、神から出

まし)(笑まし)。(古語) 「解放。解脱。自由。 えみる[笑](名) なむこと。笑ふこと。わらひ。 エマンシペーション [Emancipation] (名) がらものたい小聲。(古語)――とだる(おいれるる) ろ。--どえ」[笑聲] (名) わらひ聲。わらひな 顔。ゑがほ。ーぐさ[笑草](名)【植】あまどこ いこにこ。一がお 計[笑顔](名) みみを含んだこま。

> が成熟して自然に割れる。罅裂。 ら笑ふ。思ひ設けて笑ふ。(古語) ー・わ・る (アサンウトント゚ペ) [笑 設 く] (自動・カ下二) 心の底か 笑って活氣が出る。笑顔をつくって滿足する。 ――の さかゆのないないのとう[笑 榮 ゆ](自動、ヤ下二) [笑廣でる](自動、ラ四) 甚だしく笑ふ。(古語) る。一ひろぐ(ではない。)【笑廣ぐ】(自動・ガ - まゆ [笑眉] (名) 斃しい心が眉の間にあらはれ (自動,ラ下二)形もくづれる程に笑ふ。(古語)---(おたんきゃる) [笑割る] (自動・ラ下二) 栗の毬など みこだる。眉の曲を程に笑ふ。(古語) --まがる [6:5:6] (笑曲る] (自動、ラ四) & 下二)大口をあけて笑ふ。ーーひろごうないい。

えみし[蝦夷](名)えぞ(蝦夷)の古称。 エミール [Emile] (名) 【文】フランスのルソーの エミグレーション [Emigration] (名) 出稼。 よって、十九世紀教育の基礎をなした。 向・科學的傾向・社會的傾向の基礎を開いたことに の努力を排斥し、見童本位を主張し、以て心理的傾 するまでを敍述し、その教育法は自然に從ひ人工的 は此の小説中の主人公で、その出生から青年期に達 ものとして、敎育史上著名なものである。エミール 教育小説。十九世紀に於ける教育革新の先驅をなす

H = 1 - [Emu; Emeu] (名)【動】オーストラリ 用なしない。頸長く脚は 平。兩翼は短小で飛翔の に達する。嘴短くして扁 ー科の鳥°身長一・五米餘 中に産する走禽類エミュ

强く、三趾を有する。

えむを「ないか」[笑む](自動、マ四)のにこにこ えるような[慧命](名)【佛】の佛法の命脈。日 が割れて開く。 する。笑顔になる。笑を含む。●花咲く。●毬など び~(比丘)。

エム [M](名) ●英語 Money の頭文字で、金銭の

の頭字なとって、月經の隱語。 なとって、男根の隠語。 ●英語 Monthly 叉は Menses こと。 🖯 ラテン語 Membrum (メンプルム)の頭文字

エメチン [Emetine] (名)【化】液木、吐根より得 **た-むしろ☆…**[繪筵](名) して、エメチンといひ、翳薬に用ひる。鹽酸エメチン。 られる一種のアルカロイド。これの鹽酸鹽を普通略 たむしろ。はなむしろ。 **花模様などを織り出し**

エメラルド [Emerald] (名) Cl 日 緑 色の光浮 明るい緑色。 ある質石。綠玉石。翠玉。 〇綠色。 ― グリーン [Emerald-green] (名) 資石エメラルドのやうな

エメリー [Emery] (名) 【鏡】銅玉石の一種。 粒狀 [Emery-paper] (名) やすり紙。 ら、粉末として研磨用に供せられる。―-ペーパー で、黒灰色叉は黒色。金剛石に吹ぐ硬度を有するか

えもう きょ (おうご) [笑まふ](自動、八四) るむ えも(副)あさはかにも。よくも。(古語) (笑む)の古語。

えもじ ** [繪文字] (名) (Pictograph) 北米ィ エモーション [Emotion] (名) 情緒。感情。感 の。繪畫文字。 て觀念な表象した文字。文字發達の一過程を示すも ンデャン土人の間などに行はれた、簡素な略遺な以

そものがたり 虚……[繪物語](名) 物のはひった。をもの[獲物](名) 漁撈や狩猟でとった鳥歌・魚 え・もの [得物](名) ●得意の道具。自分に適した えるとゆい いに [繪元結](名) いれもとゆい 武器。白えてもの。最も得意とする物事。

えもん [衣紋](名) ●衣服・装束の着方。● 岩物の え-もり [柄漏] (名) 傘の杯の上部から雨の漏るこ き [衣紋描] (名) 懇親長く、親い線を描くに用み [衣紋鏡] (名) 玄紋を縛ふに用ひる鏡。――が延て、衣服の制度・著用法の事を掌った家。――かが 襟を合はせるところ。――か[衣紋家](名) 昔、朝 -かけ[衣紋掛](名) 短い棒の中央

紋等](名)衣服を掛ける為に吊した竿。――だけに紅をつけて衣服を吊し置くもの。――ざおまれる [衣紋竹](名) 竹製の衣紋掛。―-つき[衣紋附 んつき。衣裳のつけ方。 (名) 水服の着やう。--ふう[衣紋風](名)えも

えもん ☆……[衞門](名) ●衛門府の略。●右衞門 の守衞・諸門の開閉・非違の巡檢・不法の糺察及び門 籍・門榜等を掌った役所。 せられたもの。(衛門尉の相當位は從六位) たいふ [衛門大夫](名) 衛門尉(だりの五位に放 [衞門]府](名) 左衞門府と右衞門府との總稱。禁中 ーのまけ[衛門佐](名)衙門府の次官。―の --のかみ[衞門督](名) 衙門府の長官。

えやみ [疫](名)●流行性の惡病。ときのけ。はや **惡疫を司る神。やくびやうがみ。(古語)** (りんどう)(龍膽)。(古語)--の-かみ[疫神](名) ぐさ [疫草] (名) 【植】の(おけら)(飛)。(古語)の りやみ。やくびやう。(古語)●おこり。(古語)──

えよう…え、[榮耀](名)●さかえ。えいぐち。●お ぐいこ [榮耀食](名) 贅澤なものな食べるこ こり。せいたくっはでやかなこと。一えいがで 満足しないで、必要もない餠の皮を剝いで食ふことの餠の皮(句) 榮耀の生活をするものが、それに 足しないで、人知れず不潔な快樂を貪ること。 と。――ぐらし[榮耀暮](名) 奢った生活。 道具。一の隱喰(何)榮耀するものが、それに滿 どうぐ!……[榮耀道具](名)必要もない数澤な [榮耀榮菲](名)生活に贅澤をつくすこと。 ļ ļ

そら [鰓・腮・顋] (名) 【動】魚類・甲殼類等の如き水 えよぼろ [役丁](名) 課役の人夫。えだちの男丁。 **棲動物の呼吸器。普通の魚類では、頭の兩側に敷料** の鰓蓋の後部に開口せる製孔で、呼吸の際水を出入 れて幕狀をなす。―あな[鰓孔](名)【動】魚類 十敷對な有して羽狀ななし、貝類では鱧の兩側に垂 を有し、赤色櫛齒狀をなし、蝦·蟹等では、胸の雨側に で、贅澤な行の譬。 せしめるもの。 --と [鰓鸞](名) 【助】多毛目毛 (古語)

> 口内に出入せしめ、呼吸作用を答む。 -- ぼね [鰓 鰓を蓋び保護する骨質の扁片。これを開閉して水を ぶた [鰓蓋](名) 【動】魚類の頭部の兩側にあって の鰓絲な有する。海岸に群ななして附著する。! 〇糎位。細い管内に生棲し、鰓は冠狀で四〇一四四本 槍蟲(カロピ)科の環形動物の一。體は黄褐色で體長一 骨] (名) ●【動】魚類の鰓の内部にあって、鰓の形な

之ら[豪](名)えらいこと。えらがること。──か らもの。 --もの[豪者](名)えらぶつ。 る[きられる](意動、ラ四)えらいと思ふ。 あ は る。 保たしめる弓狀の骨。●あごぼれ。 ー-ぶつ [豪物] (名) 腕前のある人。え

エラー [Error] (名) 誤。過失。 **えら**[豪] (接頭) すぐれてゐること。 甚だしいこと。 ーさわぎ[豪騒](名)大騒ぎ。甚だしい騒。

えらい いいい [豪い] (形) 「えらし」の口語。

えらえられ ならる(副) ふらくさま。 樂しみ笑ふさ えらび[選・擇](名) えらぶこと。 ーて[選者] えらし ないに [豪し](形、一) ロすぐれてゐる。 えらぶ(神学学)[選ぶ・擇ぶ](他動、バ四)●多 えらぐきを(がけい)(自動、ガ四) あらるらと笑 い方をとる。 は選ぶ。又、文章を作る。○「擇」は善惡を見分けてよ くの中からよいものを抜きとる。すぐる。よる。● 非凡である。●大層である。仰山である。甚だしい。 ま。(古語) とりあげて職に任する。〇〇「選」はよりとる。〇「撰」 (名) えらぶことかする人。せんじゃ 「ふ。樂しみ笑ふ。(古語)

選牙を有し背面は多く暗絲色、 爬蟲類の一。體長一五〇糎位。 (名)【動】溝牙蛇(タヒラ) 科の海鹿

(ぎなうぶらえ)

えらぶらなぎ[永良部鰻

えらみ[選・擇](名) えらむこと。 えらび。 我が國では鹿兒島縣永良部島附近の海に産する。 環狀斑紋がある。熱帶海に産し、 き、約四〇條の黑灰色・暗褐色の 腹面は稍、白色。頭部腹面を除

> えらん [榮蘭] (名) 【植たこのき(原兜樹)。 えり [襟・衿] (名) ●太服の、頭をまはって前で交は 部分。えりくび。うなじ。●洋服のカラー。 る部分。●頸のうしろの部分。又、頸のえりに當る I) えら

えり[釟・簄](名)河 難いやうにしたも 入るに易く出づるに 曲した袋狀につくり 川・湖沼などに竹簑 く。植勢におもれる。 附く(句) 襟元に附 魚を捕へる装置で を立てて、細長く屈

()

えりあか [襟折](名) えりについた垢。 えりまて [襟當] (名) 襟の裏に當ててよこれを防 えりあし[禁足・領脚](名)えりくびの髪のはえ 之り 秀 [彫] (名) ほること。ゑること。きざむこと。 きは。

えりおしろい [禁白粉](名) えりくびにつける えりいた ほ [彫板] (名) はんぎ(版本)。 えりろら [禁裏](名) 衣服の襟の裏につける布。 えりうち[選討](名)然るべき敵を選んで討ちと ー) 刻みこむ。ほりこむ。 「あこと。 そりいる *** 「はいれない。」 [彫入る](他動、ラ下 えりいし、[碑](名)いしぶみ。ひ。(古語)

えりがえ ¾~ [襟替] (名) 半玉が一人前の藝妓と **えり-かざり** [襟飾] (名) 洋服の襟につける飾。ネ エリオット [George Eliot] (名) 【人】イキリス なって、赤い襟を白い襟にかへること。 マーナー」「ロモラ」等がある。(|八八八) **ム-ビード」「ザーミル-オン-ゼ-フロッス」「サイラス-**心理解剖は、最も優れた特色である。其の著に「アダ 名、本名をメリー-アン-エヴァンスといふ。透徹せる の女流小説家。 ジョージ-エリオットは男性に擬した 「クタイ。

<u>ائ</u>ز えりかた[襟肩・衿屑](名) 衣服の前後のみ(など) 切目。 の境、即ち肩に當る部分の、背より左右に鋏を入れた

えりがみ [襟髪・顔髮](名) 頭のうしろの髪。 えりかた。「彫形」(名)物の形をほりつけた形。 えりぎらい いる [選嫌](名) 好むものばかりを とって嫌びなものを捨てること。えりごのみ。

エリザベス [Elizabeth] (名) 『人』イングランド 之り·さき[襟先·衿先](名) 衣服のえりの下端。 **をりくりえんじょ**(名) 出入や凹凸の多い場所。 たりくび [襟首・領首] (名) うなじ。くびすち。 えりくずい[選屑](名)選びとった残り屑。不用 ザベス時代を現出した。(|茶OII) 星し、その治世の四十五年間に、文化史上名高いエリ の女王。ヘンリー八世の女。一五五八年即位し、 意國家の繁榮を圖り、産業に文化に未曾有の光彩を

えりしょう **・・・ [襟章](名) ●陸海軍軍人の軍服 章。〇學生・生徒の制服の襟につける徽章。 の襟につけて、各兵科・所屬等を表示する色合又は微

えりしん [襟芯·衿芯] (名) 着物のなの芯に入 れる水綿される

えりすぐる (ではる)[選りすぐる] (他動、ラ エリス [Henry Havelock Ellis] (名) 【人】ィ 等の著がある。(一八五九) 者。「性の心理」「英國の天才研究」「性本能の分析」 ギリスの心理學者。兒童心理學・性慾心理學の第一人

えりすっ 行きなって [選拾つ](他動、夕下二) わるいものなよりぬいて捨てる。 四)よりによってすぐりとる。

えりとめ[禁止](名)着物の襟の合はせた部分心 タ下一)「えりすつ」の口語。 【様子ののえりもと。 **えり-どり**[選取](名) 選んで取ること。 たり-つき [襟附](名) ○衣裳を重れる時のえりの 乱れぬやうにする為に襟にとめる金具。

えりぬく (かられ)[選拔く](他動、カ四)多く えりはば [襟幅] (名) 襟のひろさ。 えりぬき 選拔」(名) えりぬくこと。えりぬいた の中から選び出す。よりぬく。

えりまき[襟卷](名)頭のまはりに巻いて寒さた えりいと[選人](名)多人数の中からえりぬいた 人物。又、えらばれた人。

えりまわり は"[襟周・襟廻](名) 襟の周圍。 防ぐもの。毛皮・毛布・絹布などでつくる。

えりもと「襟元」(名) 襟のあたり。うなじ。 エリミネーター[Eliminator](名) 【理】ラヂォ 變壓器によって、各員空管に必要な種種の電壓を調 受信器・小型数信器叉は電氣蓄音機の電源として、電 降或は巡昇せしめる装置。 池の全部或は一部を除去し、電燈用交流電源を小型

えりもの き[影物](名) ほりもの。 に附く(句) 機勢ある人に追從する。

えりやなるい‐ぎょぎょう …… 24 [魞 築 類 罪の裝置若しくは漁堰を設けるもの。 の周圍に簽义は網を張るか、竹・木・石等を設けて陥 業](名)【漁】定置漁業の一。水面に支柱を立て、そ

えりっわ [襟輪](名)木材な機ざあはせる時に、 方の材の縁に突き出す部分。いりわ。

カ下一)「えりわく」の口語。「ぶ。よる。そりわける「附がはない。」(選分ける」(他動、 えりわけ[選分](名) えりわけること。 しわく。 **えりわく** (ではで、~。)[選分く](他動、カ下二) 多くの中からえらんで、善惑・適否を分つこと。より

えるる (ないに)[彫る](他動、ラ四) 堅いものに える (ならな)[選る](他動、ラ四)えらむ。えら 欠をあける。くりぬく。うがつ。

エルグ [Erg] (名) 【理】仕事の單位。 ダインの力が エル [Ell] (名) 布帛を測る西洋尺度の單位。イギョ ヌのは三尺七寸七分、フランスのは三尺二寸九厘餘。

物體に作用し、之なその力の方向に一センチメート ルだげ動かす仕事に相當するもの。

エルテリズム [Wertherism] (名) (ゲーテの 傑作「エルテルの悲しみ」から出た語)戀愛の爲に生

エルバとう [一島] (名) 【地】 (Elba J.) イタ ナポレオン一世の流謫地として名高い。面積約二三 りーの屬領で、コルシカ島とトスカナとの間にある。 |ル-ドラド [西 El Dorado] (名) 黄金國。

エルマン [Mischa Elman] (名) 【人】ロシャ生 した。米國在住。(「八九」) まれの名提琴家。オデッサ及びベテルブルグで修業、 〇方秆。 一九〇四年以後世界を演奏旅行して我が國にも來朝

エルミン [Ermine] (名) 【動】食肉類の小歌。「い 尾端黒く腹部白く、背部は、冬は白色で、尾端のみ黒 棲し、時には水中に入る。毛皮は衣服の装飾用とし 色となり、夏は赤褐色、腹は黄白に變する。陸上に常 温帶地方に産する。形狀鼬鼠に類し、身長三○糎位。 たち」の類。アジャ・ヨーロッパ・アメリカの北部、寒・

エレヴェーター [Elevator] (名) 【機】電力・水 エルレーブニス [獨 Erlebnis] (名) 體験。 する機械。昇降機。―・ガール [Elevator・girl] 力・汽力等の動力によって、人又は貨物を上下に運搬 て高價に質買せられる。 (名) エレヴェーターの女運轉手。

エレキ(名)エレキテル。 エレクトリック-カー [Electric car] (名) エレキテル [蘭 Electriciteit] (名) 【理】電氣。 エレガント [Elegant] (英、形) 上品な。優雅な。

エレクトリック-カーレント [Electric current] (名) 【理】電流。

エレクトリック-レールウェー エレクトリック-ライト[Electric light] (名) エレクトリック-ベル [Electric bell] (名) 電 (Electric

> エレクトログラフ [Electrograph] (名) 電気 移動させて一つの意味を構成する装置。電光ニュー 看板の一種。電燈で表はした文字又は線な、順次に railway] (名) 電氣鐵道

エレクトロメーター[Electrometer] (名) 電 エレクトロタイプ [Electrotype] (名) 電線 位差を計る装置。電氣計量器。

エレメンタリー[Elementary](英、形)の初歩 エレジー [Elegy] (名) 人の死を悼む歌。挽歌。哀 エレクトロラ [Electrola] (名) 電氣蓄音機。 エレクトロン [Electron] (名) 【理】電子。「歌。 ool] (名) 【数】小學校。 の。〇基礎的。ースクール[Elementary sch-

エレメンタリズム [Elementalism] (名) 【美】 上の新傾向。元素派。 物事の根本的形體のみを認めて表現せんとする美術

エレン・ケー [Ellen Key](名)【人】スウェーテン エレメント [Element] (名) 元素。要素。成分。 の女流思想家。近代婦人運動の先覺者。社會改造殊に ス」「戦争平和及び將來」等がある。(|九四九) 結婚」「見童の世紀」「自由離婚論」「母性のルネサン 婦人の地位向上の爲に努力を捧げた。其の著に「愛と

エロキューション [Elocution] (名) 雄辯術。 え-ろうそく きょ[繪蠟燭](名) 繪なかいて彩色 丁口 [Ero] (名) エロティックの路。色情。性的魅力。 「した蠟燭。

エロス [Eros] (名) ●【神】ギリシャ神話の愛の神。 エローグロ [Ero gro](名) エロティックでグロテス エロクェント [Eloquent] (英、形) 雄辯な。能辯 クなこと、即ち肉感的で磯奇的なこと。

❷【天】小惑星の名。太陽系の火星と木星との間に、

エロティック [Erotic] (英、形・名) 〇戀愛的な。 エロティシズム [Eroticism] (名) 戀愛主義。性 長い橢圓形の軌道をなすもの。 色情的な。性慾的な。日戀愛詩。戀愛學。

えわろう は(****)[歓笑ふ](自動、八四) を エロプレーン [Aeroplane] (名) 飛行機。 L狂。 エロトマニヤ [Erotomania] (名) 戀病。 みわらふ。(古語)

えん [縁] (名) ロゆかり。ちなみ。てづる。たより。 えん [野・監] (名) □つや。□つややか。あてやか。 やうに、人の音を聞きいれないものは救ひやうがな あせってし駄目である。一なき衆生は度し難 繰と好機會とは、時節の來るのを待つべきもので、 の細長い板敷。ーと浮世は末を待て(句)良 用。四へり。ふち。まはり。四えんがは。母屋の端 婦の関係。●【佛】原因を査けて結果をなさしめる作 つづきあひ。關係。⊖人鎗のつづきあひ。血緣。夫 のであること。 ふ。一は異なもの(句)男女の縁は不思識なも い。一に繋がる(句)血線関係のあるものない し(句)如何に佛でも佛絲のないものは救濟し難い

えん [炎] (名) 白ほのほ。ひさき。白へえんしょう) えん [筵] (名) こしきしの。むしろ。日座席。 (炎症)。●勢の榮えること。,権勢ある者。 優美。自あだめいたこと。色めいたこと。

えん [宴・讌・疏] (名) 西無質。無質の即。なきとえん きん [冤・寃] (名) 西無質。無質の即。なきとが。ぬれざぬ。母しへたげ。 えん [鹽] (名) ●しほ。しほけ。●【化】酸の水素を シウムの類。 變じないもの。硫酸亞鉛・硫酸ナトリウム・硫酸カル 金屬元素に置きかへた化合物で、リトマス液の色を 「郷しむこと。さかもり。うたげ。

えん ゑ [圓] (名) ⊖まるいこと。⊖我が國貨幣の基 **えん**[燕](名) [歴』支那春秋戦國時代の國。七大强 **えん**[煙](接尾)戸敷を敷へる語。「神戸六十五ー」。 國の一。始祖は周の王族召公奭(**)。都は薊(北平)。 各點が中心點から等しい距離にあるもの。 の軌跡。一つの線で国まれた平面形で、その線上の 本単位。錢の百倍。〇【數】一點から等距離にある點

その領土は今の河北省、朝鮮の北部に及んだ。 三世八百餘年で、秦の始皇帝に滅ぼされた。

加里鹽の製造原料又は肥料に用ひられる。鹽化加里。

えんあ--- えんか

えんあい [宴安] (名) @遊び樂しんで日を送るこえんあい [煙霧] (名) 煙ともや。 と。日酒色に耽ってなまけ樂しむこと。一は耽審 ことは、砒毒に耽るやうなもので、迷に身な滅ぼす。 (句) (左傳閱公元年の條、齊の管仲の言)消色に耽る

えいろがるさま。

えん・いん [延引] (名) 或事柄のきまった日からのえん・いん [宴飲・讌飲] (名) さかもり。消宴。えん・いた [縁板] (名) 強側に残った板。 びのびになること。おそくなること。えんにん。

がることの

に廢るふすま。

えん・う [煙雨] (名) けぶって降る雨。きりあめ。えん・いん [然[遠因] (名) 遠い原因。間接な原因。をん・いん [然] [波因] (名) ひくこと。ひき用ひるえん・いん [然] えん-いん[奄尹・閹尹](名)支那の後宮に仕へる えん-う[巻字・檐字](名)のき。廂の下。 官吏。(かんがん)(宦官)。 わか あめ。 الم الم

えんらん [煙雲] (名) ロけむりとくも。日盛のヤ エンヴェロープ [Envelope] (名) の包。角封筒。 うに立ちのほる煙の 狀袋。●飛行船や軽氣球の瓦斯囊。氣囊。

前條に同じの

えん・えき[演繹](名) 白敷衍して述べること。日えん・えい [権映](名) おほいかくすこと。 「孫の の一般原理から特殊事質を論結する法で、推理二大 【論】一定の根本原理から未知の事項を推論すると。 ー・ほう!! [演繹法] (名) E論](Deduction)既知 えんかい。[煙火](名) Oかまどの火。炊煙。Oのえんかい。[鉛華](名) おしろい(自粉)。 えんか き…[遠遐](名) 遠いこと。はるかなるこ

ろし。

食する人、卽ち人間。(仙人の對) ―の食(句) 火みし。烽火。目はなび(花火)。―中の人(句)火

を用ひて煮焚した食物。熟食。

۲,

そん・そん [淵淵] (名・副) の数を撃ちつづける撃。 そん・そん [燕燕] (名・副) めらかにくつろぐさま。 そん・そん [炎炎] (名・副) めの絶えんとするさま。 えん-えん [談談] (名・副) 火の燃え始めるさま。 ●靜かなさま。深きさま。 は大事になって手のつけやうがなくなる。 子家語の觀問籍の句)微細な時に止めなければ、遂に ーに滅せずんば炎炎を若何せん(句)(孔 法の一。(歸納法の對) 「あがるさま。 えんが * [垣下](名) 朝廷又は公卿の饗宴の相 えん-か a <-- [圓價] (名) 【經」園の貨幣假旗。 即貨 えんかる~[轅下](名)車のながえのもと、即ち人

の振はぬことの壁。

記魏其・武安傳の漢武帝の語)人の束縛を受けて意氣 に徳役せられること。部下。門下。 一の駒(句)(史

「の購買價値。

舞](名) 垣下座でする輝。(古語)

(名) 垣下の座席。(古語) ―・の・まいまで「垣下 伴人。ゑが。かいしと。(古語) ―のき[垣下座] えんお ……を[厭惡](名) きらひにくむこと。いや えんえん 気[燕婉](名) やすらかでしとやかな えん・えん [煙酸](名) 煙とほのほ。 る(句)煙と磔とが空一面になる。火災の盛んに燃め、全人(煙酸)(名)煙とほのほ。 一天に湿 「こと。又、その婦人。 物體。防腐劑・外科醫藥などに用いる。 叉は酸化亞鉛を、鹽酸に溶して得た白色の潮解性の

えんか「嚥下」(名)のかくだすこと。 とんおんのっさ (温度[宴穏座](名) 安座と程座をんおんのっさ (温度[宴穏座](名) 安座と程座 契(句) 夫婦仲の睦じい譬。一の衾(句) 男女が共えん・おう 號 [鴛鴦] (名) 【動人おしどす)。一の 「刑を受けること。●しへたげ。 ٤ えんかい[沿海](名)日海に沿うた陸地。うかべ

えん-か[煙霞](名)●煙と霞。●天然の景色。--療養すること。 一の痼疾(句)深く山水の景色を 呼吸器病の人が、新鮮な空氣に 惠まれた地に行って りょうよう シャル[烟霞療養](名) 神經衰弱や 好んで之に執著し、旅行を好む智癖。一の癖(句) 海州](名)「地国本海及びオホーツク海に面したシ海航路](名) 沿海航海の航路。――しゅう」、[沿海航海の開始。――しゅう」、[沿海諸湾の間を航行すること。――こうろ ベリヤの一部。沿海縣。——しょうぎょう 引い

えんか[縁家](名) 婚姻による親族。みうち。しん ぞく。しんせき。しんるゐ。えんぺん。つづきあひ。 えんーかい いょく[宴會](名) 集まって酒食を設け歌 (海岸線)。一ぼうえき[沿海貿易](名)(え よる商業。ーせん[沿海線](名)かいがんせん [沿海商業](名)沿海各港の間に行はれる海運に んかいしょうぎょうし

えんかい 浸[遠海](名) 陸地を遠く離れた海。 えんがい [煙害] (名) 工場の煙突から吐き出す硫 魚で、かつな・まぐろ・さんま・しいらの類。 舞などをすること。さかもり。うたげ。 黄分を多量に含んだ石炭の煙又は火山の噴煙等が、 -きょ[遠海魚](名)【動」常に遠海に接息する 森林・農作物を害すること。

えんかカリウム ……· [鹽化一] (名) [化] えんかいなぶし[縁かいな節](名)明治二十 えんがい [掩蓋] (名) ロゼほひ。回類境・掩壕など 減へたものo 年頃に行はれた俗話。歌の終りに「縁かいな」の語を の上を木材・石材で覆うて敵彈を防ぐ屋根。

(Kalium chloride)白色立方體の結晶物で、加里石鹽 として天然に産し、顕素酸加里・硝石・苛性加里等の

えんか·アンモニウム、、。…[鹽化一](名)【化] 混じて製した白色の固體で、水に溶解し易く、其の溶 (Ammonium chloride)アンモニャと鹽化水素とな 液は中性の反應を呈する。電池・鐵づけ等に用ひられ えんか-カルシウム ……、「鹽化ー」(名) 【化】 (Calcium chloride)水に溶け易い無色のカルシウム

割せられた海。日本海の如きは其の例である。 えん・かい「縁海」(名)【地】半島及び列島などで區 る。確砂(なし)の

で、調色劑として用ひられる。

ride) 金に王水を作用せしめて製した化合物。寫眞術

製氷機の冷却媒劑として用ひられる。 鹽。諸種の化學製造の副産物として得られ、脱水痢・

漁業](名)【漁」陸地に近い海でする漁業。(遠洋漁り。日陸に沿うた海。――ぎょぎょう …けい 沿沿海 業の對) ―-こうかい !!![沿海航海](名)沿 えんかく は [遠隔] (名) 遠く隔ったこと。えんかく [沿草] (名) うつりかはり。へんせん。えんかく [烟客](名) 山燗を吸って生きてゐる人。 えんか-ぎん。…(鹽化銀](名)【代](Silverchio する。寫真の印瓷紙の材料に用ひる。 で、水及び酸に溶解せず、日光にあてれば紫照色に變 ride) 銀鑞の浴液と 鹽化物とを混じて得る白色粉末

えん-がく [縁覺] (名) 【佛】十二四縁の生滅の法を る数法。 ―-じょう [終覺乘](名) 【佛】終覺の地位に達す 親するな縁として、不生不滅の眞理に悟入する地位。

えんがく [八] [国受] (名) 【佛」風滿なさとり。 弘安五年(一九四二)創建。―じしは[団覺寺派] 鎌倉郡小坂村にある臨濟宗圓覺寺派の大本山。開山 全なさとり。 ー-じ [圓覺寺] (名) 【佛】神奈川縣 (名)【佛】圓覺寺を本山とし、祖元を祖とする臨濟宗 は宋僧祖元。開基は北條時宗。鎌倉五山の第二位。

えんかクローム [鹽化一](名)[化 葉狀粉。又は潺浜によって製する結晶體。網・木綿の (Chromium chloride)酸化クロームと 木炭とな鹽 素瓦斯中で强く熱し、昇華して得る薫色の光澤ある

えんかすいそこ。[鹽化水素] (名) [化](Hy drogen chloride) 鹽素と水素との化合物で無色の刺 戟性臭氣ある氣體。普通に鹽酸瓦斯と稱し、水に溶解 は輕粉と猛災叉は昇汞との二種がある。

えんかすず。[2 [鹽化錫] (名) [代](Tin chlo 化第二錫とある。共に媒染劑に用ひられる。 ride) 錫の鹽化物で、白色・針狀の結晶體なる鹽化第 したものは鹽酸である。食鹽に硫酸を加へて製する。 一錫と白色の結晶體叉は無色乃至黄色の液體なる鹽

えんかつい、[国滑](名) つかどだたずなめらか えんかすら がか[緑葛](名) 【建」切目線の束の 間に通して、緑板を支へる横木。

なこと。●物事が故障なく行はれること。

えんか-ぶつ [| | | | | | | | (名) 【化】(Chlorides) 鹽素と他の元素との化合物。

えんか・マグネシウム ……、 [鹽化一] (名) 溶解性に富む苦味ある結晶體。 【化】(Magnesium chloride) 組製食鹽中に含まれ、

えん-かまち [線框] (名) 【建]横線(メイセ)の東(タン)に 取りつけて根太の端を承ける様木。

えんかわせい、[風爲替](名)【經】我が國の固えんがわ、[世[綠側](名)室の外にある板敷。 えん-がる [ティティテン] [艷がる] (自動、ラ四) めかしい姿をする。あだっぽい風をする。 なま

えん-かんらく [曜官](名)支那の後宮に仕へる官 貨幣と外回貨幣との比較價值。

えんかん と、[捐官](名) 支那清朝で、 金したものに官職を授けたこと。 度。(かんがん)(宦官)。 人民の歌

えんかん タス~ [捐館] (名) (居館をすてて去る 義)諸侯などの死すること。

えんがん [沿岸] (名) ●河海叉は湖に沿うた岸。 たんかん gu (畑管)(名) 御製の管。主として給えんかん gu (畑管)(名) 外増を通す管。 の様 たんかん gu (畑管)(名) の増を通す管。 海」(名)【法】海洋の陸地に沿うた部分。干潮時の海 ●陸地に沿うた河海叉は湖の岸。 ――かい [沿岸 水・排水・瓦斯工事等に使用される。 岸から九粁五五八以内は、其の國の主機に屬する。 「烟の通過する管。

> に行はれる貿易。(海外貿易の對) ――りゅう [沿岸流](名)【地】海岸に沿うて流れる潮流。 ― ぼうえき [沿岸貿易] (名) 【經】沿岸各港間 3

えんがん。きょう 談… [遠眼鏡] (名) 【理」遠視 えんがん は [遠岸] (名) 遠く離れた岸。 眼に用ひるめがれ。老眼鏡。凸レンズのめがれる

えんがん-ことう [燕 韻 虎 頭](名) (後漢沓班超 傳の語)燕に似た頷と、虎に似た頭の人相の人で、異 域に赴いて封侯ともなるべき運命を有する人。

えんかん-るいかん然…[淵鑑頻函](名)【文】 築したもの。四五○巻。 清の康熙四十九年(一七一〇)に張英が勅を奉じて編 天部・歳時部・地部等より食賦・草木・魚介等に至る四 唐・宋・元・明の詩文などにある字句・事蹟を博採し、 十五門に分類して、故事成語を葉輯した書で、支那、

えん-き[鹽基](名)【化】(Bases)酸と化合して暖か 生じ得べき化合物。水酸化亞鉛・水酸化ナトリウムの 如きしの。 زّ

えんき[厭忌](名)いとひいむこと。きらふこと。 えん・き [愆期] (名) 時期をあやまること。 えん-き[捐棄](名)すてること。 えん-き[延企](名) 首を延べ足をつまだてて望む えんーき きた…[冤鬼](名)冤罪の為に刑せられたも えんき[延期](名)期限なのばすこと。一しょ のの浮かばれない亡魂。 ら [延期證](名)約束の期限を延げすことを證明 しした文書。

えんき[演戲](名)えんげき。しばる。 えん-ぎ [縁起](名) ●【佛】因と繰と相應じて萬法 えんきゃん…[遠忌](名)違くへだたった年息。 社寺の縁起を書いた翰。――じょう。」「縁起状」 傳說。●前兆。きざし。―-之一[縁起繪](名) が生すること。●神社・佛閣等の由來又は鐵驗などの [縁起棚](名) 縁起を祝ふ爲に、家の内に設けた神 (名) 社寺の草創・由來等を配した文書。 ー-だな

縁起のわるいのをよいやうに拂ひ清めること。 佛混淆の神棚。 ――なおし 引き[縁起直] (名)

もの [縁起物] (名) 緑起な脱ふ鶯の品物で、多く

えん-ぎ[演義](名)●事實を敷衍して面白く説し 味を添へ、俗語で記述した書。――さんごくし[演 こと。●支那で、歴史上の事實を修飾して小説的輿 んことを親ひ祈る。 義|三國志](名)【文】支那元の世に出た歴史小散 は迷信に関する物の を配ふ(句)吉事の到來せ

えんき[演技](名)多人数の中で、種種の遊技を する場所。 行ふこと。――じょう いで[演技場](名) 演技を で、羅貫中の作だといふ。

種の部門を分って、古典・故事・熱語・成句等を掲げ、えんき・かっぽう はばく[圓機活法](名)【文]種 えん-ぎ[延喜](名) 醍醐天皇御字の年號。延喜の 治と稱し、太平の時代として称せられた。(|張二) 作詩者の便に供した書。二四卷。明の王世貞校正、楊

えんぎ・きゃくしき [延喜格式] (名) 【文三代 たもの。格一五卷・式五〇卷。「格」は韶勅官符、「式」 格式の一。弘仁格式と貞觀格式との後を承けて、延 喜格と延喜式とな藤原時平等に勅して撰せしめられ 宗参阳。

えんきさん [鹽基酸] (名) 【化]酸の秤。其の分 酸で、一・二・三は水素原子の敷である。 ふ。硝酸は一鹽基酸、硫酸は二鹽基酸、燐酸は三鹽基 子式の水素が、金屬に置換へられるから鹽基酸とい

した沓。五○巻。●管行の儀禮にのみなづむ人を嘲っ 勅を挙じて撰した、貞觀十一年から延喜七年までの 禁中年中式・百官の儀・臨時の作法・國國の恆式 を記

salts) 鹽基中に水酸基の一部を保有する鹽基で、 基性硝酸鹽などの類。

は禁中の儀式・作法である。

えんぎしき [延喜式] (名) OK文J藤原時平等が

えんきせい-えん [鹽基性鹽] (名) 【化】 (Basio する金属の酸化物で、酸化亞鉛・酸化鐵などの類。 カリを生じ、又は酸に溶解し、これを中和して鹽を生 化物](名)【化】(Basic oxides) 水と化合してアル 雖

> の一。有機鹽基と鹽酸义は他の酸類と鹽類から成れ 料](名)【化](Basic colouring matters)人造染料

い塚。〇昔、郊外で天皇が天を祀られた時、神靈代之ん・きゅう。於[]風丘](名) 〇まるい小山。まるえん・きゅう *** [|液(八)](名) 長い間の道骨。 えんきゅう 號[風球](名)まるいたま。 (ほがき)としてつくられた倒い塚。

えん-きょうないを[遠郷](名) 遠い他郷。遠く離れ えんきょういい。[遠境](名)遠い園境。遠い図。 えん-きょう 景な[風鏡](名) ●回い鏡。●回い月 えんぎょ [鹽魚] (名) 鹽漬にした魚。「影の形容。 えんきょ[燕居](名)安息して家にゐること。 暇・無事であること。安居。

えんぎょう 段 [圓 教](名) 【佛】大乘究極の宜敬。 えん-ぎょう **** [假仰](名) うつむいたりあふの 「いたり。 俯仰。

えんきょく [姚曲] (名) とほまはしにいふこ えんきょうどう ミッシャ [縁行道](名) 【佛】念佛 や經文を誦しながら、綠側などをめぐる修行。 天台宗でいふ四数の一。

えん-きょく[宴曲・延曲] (名)【文】鎌倉時代から 引き天台聲明(でいなから)を加味して製作されたもの。 られ、今機の一種の早歌(パ゚)や白拍子(マシラロ)の系統な の間に行はれ宴席や佛数の清式の法郷にも多く用ひ と。露骨にならぬやうにいふこと。 室町時代に流行した誘物の一。貴族・武士・僧侶など

えんきょり (金 [遠距離] (名) 遠い 距離。 ——し えん-きり [縁切] (名) 親子・兄弟・夫婦・親族など にあった榎の老木。離別を欲する男女が、此の樹を念 の関係を絶って、他人の関係となること。――その にくい場合に特に定めた形象によって行ふ信號。 信號の一。遠距離叉は天候等の爲に信號旗の見わけ じ、その皮を相手に知れぬやうに煎じて飲ませれば、 き [縁切榎](名)【傳】もと、東京市板橋區板橋町 んどう……[遠距離信號](名) 【船」萬國船舶

有してゐたといふ寺。特に鎌倉東慶寺の特稱。 代に、驅け込んだ女を助け、夫と離別せしめる特権を 心願が叶ふといふ。―でら[縁切寺](名)江戸時

えんげ [艶げ] (名) なまめいた姿。(古語) えんぐん は[援軍](名) 救ひの軍隊。加勢。 えん-ぐみ [縁組] (名) □夫婦·養子·養女などの關 えん-く[厭苦](名)いとひ苦しむこと。 えんきん浸[遠近](名)の遠い所と近い所と。 係を結ぶこと。●婚姻。●【注】組統上、親子でない 體の上に起こる變化を表現する法。(縮證などにい 法](名)【美J(Perspective)距離の遠近によって、物 の【美】輪車で遠近のかきわけ。――ほう 川 [遠近 しのが、法律上親子の關係を結ぶこと。養子縁組。 رجي ا

えんけい [烟景] (名) ②遠い將來の計。子孫 えんけい [炫[遠計] (名) 鑑方の景色。『こと。 えんけい [炫[遠景] (名) 鑑方の景色。『こと。 えん-けい [燕京](名)【歴」今の支那の北平、即ちも の針。〇遠大な計。 との北京。春秋戦闘時代の燕の都、薊(い)のあった所。

えんけい き[圓形](名)まるい形。―とくは えん-げい [演藝] (名) 公衆の前で、落語・講談・演 生する皮膚病。たいわんばうす。 つ[圓形禿髮](名)【臀]頭髮等に圓形の脱毛部を

えん-げい!!^(園藝)(名)【農】蔬菜·果樹・庭樹・花卉 園藝を主とする農業の 培養を研究する所。―しょくぶつ [園藝植物 う…いい [園藝試驗場](名)【農園藝上の植物 関・舞蹈などの遊藝をなすこと。 (名)【農」園藝作物。――のう [園藝農] (名) 【農 (名) 【農】園熱上培養する農作物。――しけんじょ などを栽培すること。一さくもつ「園藝作物

えんげき [推撃] (名) 敵の不意に乗じて襲い撃つ エンゲージメント [Engagement](名) 約束。 エンゲージ [Engage] (名) 日婚約すること。日 約の證としてとりかはす蒲鉾形の金指環。 事務を執ると。ーリング[Engage-ring](名)婚 「婚約°

> えん-げき[演劇](名) 役者が脚本によって扮裝し、 に設けた建物。芝居小屋。 げん。――じょう トデ゙[演劇場] (名) 劇をする為 種種の言動を觀客の前に行ふ藝術。しばゐ。きやう

えん・げつ [烟月] (名) 水蒸氣にかすむ月。 えん-げつ [偃月] (名) ●新月・鼓月。●顔の筋が えんげた [縁桁] (名) 緑側のふち。えん。 た出丸。 1-とう 計[偃月刀](名) 薙刀に似た ーじょう いじ[偃月城](名) 偃月の形につくっ 偃月の形ななすもの。貴人の相。●偃月の形の陣立。

エンゲルス [Friedrich Engels] (名) 【人】ド り科學へ」等がある。(|八元の) 支那の武器。 論第二・第三」「私有財産制度と國家の起原」「空想よ マンチェスターに住す。その著に、「マルクスの資本 の創設者。南ドイツの暴動に参加して関を追はれ、 主義者。國際勞働者協會(第一インターナショナル) イツの經濟學者。マルクスと竝稱される科學的社會

えんけん [延言] (名) 呼び寄せて面倉すること。 えんけん [延言] (名) なまめいた言。 たんけん [延言] (名) なまめいた言。 た。 えん-けん[高屑](名)かどだった層。あがりがた。 えん-けん[偃蹇](名)のおごりたかぶるさま。の えん-げん [淵源] (名) ●もと。根源。●物事の起 高く聳えるさま。目舞ふさま。回りつばなさま。 りもとづく いかりがた。 「ひき入れて對面すること。引見。

えん-げんどう ※※…[袁彦道](名) 支那東晉の人 えんげん [延元] (名) 後醍醐天皇御字の年號。北えんげん [延元] (名) うちみのことば。うち えんこ(名)坐ること。(幼兒の語) 朝では建武の年號な機綱し、三年で暦應と改めた。 「の名。博奕に巧であった。轉じて博奕。

えんこ & c... (名) 後草公園のこと。 (際語)

えん-ご[掩護](名)のおほの守ること。の「軍」軍 えん-と[淵平](名・副)深くて奥底の知れぬさま。 助けること。一たい「掩護隊」(名)【軍」掩護の る時、或部隊が敵軍を射撃し、味方の作業等の達成を 事上、味方の作業叉は或目的物を保護させるため或 よしみ。●えんつづき。つづきあひ。 爲に派遣する部隊の 護射撃](名)【軍】味方の軍が或作業などなしてゐ 部隊をして敵に當らせること。―しやげき「掩

えん-ど [縁語] (名) 【文】歌文中に、意義の上に縁 故のある言葉を巧みにつかって、彼此照應して修飾

えん-ご き… [接護](名) たすけましること。 えんど き… [婉語] (名) とほまはしにいふ言。 することの 「骨でないやうにいふ言。 露

えんとう 號[遠郊](名) 都會から遠くへだたっ えんこう は [遠侯] (名)とほものみ(遠物見)。 えんこう 號[遠行](名) 遠くへ行くこと。 えん-とう。弦へ[圓光] (名) 【佛】佛・菩薩の頭上か 遠い村。(近郊の對) た所。支那では、都合から五十里以上百里以内の地。 「ら放つ光明。ごくゃう。 e

えん-とう ** [猿猴](名)【動」の猿猴の総稱。 の變種。枝條著し 猴杉](名)【植】杉 てながざる。 ー・すぎ [猿

えんこ [縁故](名) ロゆかり。たより。ちなみ。 「リン質氏書の質言)得られない物を望む為に、命富む。さることやうじやうの類。 --月を取る の宿根草で水邊に生する。草](名)【植】毛莨(ホルキ)科 毛少く、人類に近い。性狡猾・怜悧・喧噪で、模倣性に 作用をする。全體は毛でおほはれてゐるが、顔には 手のやうである。―-るい引[猿猴類](名)【動] で、盆栽として高く釣る時は、花莖は垂れて手長猿の 翻狀心臓形で、長い花莖を有する。花は黄色の小形 **整は地に沿うて延び、葉は** ある。―そう!![猿猴 く伸びて猿猴の手のやうで 人類に最も近い動物で、體は直立し、四肢は営手の

えんこうきんこう きょう [遠交近攻](名) 支 えん-ごう 智[掩壕](名)【軍」敵彈に對して人馬 の傳統的政策と称せられてゐる。 際を結んでおいて、近い園園を攻め取ること。支那 那段國時代の范睢の外交政策で、遠い國と親しく交 を失ふにいふ。 「を掩誕する爲に掘り開いた壕。

えんこう-るい ………。[圓口類] (名)【動】脊椎動物 吸著する智性がある。八目鏡・盲鏡の類。 鱗なく、對の鰭を有せず、漏斗狀の口を有し、他物に 中、魚類に對する一綱(學問上魚類に屬せす)。頭部に 軟骨の頭骨があって、皮膚は 粘液分泌の為に滑かで

えん・ごく ほ [遠國] (名) 遠方の回。遠く隔った せた奉行、即ち京都・大阪・伏見・駿府等の町奉行と、 國。――ぶぎょう *** [遠國奉行] (名) 江戸時 新潟・日光・下田等の要地の奉行。 長崎・浦賀・神奈川・函館・奈良・山田・兵庫・堺・佐渡 代に、遠國にある幕府の直轄地に置いて政務を掌ち

えんごさく [延胡索] (名) 【植】罌粟(t)料の多年 とする。支那の原産。 する。四月頃碧紫色の花を總狀に綴る。塊莖は鄭用 生草本。高さ二○糎位。塊莖を有し、葉は再三分裂

えん-ざ[縁坐](名)関係者等が罪にかかりあって共 えんときぬを [怨嗟](名) うらみなげくこと。「席。 えんこん 流[怨恨](名) うらむこと。うらみ。 に罰せられること。まきぞへ。連坐。 んさ[宴座](名)節台・大甕などの時の獻酬の座

(杉 猴 猿)

えんざ[宴坐](名)【佛】足を組んでらくにするこ えんざきた…[圓座](名)のくるまざ。まとね。の き[圓座林](名)【植】柿の一種。實園く、帯(た)の 回形に縫ひつくり、綠のみ色なかへたもの。 ―が し[圓座蟲](名)【動】やすで(馬隆)。 まはりの肉が高くなって疳の如くなったもの。 だ。わらざ。●公卿の用ひた一種の座藩関で、布帛で 薬・菅・萠・蒲などで、渦巻形につくった敷物。わらふ

えんさい は (冤罪)(名) 無質の罪。 と。坐禪。 「遠くの國境の

えんさかほい(副)軍い車を曳く時などの掛撃。 エンサイクロペディヤ (Encyclopaedia へん-さき [緑先] (名) 緑側の端。 (名) ●百科辭典。百科全書。●ものしり。

えんさく [鉛醋] (名) 【化】醋酸鉛の水溶液に酸化 えんさく‐ほうぜい \tau [圓鑿方枘](名) (史 記孟軻傳に「持』方林・欲」内・園鑿「共能入乎」とある に基づく)固い孔に四角なほぞな入れることで、兩者 液。醫術・化學の實驗等に用ひる。 鉛を溶解したもので、收斂性の甘味ある無色透明の

えん-ざしき [縁座 敷] (名) 母屋(い)と共の外側の の相容れざることの 終との間にある座敷。ひさしのま。いりがはc

えんさつ | [圓札] (名) 回位以上の紙幣。 えんさだめ [縁定] (名) 緑粗のとりきめ。

えんさん [鹽酸] (名) 【化】(Hydrochloric acid) 願 する。工藝用・薬用とする。 ―-カリ [鹽酸加里 を溶解して水素を發生せしめ、金屬の水酸化物を生 化水素の水溶液。純粹のものは無色透明であるが不 純なものは黄色を帯びる。酸性強く金屬(銅を除く) (名)【化】(Kalium chlorate) えんそさんカリウム。 えんじるな[遠瀬](名)とほいとちかいと

えんさん ほ[遠竄](名) 〇遠島に流すこと。〇 えん。さん [鉛槧] (名) (昔、支那で、鉛粉で槧(な)に えん-さん [演算] (名) うんざん。 えんさん 浸 [遠山] (名) 遠くの山。とほやま。 ること。操觚(こう)。 「遠方の地に遊れ隠れること。 1の眉(句)遠山の色にも譬へるべきほんのりと 文字を書いた事に基づく○●紙と筆。●詩文を草す した美しい眉。 「つかひ。

えんし[偃師](名) くぐつし(傀儡師)。にんぎやう えんし 冬…[園司](名) 古昔、莊園の事を司った えんし [鹽豉](名)味噌。なっとう。 しじ(臙脂)。 えんし[燕支](名) O【植】べにばな。日べに。えん たん-し ☆~ [遠視] (名) ●遠方を視ること。●Cえ そんし[鉛絲](名)一端に鉛の玉をつけた絲で、 ーがに[遠視畫](名)【美」(うき 『重力の方向を見るに用ひる。

> えんし[臙脂](名)のべに。日(しょうえんじ)(生職 えん-じ[行字](名) 語句中にあやまり入った不要 蟲で、サポテンに寄生する。 脂)。●紫と赤とを混じた繪具。 ―・いろ[臙脂色] としてよく親得ぬ眼。老眼《近視眼の對》『の文字。 ―-ちゅう [臙脂蟲] (名) 【動】有吻類の微細な昆 臙脂に墨を交へた緯具。赤黒色で 栗色に 似てゐる。 (名) 臙脂で染めた紅色。―-ずみ [臙脂墨] (名) 弱い為に、遠方の物は能く視得るが、近い物體が朦朧 え)(浮費)。―・がん[遠視眼](名) 眼球の風折力

で殺し、乾かして粉末としたものなコチニール して體を包む。之を熱湯 質に富んだ蠟質物を分泌 があるが、雌には無い。樹脂 赤褐色で、雄には透明な翅

chineal) と稱して染料とする。 ģ

えんしつ [煙室] (名) 火力を用いる汽罐の煙を集 えんしつ [鉛室] (名) 鉛板で関んだ大きな箱で えんしつ[燕室](名)休息する室。 えんしかい。[燕子花](名)【植」かきつばた。 えん・じ * 4 … [遠寺] (名) 遠くにある寺。 硫酸製造に用ひられる。

えんじつ-てん は、[遠日點](名)【天」くえんに めて、煙災へ導き出す爲に設けた室。

えんじ-まがき [えんじ離] (名) ついがき(等 エンジニーヤ [Engineer] (名) 機械技師。機関 ちてん)(遠日點)。 垣)。(古語) 「手。運轉手。

えんしゃく[燕雀](名)のつばめと後と。の度量 えん-じゃ[縁者](名)みうちの者。緑つづきの人。 えんしゃ [遠寫] (名) ●活動寫眞で、場面を暗 の小さい人。小人物。一るいる[燕雀類](名) ーーつすき引き(緑者續)(名)血統のつづいた者。 く寫したフィルム。日遠方まで寫すこと。 【動】鳴禽類の鳥。鳴管發達し、よく飛翔し、巣を巧み に造る等の特質を有する。むくどり・しず・やまが

えんしじゃくと、[圓寂](名)【佛】(圓滿に寂滅する えんしゃく 流…[婉弱](名) たをやかでかよわい 意)●僧侶の死去。●涅槃。 物の心を知り得ねことの譬。 や (句) (史記陳渉世家の陳渉の言)小人物には大人 り。せきれい等。一安んぞ鴻鵠の志を知らん ら・つぐみ・つばめ・ひよどり・うぐひす・めじろ・ひば

(名)【人】中華民國の軍人・政治家。山東省に生まれ、 をん・しゃくざん [閣 錫 山] [Yen Hsi-shan] 軍第四軍總司令の任にあった。(「八八二) 我が陸軍士官學校卒業。山東都督・山西省督辨・國民

えん-じゃっきょ、……。[閻若璩](名)【人」支那清 「四書釋地」等の著がある。 **歿。年六十九。「古文尚書疏證」「孟子生卒年月日考」** 朝の儒者。字は百詩、潛邱と號す。山西省太原の人。 經史に通じ、考證に長す。康熙四十三年(一七〇四)

えんしゅ。然[園主](名) ●庭園の持主。●遊園の えんしゅ[延壽](名) 壽命を延ばする。ながいき。 えんしゃほう いで[遠射砲](名)【軍」要塞戦で **えん-じゅ ||||(槐)(名)** 詞。--とそさん[延壽屠蘇散](名)とそ。 らしめる家。又、病僧を療養させる所。■火葬場の忌 ーとう 17 [延壽堂](名)【佛】〇老者・病者を居 遠距離から發射する射程の大なる火砲。 『所有主。

は奇數羽狀複葉で、初 色で皺點がある。葉 位。樹皮は淡い黒褐 で、幹の高さ一〇米 【植】萱科の落葉喬木

夏、稪總狀花序の黄白色の蝶形花を開く。木材は木 理緻密で堅く、建築・器具に用ひ、芽は染料となる。

えんしゅう …に[演習](名)のおさらへ。けいこ。 えんしゅう [[沿襲](名) 昔からのならはしに えんじゅあん。Act [圓珠庵] (名) 大阪市東區東 CIII大 Dにこで寂した。 高津餌差町にある僧契沖の庵。契沖は元禄十四年 「従ふこと。

> 爲に設けた森林。 演習の場合に、在郷軍人を召集すること。 動。――しょうしゅう 江ば 演習 召集](名)【軍】 爲、又、平素習得した能力を檢する爲の假設的軍事行 ●【軍】陸海軍で、軍隊又は艦隊を實職に慣れさせる [演習林] (名) 林學の質地研究をなす學生・生徒の

えん-しゅう !禿 [圓周](名) ●園のまはり。O【敷】 ずれば、圓周の長さを知ることが出來る。 比。三、一四一六弱に當り、直徑の長さに此の比を乘 **━-りつ** [圓 周 率] (名) 【敷】圓周とその直徑との (Circumference) 一點から等距離にある閉曲線。

えんしゅうあんどん きょう[遠州行燈](名) えんしゅう い [怨讎] (名) うらみ。仇。

えんしゅうがたとう 燈籠](名)小 ろう。沈い、遠州形

(艦燈形州遠)

た行燈。まるあんどん。 小堀遠江守政一の案出し

案出した石燈籠 掘遠江守政一の

で、主として茶室の庭に用ひるもの。

えんしゅうなだいた[遠州灘](名)【地」即岡縣 風波の荒い難航路である。 西に横たはる太平洋の海の別稱。四日市·横渡間中、 の東南端御前崎から三河の渥美半島に連る地域の前

えんしゅく きに [圓熟](名) の十分に熟達するこ えんじゅきょう 鉄… [圓 珠經] (名) 論語の異 えんしゅうりゅう 添た[遠州流](名)小堀遠江 と。母主角がとれて如才のないこと。 守政一を祖とする茶道及び插花の硫版。

えんしゅつ [燕出] (名) 天子の御徼行。 えんしゅつ [演出] (名) ●舞楽監督が、原作の戯 た上演すること^o 曲を舞峯上に生かしつつ上演してゆくこと。●脚本 しいことの

えんしょ[炎暑](名) 甚だしい暑さ。酷暑。 えんしゅつ [淮恤] (名) 他郷にさすらうて盛へ間 えん・しょ [終書](名)ゆかりを求めて差出す書面。

えんしょう いし[炎症](名) 【いConflamation) エンジョイ [Enjoy] (英、動) 享ける。 樂しむ。 享 えんしょい (怨女](名) 終遠く婚期がおくれて世 えん・じょい [艶女] (名) 容貌のあてやかな女。な えん・じょは [援助] (名) たすけること。助勢。 えんしょう いで [煙障](名) 烟雲のかかった峯。 エンジョイメント [Enjoyment] (名) 享受。享 えんしょ [演書](名) 本文の意義ないきのばして えんしょ [野書](名) 恩慕の情を書いて送る手紙。 細菌・化學薬品等の作用の爲、身體の一部に潮紅・腫 はせる[艶書合](名) 艶書を左右に組合はせ、其の優 いろぶみ。けさうぶみ。ラヴレター。ーあわせ 「なうらみ已なうらむ女。 「有。享樂。歡樂。 強くこと。

えんしょう[厭勝](名) (まじない)。 ーーせん えんしょう いし[縁生](名)【佛】し切の萬物は 因縁の和合によって生すること。 脹・疼痛・發熱等を起こす症狀。

えん-しょう …[焰 硝] (名) O硝石。O火薬。 —-たんしょう ** [延焼](名) 火事のもえいろがる [厭勝錢](名) 凶災を避け吉祥を求める爲に、まじ る絽硝の火。 び [焰硝火] (名) 芝居で幽霊の出る前後等に用ひ なひとして用ひる錢。

えんしょう ほ…[遠稱](名)(文法) あれ」「かれ」 方向を指示する代名詞。(中称・近称の對) 「かしこ」「あなた」等の如く、遠くにある事物・場所・

えん・じょう はに[圓成](名) (佛] [側成質性] (名) えんしょう いし [炎上](名) の火の燃えあがるこ えんじょう いに[艶状](名) えんしち えんしょう[野稱](名)盛んにほめたたへること。 と。●殿閣・城郭等の大建物の火事にあふこと。 【佛】圓滿に成就しな眞實の本性。

えん・じょう テデヒ [縁成](名)【佛】 切のものは因

えん・す「たいまする」[宴す](自動、サ髪)酒宴を保

えんしょく [艶色] (名) つややかな容色。 えんしょく [緑飾] (名) 〇節を施すこと。 緑によって成ること。 「を飾ること。 ●表面

えんしょく [聚食] (名) 腹いっぱいに食ふこと。 えん-しょく [焰色] (名) (Flame-colour) 吹管分 えんしょく **[怨色](名) 怨んである顔色。 の鑑識・化學分析用などに應用せられる。 色、即ち黄・紫・赤・深紅・緑・濃緑色に輝くこと。 顧物 臘頬を無色の烙の中に入れる時、烙が各金屬獨特の カルシウム・ストロンチウム・バリウム・銅等の金属 (名) 【化】(Flame reaction) ナトリウム・カリウム・ はれる種種の色。一はんのう。」に、「烙色反應 析で、ランプの火焰に接した鏡物の為に、焰にあら

えんし-ろう[燕子樓](名)(支那、唐の張建封が、 眄眄(₹M)といふ愛妾を住まはせた樓の名に基づくご

えんしん [婚心] (名) 【化】ないえん(内閣)。 點から等距離にある一定點。圓の中心。

經](名)【生)神經細胞の興奮な中概より末梢に向えんしんせい-しんけい ********** [遠心性神 えんじん[閥人](名) えんいん(陽尹)。へかんが えんじんいに[烟塵](名)のちりほこり。日世上の えん-じん kt [遠人] (名) 遠國の人。 エンジン [Engine] (名) 機關。機械。機關車。登 ん)(宦官)。 かって傳達する神經で、運動・分泌・血管運動・抑制神

えんしん-りょく *** [遠心力](名) 【理】(Cent-えんじん-へき [厭人癖](名)他人を嫌って避け けるやうに考へられる。この假想的の力を遠心力と rifugal force)圓運動をなせる物體が、求心力の作用 するから、物體はさながらその反對の力の作用を受 を受けた時、物體は其の慣性によって求心力に抵抗 經などが之に属する。 「る性癖。 7, の時、又は臨時の大線などの後に、殿上で藏人頭以下えん・ずい *** [淵酔・燕醉](名) 昔、禁中で五節

えん・するぐていいです。}[怨す](他動、サ變)う えん・すいなかか。」(演す」(他動・サ髪)のへおこ 『人の賞味する食品。燕窩。燕窩菜。

らむ。(古語)

えんすいまる「照水」(名)食鹽を加へた水。しほみえんすいまる「烟水」(名)水蒸気の立ちこめた水 採って種籾とすることの 鹽水に入れて、浮いたものを取り去り、沈んだものな づ。—-せん[鹽水選](名)【農】稻·麥等の種粉を

えんすいは、「遠水」(名)遠方にある水。一えんすいは、「遠座」(名)遠い園境。遠層。えんすいは、「遠陲」(名)遠い園境。遠層。 ては急場の役に立たないの意。 水は、近所の火を消す役に立たない。●遠方に居っ 火を救はず(句)(韓非子説林篇の句) ・遠方の

えすいたい。--かじょり、[圓錐花序](名)をんすいは(圓錐)名(数人えんすいけい)。へえ た時生する面。圓錐體の表面。 に定點と同じ平面上にあらざる曲線に沿うて囘轉し 【植】下力の枝が長大で、上方に 至るに從って漸次短 関して平面とした地圖。--安く[圓錐木](名) 蠲法。●【地】地球の表面を圓錐面に投影し、之を展 影法](名)●闘上の圓形な圓錐面の上に投影する る立方體。―とうえいほう …… [圓錐投 錐體](名)【數】圓錐面と之を切る平面とに含まれ 【敷」回錐體の形。ーナほう『、「圓錐圖法」 回・壁曲線・抛物線の総稱。——けい [回錐形](名) 方向に切った断面の周園をなす種種の曲線で、圓・檐 くせん [囚錐曲線] (名) 【敷】直圓錐睑を種種の 慢闘錐形をなすもの。↑なんてん」の花の類。 【植】線狀花序の一變態。花枝が不規則に分岐して、全 めん[圓錐]面](名)【数】定點な過ぎた直線が、常 小となり、圓錐形をなす樹。「すぎ」「もみ」の類。 ― (名)【地」へえんすいとうえいほう)。ーーたい[圓

の殿上人が酒宴を賜はって、管絃・歌舞などして歌樂

えんずい まる[延髓](名)【生】後頭の頭部にある て、脳と脊髓との聯絡をなす部分で、脳の命令の傳達 生命に最も必要な所。綱針の一刺創もよく生命を絶 路となり、反動路となり、呼吸中樞・心搏中樞となり、

えんずける。(のいかなかる)(縁附ける)(他えんすくかいがり)(縁附く)(自動、カ四)結 えん・すく がに [縁盡](名) 縁にまかすこと。縁次 えん・すき な [縁附](名) 緑附くこと。 嫁入する えん・ずか いる[縁東](名)緑側の下の束柱。「し。 動、カ下一)結婚させて妻とする。 「婚して寒となる。

えん-せい [鹽稅](名) 中華民國で、政府事質の題えん-せい [塩](遠逝](名) ●遠くに旅行すること。 えん-せい[延性](名)【理】長く引伸ばし得る物質えん-すけ」と【圓助](名)一圓の隙語。「の性質。 えんせい は [遠征] (名) の遠く征伐に出かける えんせい [厭世](名) 世の中を厭ふこと。(樂天のえん・せい [翳井](名) 鹽分を含んだ水を汲む井戸。 に課する税の こと。●遠くに旅行すること。遠くに試合などに出 悲觀する人。一かん こへ (厭世觀)(名) の[哲]對)一か [厭世家](名) 厭世觀を抱く人。よく かけること。 換し、ショベンハウエルは人生を「悲の谿」と呼んだ。 しゅぎ [版世主義] (名) 【哲J Pessimism)世界進取の氣象を失って何事にも興味を感ぜぬこと。—— キレネー派のヘゲーシアスはこの立場から自殺を推 場所とし、現世なのがれて 滿足しようと する主義。 く、從って價値と快樂を目的とする人の住み得ない 及び 人生は 有償値なるものより 無償値なものが 多 世界に對する悲觀。日【心】自分の希望が達せられず、 「の死ぬこと。

の大官。政治家。中華民國第一次の大總統。河南省えん-せいがい。然…[袁世凱](名)【人】支那清朝 陳州府項城縣の人。宣統帝の三年、 内閣線理大臣と

五年)歿。年五十八。(「灿朮) 起動がた組織し、正式大は、清帝の退位後、臨時共和政府を組織し、正式大

建敬を加へて分離させること。 のでは、

て質値のない石。まがひもの。

の山に 轉ず (句) (栞子央勢篇の句) 勢が急激で名心・せき [法[国石](名) まるい石。 - を千仞えん・せき [筵席](名) ときもの。座席。

本 (名) 演説の為の合合。

(名) 演説の為の合合。

(名) 演説の為の合合。

(名) 演説の為の合合。

関形の小斑を呈するもの。ぜにたむし。 とん・せん は、「遠戦」(名) 遠く離れた所から大砲などを撃ちある戦争。

- あたかも。 きながら。 そん・ぜん [療然] (名・副) そっくりそのまま。 そん・ぜん [療然] (名・副) にっこり笑ふさま。

そん-そ「長鼠」(名)【助】海に接む風。どぶれずみ。 色しとやかなさま。 母美しいさま。 へこ やかなさま。 日美しいさま。

えん・そ [鹽酢] (名) 日頭と酢。日酒と費油。日味噌たん・そ [鹽酢] (名) 日頭と酢。日酒と費油。日味噌の果名。

るもの。黄緑色で惡臭がある。空氣より重く、他の썼二酸化マンガンに强鹽酸を加へて徐徐に熱して生す之一酸木了(名)【化】(Chlorine) 氣體元素の一。

ら漂白劑の原料又は殺菌劑として用ひる。 焼を助け、又、植物性の色素を褪色する作用があるか

きっぱりの様々には質ります。 そん・そ 4 ← [遠離] (名) 「えんしょの古語。 ← あわ を せょう。 [戦書 台 (名) 「えんしょの古語。 ← あわ を せょう。 [戦書 台 (名) 「えんしょめはせ」の古語。 本 を (域離人) (名) 「湖は魚の集まる所、 数は を (域離人) (場は魚の集まる所の意)物事のより集まる所。

い 55、「演奏會] (名) 音樂な演奏して職衆に鑑賞 とんてわらは「関巻] (名) 音樂な奏すること。 --か とんそら (演奏] (名) 音樂な奏すること。 --か とんておらは「関修] (名) 音樂な奏すること。 --か としてわらは「関修] (名) 音樂な演奏して職衆に鑑賞

えん-そう 號 [圓相](名)【佛】禪宗で、「悟」の表象

をんぞう !! (離版) (名) しほにつけること。したんぞう !! (離版) (名) しほにつけること。とんぞう !! (離版) (名) うりかにくむこと。とんそく [優息] (名) (値は臥すの意)ふせりやす

えん・そく「[聚塞](名) せきとめること。―・と「[版 塞湖](名) 「地」目前の土砂が河に落込か、又は火山 窓湖」(名) 「地」目前の土砂が河に落込か、又は火山 窓湖 「名) 「地」目前の土砂が河に落込か、又は火山 窓湖 「名) 「地」目前の土砂が河に落込か、又は火山

こととなる「記す」です。 は、すまでといることを「記す」でする「職素族原素」(名)【七】の

えん・そん ほん (遠村) (名) 遠い村里。 そん・そん はん (遠孫) 名) 遠い血筋の子様。 そん・たい (延滯) (名) 这が海ってはかどらぬこと。 その時日に塵じて支持ふべき利息。 といとな (発度) (名) なまの兵海した時、 その時日に塵じて支持ふべき利息。

えん・たい [鸚龍] (名) なまめいた姿。 えん・だい [漆塞] (名) 護がの頭もっる時に前に えん・だい [演塞] (名) 護がの頭もっる時に前に えん・だい [演塞] (名) 護がの頭もっる時に前に そん・だい [漆[遠大] (名) ●規模の大きいこと。

えん・たく 注: [國卓 会談] (名) 「政XRound table discussion) 國卓を職人でする令講で、最近多くの國際會議には國車を用ひる。これは席順を争ふことを勝り終である。

えん・タク L禿 [圓一] (名) 一圓タクシーの略。料金一圓で一定の區域を走る自動車。市内一圓均一自動車。

ばしゃ。ぱしたからいふ)乗合馬車。がたばしゃ。がたくり

えん-たん[鉛升](名][也((Minima))炭酸館全徐徐 (空氣中で熱する際に生する 赤色指高性の粉末で、 数材の鱗止料とし、又 約49年フリント・硝子の製造・ 電気工業等に用ひられる。 「組の相談・結婚の話。 たん-だん [漢 擦] (名) 嫁取り・嫁入り・顰養子の縁 えん・だん [漢 擦] (名) 嫁取り・嫁入り・顰養子の縁 なっ項。――せんりょう。!! [演 遺 占 領] (名) 「衛 などで、野添薦員などが議事を行妨害の目的で、 破倉に起時間渡航を銀行すること。

そん・ちょ~- [遠地] (名) の遠い土地。の地に遠さかること。―- てん[遠地] (名) 天気名の底をりずがまった。一年 (原地] (名) 天質令の制度で、季・漆等そん・方は、「園地] (名) 大質令の制度で、季・漆等を大きばらた土地。人長の私有財産として各戸に給奥を栽培した土地。人民の私有財産として各戸に給奥を栽培した土地。人民の私有財産として各戸に給奥を対した。

えん・ちゅうどく「鉛中毒」(名)「豊」館の書に中って起こる病氣で、激烈な胃腸炎の症狀を呈し、ついてないこる病氣で、激烈な胃腸炎の症狀を呈し、ついていれば、大いのない、又は餡を含んだ白粉を常用することが原因となる。

れ寄生生活を勢み、嵯峨異體。蚓蟲・十二指腸蟲の頬。 動物の一。健は圓筒形で雨端尖り煙節を有さない。柢動物の一。健は圓筒形で雨端尖り煙節を有さない。柢動」 「圓 蟲類] (名) 【動】蟾形

えんちょう いい[延長](名) □長く延びること。 えん・ちょ[延佇](名) 長い間立ちどまること。ただ とう い[延長記號](名)【音】樂譜發想記號の の一端から外に向かって引きのばした部分。---き 長く延ばすこと。●幅。ひろがり。●【數】有限直線 一。或音符又は休止符の上若しくは下にへを附配し

長くなった線。「と。□あさはかでないこと。深長。 ーせん[延長線](名)ひきのばした線。のびて て、特に延長して炎唱すべきを示すに用ひるもの。 物事の奥深い所。どんぞこ。深い事情。

えんちょく [鉛直](名)地平線に直角なこと。 えんちょうきゅう 淡な [圓頂丘](名) 【地」の 傾斜の山體を形成したもの。 少い熔岩が、流動性に乏しく粘性に富むことから、急 氷河の削磨作用によって生じた平坦な饅頭形が集合 --せん[鉛直線](名)【理】物盤を終で吊した時 した観ある丘。●酸性で温度低く且瓦斯の含有量の

えんちょうほ、[圓朝](名)【人」にさんゆうてい えんちょうないら[園長](名) 園と称する所の長。

「えんちょう」。

えん-ちん [禿[圓珍] (名) 【人] 天台宗寺門派の開 の絲のつくる直線。又、地平線に直角をなす垂直線。 ーーめん [鉛直面] (名) 【理】地平面と直角をなす

寺門との區別を生じた。寬平三年(一五五一)寂。年 得て、園城寺を傳法灌頂道場とした。これより山門と 飆、智證大師。 貞觀十年、延暦寺座主となり、 勅許を えんとう い [鉛糖] 名) 【化】(Sugar of lead)白

えん-てい [堰堤] (名) 【工I(Dam) 河海の水をた えんつずきでいる[縁續](名) 親類たる縁のつな えん-つう [念 [圓通](名) 【佛】圓滿無碍のさとり。 ーだいし[圓通大士](名)【佛]観世音の異稱。

> えんてい [淵底] (名) こふちの底。深みの底。 えんてい [炎帝] (名) 〇火を掌る神。〇夏を掌る えんてい[沿堤](名)堤助に沿うた所。 める爲に、水路を横ぎって石や砂などで築いた堤跡。

空。 の夏季に日の照ること。 自南方の空。 えんてい [版[園庭](名) その。には。庭園。 えん-てき [慈満] (名) のきのあまだれ。 えんてい。然[園丁](名)庭っくり。植木屋。庭師。

えんてん き [遠點] (名) 【理」或物體を眼前から 遠ざけて、遂に明らかに親ることが出來なくなる境

えん-ちょういい。[国頂] (名) ロまるいあたま。坊 えんちょうない。[遠長](名)の遠く寂いて長いこ

主頭。●坊主。僧。―-こくい [圓頂黑衣] (名)

ほい頭に墨染のころも、即ち僧の姿。

えんてん 然 [宛轉](名) 〇ゆるやかに動きめぐ えんてん は [国轉](名) のまるくめぐること。日 從ひ行くこと。

えんと ぬ~ [遠圖](名) 遠大なはかりごと。 えん-てん [鹽田](名)海水から食鹽なとる為に設 かどだたすに移り行くこと。一かつだつっても に離局をも切りぬけること。「けた砂田。しほはま。 [圓轉滑脱](名) かどだたず、よく變化して巧み

えんとう 特[鉛刀](名) の鉛でつくった刀。なま エンド [End] (名) 終り。最後。死。 ざる譬。●自己の微力を謙遜していふ語。 くら刀。●鈍す。—の一割(句)(左太冲の詠史詩 にあはせに任に當ること。●一度以上は用ふべから に「鉛刀費*一割」」とあるに基づく)●鈍才ながら間

えんとう [[] [] (名) [」 (Cylinder) 定直線 えんとう[煙筒](名) ●けむりだし。煙突。 えんとう[養頭](名)のきさきのきば。 し酸鉛。 色の結晶體で、酸化鉛を醋酸に溶解して之を濃厚に **慥で、甘味を有し顔料の製造及び醫薬に用ひる。醋** して得るもの。水に溶解する。白色の光輝ある結晶 ė エントラスト [Entrust] (英、動) 委任する。

8 **の周りに回轉して生じた立體。** の三つによって園まれた立體。又、矩形がその一邊 この圓壔曲面と母線に交はって五に平行な二平面と に平行しつつ、奥へられた側周を通過して運動する 直線 (母線) によって 生する曲面を圓塔曲面といふ。

えんどう [[筵道](名) 天王の御通路などに筵 た流罪。しまながし。 渡・薩摩・肥前の五島・天草島・隠岐・壺岐などに送っ と。追放より重く、死罪より輕い。即ち伊豆七島・佐 「などを敷いたこと。

倚り、葉は羽狀複葉で、頂部に卷鬢を出す。春、白色 草本。堕葉共に帶白綠色で、莖は卷鬢を以て他物に 又は紫色の蝶形の花を開き、莢を結ぶ。種子・嫩莢は

えんどく ほ (怨毒)(名) まだしく怨み恰むこと。 豌豆の種子。 【醫】(ほうそう)(疱癬)。――まめ [豌豆豆](名) 食用に供せられる。 --そう 引 [豌豆瘡](名) 「絲の來ることの遅いのにいふ。

えんとして きに [宛として](副) さながら。 えん-どく[鉛毒](名) 〇鉛に含まれる毒。〇【腎】 こる劇痛の (えんちゅうどく×鉛中毒)。 --せんつう [鉛毒 疝痛](名)【醫】慢性の鉛中器が原因で、下腹部に起

えんとつ [煙突・烟突] (名) 空氣を内に導き、 昭和六年十一月、川崎市富士紡績工場の勢動争議に 計った男。--せんじゅつ[煙突戦術](名)【社】 り、同志を鼓舞して、筆識の解決を早からしめんと 等の空筒。けむりだし。えんとう。ーーおとこました 烟突男の採った尖端的・怪奇的の戦術。 [煙突男](名)【社】勞働爭議の際、煙突の項上に上 して設けた直立した 鐵板・銅板・土管・コンクリート を外に出して、よく燃焼せしめる為に、燃烧室に聯絡

えん-どん … (圓頭)(名) 【佛]領速に天台宗の刊 いだん [圓頓飛壇](名)【佛]圓頓成を授ける戒の妙旨に基づいて利他積極の意を示す戒法。——か と。―かい [圓頓戒] (名) 【佛】天台宗で、四頓 数(大乘究極の質数)の無碍自在なる境地に達するこ

えんとう (* [豌豆] (名) 【植」宣科の一年生栽培をんとう (* [遠道] (名) 遠いみち。 しみちべり。 えんとう (** [遠道] (名) 遠路に沿った所。沿路。 島。〇江戸時代の刑制の一。犯罪者を遠島に送るこえんとう ほん[遠島](名) 〇陸地から遠く離れた えん-に [艶に](副) つあだあだしく。色めきて。 えん-にち [線日](名)(有線の日の略)神佛に降誕・ えん-なげし [綠長押] (名) 【建】綠側の上の柱に はれる日。―あきんど [縁日商人] (名) 経日 示現・智願など、何らかの縁があって、祭典・供養の行 ●優美に。上品に。 (名)【佛】天台宗の称。 旨を説く教)天台宗の数。 壇。―きょうい[団頓教](名)(佛)(回頓の妙

ーしゅう「回頓宗 「取附けた長押。

ion)地球の軌道で太陽に最も違い點。ゑんじつてん。 えん-にゅう : [圓融] (名) (えんゆう)。 に路傍で露店を出す商人。

えん-ねつ [炎熱] (名) 夏のきひしい暑る。 えん-にん [延任] (名) 地方官の四年の任期が満ち たのに、尚任期を延ばして滯在せしめること。

えん-ねん [延年] (名) ●語命を延ばすこと。BCえ (歌い舞って、齢を延げ んれいそう)(延齢草)。一まいる[延年舞](名 んれんまい。ーそう引[延年草](名)【植」くえ

行った一種の舞。ちご 會の餘與の爲、僧侶の 寺・興福寺などで、法 中世の劇的歌舞。延暦 し、心を樂しませる意) (兒)の行ふのか見延年

[舞 年 延]

えんのう 気 (延納)

えんの、おつぬ ……。 [役小角](名) 【人Kえんの (名) 期日におくれて納附すること。

そんのでようじゃ。……「(役行者)(名)【人)修 験道の肌。大和闽嘉城郡の人。本名は役小角(秋など)。 勝道の肌。大和闽嘉城郡の人。本名は役小角(秋など)。 修歌を持む。文武天皇の別、魏によって捕へられ、伊 互属に滞きれ、大寝元年(一三大一)数された。寛敦十 一年、神經大菩薩の宣樂を賜はる。

そんばい [競権] (名) (書報の歌命篇に「著作』和 そんばい [煙煤] (名) 漂氣の立ちこめた中に立つ海 をんばい [煙煤] (名) すて。ゆえん。 文字。うえんば(高海馬)。 「波の」

えんばく [鉛白] (名) 【化】 (White lead) 鉛板をえんばく [燕麥] (名) 【相】からすむぎ。

神に浸した上、空氣と炭酸とに作用せしめ、若しくは 炭酸鉛や硫酸に溶解し、 無水炭酸や通じて得る白色 の粉末で「おしろい」の原料・槍具・ベンキ・印刷用イ ンキなどに用ひる。

たんばな [線柱] (名) [基]線側の外にある柱。 たんばな [線柱] (名) (編)の端。 たんばな [線柱] (名) (編)の端。

会か流し込んで作った印刷版。ステロ。 会か流し込んで作った印刷版。ステロ。 会企を流し込んで作った印刷版。ステロ。

そん・ばん [鹽盤] (名) 食鹽にする海水を濃厚ならとから落に用いる。たたき」又は「セメント」で他のしめる為に用いる。たたき」又は「セメント」で他のという。ことをなっていまった。

たんではん 法(「国 解」(名) 国教技に用ひる金園製の側く平たい盤。 - なげ [国 解投](名) 技物 つ の 回数を投げて、実の距離の長短を競ぶこと。 たん・び (満尾」(名) 母と(30 異名) 母と

えんび 4.** 「婉美」(名) ひさしく美しいこと。 えんび 「熊飛」(名) なもかしく美しいこと。 えんび 「熊飛」(名) 海の飛ぶやうに、身がるに宙 がへりすること。 たんび 4.** 「猿轡」(名) 〇粒のやうに手の長いこ たんび 4.** 「猿轡」(名) 〇粒のやうに手の長いこ

えんび-せん [鉛 被線] (名) 母級のやうに手の長いこと。 母子のばして物を掘む時の手つき。 のあるここ。 接途 「館管で被うた電線。のあるここ。 接近 「銀 で で しょ の はって 物を掘む時の手っき。

えんがつ[鉛筆](名)(昔は、鉛を用ひたから、こ

の名がある)黒鉛と粘土の粉末の混合物を高熱で燒

世で、スケッチ 又は裁稿 ・ 「本」、「「計「・」(名)【美」館筆で描いた。──が、「三時代の始めにオランダ人から輸入された。──が、「三 [鉛 筆 書](名)【美」館筆で描いた。──が、三 [鉛 筆書](名)【美」館筆で描いた。

はじの無の意無樂の(なじの無の意無樂の(なじの無の意無樂の(なじの無の意無樂のなど、左右の伶人、などの無の意無樂のなど、左右の伶人、などの無いなど、左右の伶人、などのは、大きないない。

[舞

えん-ぶ [閻浮] (名) 【佛】のえんぶだい。 のえんぶ 【佛】この世の人。 凡夫。 報](名)【佛」現世でうける果報。――じゆ[閻浮果じき。●えんぶだこん。――かほう [四八] 閻浮果 し、災を消す姿だといふ。 【佛】此の世に於けを汚れた物事。一の身 で、常は赤黄で、紫屑を帯びるといふ。一の塵(句) 【佛】閻浮の大森林中を流れる河の中 に産する 砂金 現世の稱となった。 -- だごん [閣 浮檀金] (名) となり、吾人の住する人間世界の稱となり、又、此の が、その他の國、即ち日本・支那などなも称すること 南瞻部洲・南関浮提ともいふ。もと印度の称であった 山の南方海中にある三角形の島で、須彌四洲の一。 緑灌木で、高さ百由旬あるといふ。 ―しゅう にあると傳へられる樹。桃金鑁(エイム)科に闘する常 樹] (名) 【佛】(梵 Jambu) 佛典に周浮提の大森林中 提](名) 【佛】(梵 Jambu dvipa) 閻浮洲の意。須瀾 [閻浮洲] (名) 【佛】えんぶだい。 ― だい [閻浮 何

えん・ぶ 4e-[怨府] (名) うちみの集まる所。 えん・ぶ [偃武] (名) 武器を用ひぬこと。戦争のなさまること。

エンファサイズ [Emphasize] (英・助)語妙を強エンファサイズ [Emphasize] (英・助)語妙を強之んぶっきょく [At-[[国郷曲] (名) [音] (Wait) 三拍子の優雅な舞曲。ワルツ。

えん・ぶく[製繭](名) 異性の人に愛せられること。 エンプロイ (Employ](英、名・動) 〇仕事・職業。 ロ原権する。

エンプロイメント [Employment] (名) 雇主。主人。 元。使用。仕事。感染。——オフィス [Employment office] (名) 雇人口入所。 エンプロイヤー [Employer] (名) 雇主。主人。

エンプロイヤー [Employer] (名) 風宝。主人。 をんぶん [符文] (名) あやまって挿入せられた不 をんぶん [際文] (名) 懸愛の事を書いた手載。え えんぶん [際] (名) 懸愛の事を書いた手載。え えんぶん [際] (名) 色めいた風間。

えん~い !*. 「探兵」(名) すくいの事勢。加勢。 えん・マー !!た !! (名) けんれでうちむこと。 えん・マー !!た !! (名) わかれでうちむこと。 えん・マラー [Emperor] (名) 皇帝。 そん !! (る) !! (名) !! (A) !! (A)

えん ぼう (然) (深) 望) そり うらめしく 思ふこと。 えん ぼう (法) (港(業) (名) 道い所。道くの方。 えん (ぼう) (法) (港(業) (名) 道い所。道くの方。 えん (ぼう) (株(業) (名) 道い所。道くの方。 えん (ぼう) (株(業) (名) 道い所。道くの方。

出たのが始めて、漸次流行した。 大正十五年の秋「現代日本文學全集」が改造社から大正十五年の秋「現代日本文學全集」が改造社から

えん-ま [閻魔] (名) O【俳】(梵 Yama rāja 閲覧器 [閻魔蟋蟀·油胡蘆] (名) 【動!蟋蟀の一種。 億長い でうなこはい顔。しかめづら。 ——こおろぎ 引にいるの尊称。 ——がお 引 [閻魔顔] (名) えんまの 個質堂に参詣すること。―ら [閣魔雅](名)【佛] 料を調べて留めおく手帳。―とう 引 閻魔堂 師が生徒の採點や行狀をとめおく帳簿。●巡査が罪 閻魔が亡者生前の罪惡を書きとめておく帳面。●数 の尊称。――ちょうい。[閣魔帳](名) 〇【佛】 問魔殿にゐて命を受けて罪人を背責する獄卒。鬼卒。 草・綿等を食害する。――そつ [閻魔卒](名)【佛】 體長より長く、雄は晩秋に美聲を發する。豆·栗·煙 約二五耗、黒褐色。大なる頭を有す。觸角は綵狀で くぎゅき。-おうい[閻魔王](名)【佛」えん 抜きとるといふ傳説に基づく)むごたちしい心の人。 ななすものを用いる。●(俗に閲覧王が歳音者の舌を たものを描いたが、近時のは、支那服を着て忿怒の相 闇の略)地獄に住み、十八の將官と八萬の獄卒とな從 し、又、地獄の釜の蓋が開く口と傳へて、佛教信徒が 【佛】毎年一月十六日と七月十六日を開覽の齊日と稱 な取調べる法廷。——もうて ?→ [閻魔詣](名) ¥1.5 [閻 魔 廳] (名) 【俳】 えんまが亡者生前の郭麗 (名)【佛】えんまを祭ってある堂。 ―-の-ちょう ーだいおう い… [閻魔大王] (名) 【佛] 間質 像に似て左手に人頭をつけた雄を持ち、水牛に乗っ して、不善を防止する大王。その像はもと普通の佛 へて、地獄におちる人間の生前の善惡な審判し懲罰

えん・まく [煙森] (名) [軍軍事上、敵眼から我がたん・まく [煙森] (名) [軍軍事上、敵眼から我が要命から成る發展刺へ、順逐艦や飛行機等から發射・ 要命から成る發展刺へ、順逐艦や飛行機等から發射・

密教の神。轉じて閲覧の称。―-く[焰摩天供]

(名)【佛】密教修法の一。罪人を助ける爲に、炤察天

えん-まん は [國藩](名) 日十分に満ち足ること。 ●生典がなくておけたやかなこと。 国産情ではげしく ないこと。 ― じしょく [國藩 辭職](名) 永い 間、少しの過失・缺點なく動勢し、自分の意思から群 職すること。

えん・む [烟霧] 名) ●燗と客と。 ●細塵が空中に、 えん・むすび [線棒] 全り ●燗と客と。 ●細塵が空中に、 迷信。男女の名と年齢を続け、夫婦とはらんことを どに紅指又は小指で結びつけ、夫婦とはらんことを 断ること。 ●一種の遊戯。多くの男女の名を別別の 紙片に記して捻り、無心に合はせ結んで偶然の配合 な占ふこと。

えん・めい [延命] (名) いのちた延げすこと。 **さく** [延命] (名) いのちた延げすこと。 **さく** [延命 新] (名) [相 漢料の多年 生教培草本の高さ一〇一 五糎位。 東は道形で細鉛 顔 が あ り、長い葉柄を有す たぬかねき、白色叉は帯紅 たぬかと 5日と 又はして 思したなくなんよう

いめんえこ

色の花を開き、秋垣まで絶えず咲く。ひなぎ (名) 資物の一。綿の袋の腹をふくらせ、口を括った (名) 資物の一。綿の袋の腹をふくらせ、口を括った (名) 資物の一。綿の袋の腹をふくらせ、口を括った (名) 変物の一。綿の袋の腹をふくらせ、口を括った (名) 変物の一。綿の袋の腹をふくらせ、口を括った

えん-もく [蔣目] (名) ゆょく見える目。 中他人のためる [蔣目] (名) 宴會の席次を早齢順に

たいらん は、 を入りもん は、 を入りもん は、 などの時、東でかきなつくり、出入の所は、車をあた などの時、東でかきなつくり、出入の所は、車をあた なけ、 を促ぶを相對せしめて門をなすやうにしたこ とに基づく)陣屋の門。 軍門。

たんや「野伯」(恋) 重いものをあげる時者しくは率えんや「野伯」(名) 海水を煮て鹽を製し、輸山を入かや「野伯」(名) ないを煮て鹽を製し、輸山を入んや「野伯」(名) なまめいて美しいこと。

そんゆう は、『元国』 (名) 草木を植る、又、禽獣なたんやらやっと (副) できるだけの力を出して。そんゆう (質・確有) (名) ウナリッドより。 由来。 つづきたりの [後山] (名) おほび保でこと。

えんらい 流[遠雷](名) 遠方に鳴る雷。

を入心ゆう AA [圓融] (名) ●田端に滯らぬこと。 を入心ゆう AA [圓融] (名) ●田端に滯らぬこと。 像く騒通すること。の(券) 切前法の事理、道く融 像して無 | はること。 みんにゅう。

全人の少うか。 を入めううか。 をいて、襲撃力の銃鳴場を設けて撃艦すること。 そんゆうてんのう。 たいて、襲撃力の銃鳴場を設けて撃艦すること。 たいて、襲撃力の銃鳴場を設けて撃艦すること。 たって利力を銃鳴場を設けて撃艦すること。 たって利力を が出て、 を加けて、 を加けて をし を加けて を加けて を加けて を加けて を加けて を加けて を加けて を加けて を加けて

そんよう [野俗] (名) の食ひあきること。 ロ親しい そんよう *** 「野陽」(名) あきたること。いやになるこ そんよう *** 「野陽」(名) 三四月頃の学節。 そんよう *** 「野陽」(名) 三四月頃の学節。

の航海に堪へる船舶で、漁具・漁艇を積み、魚の貯蔵・一・ぎょぎょう。 [1] [遠洋 漁業] (名) [漁]選洋

「加工の設備なれ」選挙を航行して行ふ漁業。——1 うかい。」。「選挙・航行して行ふ漁業。——1 ので、内国と外国との間を交通すること。の「日子海軍 ののお財候補生及が初級車警士官が、艦上作業の實際 を練習する珍、練習機能を編成して海外を漁館する珍、練習機能を編成して海外を漁館する珍、練習機能を編成して海外の遺跡 下と。——2うろ。」。「選挙・航路」(名) 選洋航 を、海の航路。現在の我が国では、ヨーロッパ・北アメリ 本の市アメリカ・オーストラリヤ(の四航路がある。 そんよう」は、「統谷」(名) しとやかな姿のできしい

そんよう 法 [婉容] 名) しとゃかな等。やさしい そんよう 法 「接用] 名) ひき用ひること。 そんよう [法 接用] 名) (明日 原羅爾の密) こと。 そんら [閻羅] 名) (明日 原羅爾の密) こと。 それら [閻羅] 名) (明日 原羅爾の密) よんまっ 一おう り、[閻維王] 名) (明日 にんまおう。

えん・り [垣離] 名) まがき。かさ。 えん・りゃく [述] 野子 (名) 【佛送賀縣送賀郡 そん・りゃく [述] 医暦 (名) 有武天皇神宇の年號。七年、僧最澄 比叡山延所寺を創建し、十三年、都を京都「選し、平安京と様す。 (『聖三)

と歌山にある天台宗の歳本山。延居七年(一四八八) を歌山にある天台宗の歳本山。延居七年(一四八三) を歌山にある天台宗の歳本山。延居七年(一四八三) がい、奈良(南都)の諸寺に對して、北嶺といふ。 いい、奈良(南都)の諸寺に對して、北嶺といふ。

えんりょは(遠慮)(名)の違いさきざきのおもん れて、遠き將來の事を考へなければ、必ず目前に迫る 憂あり(句)(論語術類公篇の句)目前の安きに慣 表し、門を閉ちて籠居したこと。一なければ近 者が微罪により、又は他人の罪に坐して讃悼の意を ばかり。深い考。⊖人に對して控目であること。 人に對して謹慎すること。四江戸時代に、身分ある

宮の北門にあった前。慶應二年、濱御殿が海軍奉行えんりょうかん『54』[延遼館] (名) 東京濱雕 えんりょうい。[炎凉](名) のあつさと源しる と。母勢力の榮えると衰へると。

えん・るい。5. [鹽類](名) [化]えん。――せん[鹽 えん・るい。5. [縁類](名) 結婚・縁組にょるつづき えん・の [縁類](名) 歯の林。 「あい。娘戚。 シウム等の鹽類を含んだ、鉄泉。群馬縣の伊香保・箱 類泉](名)【地】食鹽・硫酸ナトリウム・硫酸マグネ の所管となった時築建されたもの。 根の塔ノ澤・静岡の熱海等の鉄泉は之に屬する。

えんれい [延齢] (名) 蘇命を延ばすこと。ーーそ えん-れい [野麗] (名) なまめかしく美しいこと 根・莖は単一で直立し、 う 計 [延齢草](名) 【植】百合科の多年生草本。溪 間の濕地に自生する。

する。五月頃、帶紫色 を開く。一たん[延 の専片のみで無機の花 薬は巌卵形で三葉輪生

(草

齢丹](名)【薬】山城の 人延壽院玄朔の袰した江戸時代の薬

えんわさい [燕窩菜](名) えんす(病巣)。 えんろうい[煙浪](名)えんば(煙波)。 えんろ ~~ [遠路] (名) 遠い路。 えん-ろ * ~ [圓 顧] (名) まるいあたま。坊主あた えん-ろ[沿路](名) みちべり。沿道。 えんーれい は [婉麗](名) しとやかで美しいこと。 ₹,



お な ●五十音関「わ行」の第五位で、お段の韻とな る。●昔は、「う」を從音、「お」を主音とした綴音で る。●「あ」と「う」の中間母音。「う」よりも脣を稍、 慶く舌の後部を稍、低くして發する。

●「於」の草體。 ●五十音圖『あ行」の第五位に位し、お段の韻とな

お

お な(助詞)●名詞について他動詞の目的をあらはす あった。●「遠」の草韻。 ちぢにそむらん」。四語調を整へる無意義の語。「八 はす語『白露の色は一つーいかにして秋の木の葉を 表はす語。「家ー去る」。●事の意外なる意義をあら 語。「物ー買ふ」。●自動詞の動作の行はれる場所を

お[阿・於](接頭) 婦人の名に冠する語。お[御](接頭)(「おほ」の約)或語に冠して尊敬・鄭重 **重垣作るその八重垣―」「見つつ行かん―」。** (感) 驚いた時の螢壁。 「の意を表はず語。

お々 [雎](私) たとこ。男子。たのこ。お々 [唯](感) 應答の聲。はい。 おを「麻・苧」(名)の【植】ある。からむし。日ある お を [吐・雄] (名) ●動物では精子を有するもの。植 お を [夫](名) ●をっと。良人。●一人前の男。 からむしの葉皮繊維からつくった緑。 物では雄蕊のみを有するもの。●をとこ。(古語)

お を [尾](名) ●【動】鳥獣・蟲魚等の後端から長く伸 お を [緒] (名) ● 細長い線像物。 絲叉は紐など。 ● 後方に長く延びた部分。をはり。する。 び出たもの。しっぽ。尻尾。●山の裾の延びた處。● ら十絲。四物事の長く續くもの。 履物にすげて足にかける艇。 ■樂器に 張ってか きな

おを(感)感歎の聲。や。よ。 お~ [峰・丘] (名) ●山の高い所。●(おか)(岡)。(古 [小](接頭) ●細かく小さい意をあらはす語。

おあいそう。……[御愛想](名)の飲食店などで おあいな…… [汚穢](名) 鐵屎。けがれ。なわい。おもいな…… [汚埃](名)けがれたあくた。 客に出す勘定書。⊖人なもてなすに情致あること。 ●物を親しんでやさしくいひあらはす語。「ー琴」。

お-あさ ---- [雄麻] (名) 【植】麻の雄莖で、果實を おあかし[御明](名) 燈火。らふそく。(女房詞) 生ぜぬもの。 の鄭重語。おきのどくさま。

お-あし [御足](名) 日足の敬稱。日銭の異稱。 オアシス [Oasis] (名) 沙漠中で水が湧き、樹木の 商の休息所となる。 生えてゐる所。沙漠中の豐饒な土地。沙漠横斷の隊

おいき「唯」(感) 〇(お)(唯)。〇呼びかけの聲。— お-あわせ い [緒合](名) 【音】琴・琵琶等核樂器の おいいのは、(感) (おい)を重れていふ語。 「合奏。ひきあはせ。

おい(感)(同輩又は目下のものに對していふ語)の

呼び掛ける壁。目呼びかけられて答へる壁。目やや

おい[老](名)のおいること。年が答ること。年積つ 物を見ること。一を送る(句)老後の生活をなす。 ろこと。一の解目(かず)(句) 老人のひがんだ目で ていふ。一の寝覺(句)老人がよく夜中に目覚め 波に譬へていふ。●年の寄るのを波の寄せるに譬へ 辛音を重れて者早に置るな、坂を越えるに譬へてい が同じ事を幾度し縁返していふこと。―の坂 (句) て貴ぶこと。又、その老人。一の繰言(何)老人 黯いた時に發する聲。 又、老人な手厚く扱ふ。 餘生を送る。―を養ふ(句)老體の靜養をなす。 ふ。 — の波(句) ● 年老いて顔に皺の寄ることを 一の方人(句)年老いた人なその道の經驗者とし 老人の頑固で、思ふことをおし通さうとすること。 て衰へること。日年より。老人。 一の一徹(句)

おあいにくさま「御生僧様」(名)「あいにく」 おいき[笈](名) (タ゚゚)に似、四隅に脚があっ れて背に資ふ箱で、葛飾 具・衣服・食器などな入 僧・修驗者などが、佛

〔笈

て、開閉すべき戸を設けたもの。

おいまり「追」(名)の背に資かこと。のひきうけるこおいまり「追」(名)の追かこと。の追銭はかの略。 おいな。「物」(名)已の兄弟・姊妹の生んだ男の子。 と。母借金。

おいいずいる(たけいで)[生出づ](自動、ダ

おいいり、老人」(名)おいいれ。「(おいだす)。おいいだすは、「おいけ](追出す)(他動、サ四) おいうつはなける」[追撃つ・追討つ](他動 おいうちば[追撃追討](名)かひうつこと。 おいうぐいすいか[老常](名)【動」晩春から夏 おいいれ「老人」(名)年老いたことの又、其の境遇 にかけて鳴く驚。 夕四) 逃げる敵を迫ひかけて撃つ。 下二] ●生まれ出る。●生えて芽を出す。 「つぬけきの

お-いえ …らへ[御家](名)●貴人の家又は他人の家 の敬稱。日他人の妻の敬稱。奥様。――きょうげん 優などの得意と 又は狂言。●俳 の[御家物](名) ●【文】御家騒動をしくんだ小説 動などの類。―ほお間(御家頭)(名) 兜の面類 で、寵臣・愛妾などが起こす騒動。加賀騒動・黒田騒 うどう [御家騒動](名) 大名などの一家 (あれ)の皺のないやうに滑かにつくったもの。――も (流家御)

おいおい話[追追] (副) しだいしだい。だんだ 戸時代の公文書は此の書體に限られた。 和樣書體の一。尊圓法親王の筆法を傳へたもの。 [御家流](名) 江.

ーりゅう して演する藝で

二七

えんり―おいお